

# もっと出会おう もっと話そう

## 地域ぐるみの学校安全 Ⅱ

91校の実践事例



京都市教育委員会

# 子どもを共に育む 京都市民憲章



わたくしたちのまち京都には、子どもを社会の宝として、愛し、  
いつく  
慈しみ、将来を託してきた、人づくりの伝統があります。

そうした伝統を受け継ぎ、人と自然が調和し、命のつながりを  
大切にして、子どもを健やかで心豊かに育む社会を築くことは、  
京都市民の使命です。

大人は、子どもの可能性を信じ、自ら育つ力を大切にして、  
子どもを見守り、褒め、時には叱り、共に成長していくことが  
求められます。そして、子どもを取り巻く状況を常に見つめ、  
命と健やかな育ちを脅かすものに対して、毅然とした態度で  
のぞ  
臨む必要があります。

わたくしたちは、子どもたちの今と未来のため、家庭、地域、  
学校、企業、行政など社会のあらゆる場で、人と人の絆を結び、  
共に生きるうえでの行動規範として市民憲章を定めます。



わたくしたちは、

- 1 子どもの存在を尊重し、かけがえのない命を守ります。
- 1 子どもから信頼され、模範となる行動に努めます。
- 1 子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる取組を進めます。
- 1 子どもが安らぎ育つ、家庭の生活習慣と家族の絆を大切にします。
- 1 子どもを見守り、人と人が支え合う地域のつながりを広げます。
- 1 子どもを育む自然の恵みを大切に、社会の環境づくりを優先します。





## はじめに

近年、子どもたちが学校や登下校途上はもとより日常生活のあらゆる場面で様々な事件・事故に巻き込まれ、時には尊い命が奪われるという痛ましい出来事が身近な社会で起こっています。このような状況をふまえ、子どもたちにとって安全で安心できる社会を築くためには、子どもたち自身の危険予知能力や危険回避能力等を高めるとともに、家庭や地域の関係機関・団体と連携しながら学校や子どもたちの安心と安全に関する取組を充実発展させていくことが大切です。

本市におきましては、「学校を取り巻く人々の心のつながりが、目に見えぬ障壁をつくり出すのだ。」(「伏見区小学校事件に関する専門家会議報告書」平成12年12月 河合隼雄座長)との基本的考え方のもと、学校と家庭や地域、関係機関・団体との連携を重視し、スクールガード等の地域ボランティアの方々にご参画いただきながら、社会総ぐるみで学校安全や子ども安全に関する取組を推進してまいりました。こうした取組が京都の伝統である「地域の子は地域で育てる」という理念により、地域社会全体で「安心・安全のまちづくり」等の取組が行われ、平成18年8月には全小学校区に「見守り隊」が発足することになりました。現在、1万9千人もの地域の皆様にご参画いただき、子どもたちを見守る輪が広がっています。

PTAや地域の方々によるスクールガードの地域パトロールの充実や「見守り隊」等による子どもたちの見守り活動、あいさつ・声かけ運動の充実及び安心・安全に関する啓発活動など様々な取組が展開されてきました。そして、地域のみんなで子どもたちを守り育てていこうという意識が一段と高まり、子どもたちの安全だけでなく地域全体の安心・安全を目指した取組を「無理なく継続し、地域に定着させていこう」という考えが広がってきています。

このたび、昨年度に引き続きその取組をまとめた事例集を発刊するはこびになりました。無理なく継続させるための英知等、様々な工夫を凝らした地域ぐるみで子どもの安心と安全を守る91校の取組です。平成18年3月に発行の「もっと出会おう もっと話そう 地域ぐるみの学校安全(90校の実践事例)」と併せて、これで全ての小学校区の取組がまとまりました。これを活用していただき、今後、さらに地域ぐるみの安全の取組が充実していくことを願っています。

平成19年3月

京都市教育委員会

教育長 門川大作

# 目 次

地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業の取組について	京都産業大学大学院教授	藤 岡 一 郎
「多様な連携と活動のカタチ」アイデアが一杯詰まった二つの報告書	立命館大学助教授	谷 口 知 弘
「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」の取組について		
各学区の取組		

## (1) 子どもたちのみまもり活動の取組

地域ぐるみの学校安全「正親見守りたい」の活動	正親小学校	1
地域ぐるみで取り組む「洛央子ども見守りたい」	洛央小学校	2
みんなで守る 地域の子ども ~開かれた学校と地域の防犯活動~	第四錦林小学校	3
地域ぐるみの学校安全体制	六原小学校	4
地域ぐるみで子どもの安全を守る「衣笠みまもり隊」	衣笠小学校	5
地域ぐるみの子ども見守り体制づくり	小野郷小学校	6
地域・保護者・学校が一体となった子どもの登下校時における安全確保	京極小学校	7
安心・安全の町, 西陣!	西陣中央小学校	8
地域や保護者とともに守る 子どもの安全	翔鷹小学校	9
地域とともに「子どもの命を守る」安全活動	朱雀第四小学校	10
子どもの安心安全を守る「朱七子ども安心安全見守り隊」	朱雀第七小学校	11
地域とともに作り上げる「安全」	朱雀第八小学校	12
六条院子ども見守り隊の結成と活動	六条院小学校	13
地域ぐるみの植柳みまもり隊	植柳小学校	14
地域の子どもは地域で守る	淳風小学校	15
子どもたちを地域で守る	光徳小学校	16
地域ぐるみで守る子ども安心・安全	七条小学校	17
活躍! 西大路パトロール隊	西大路小学校	18
九条塔南 安心・安全のまちづくり	九条塔南小学校	19
子どもたちのみまもり活動の取組	南大内小学校	20
地域ぐるみの子ども見守り活動	唐橋小学校	21
地域ぐるみで守る子どもの安心安全	東和小学校	22
地域で見守る子どもたちの安全	久世西小学校	23
地域全体での見守り活動	大原小学校	24
地域ぐるみで守るこどもの安全	別所小学校	25
地域ぐるみの錦林みまもり隊 ~学校・家庭・地域が一体となった子どもの見守り活動~	錦林小学校	26
地域・P T A・学校で守る子どもの安全	養正小学校	27
養徳子ども見守り隊	養徳小学校	28
子どもの安全を守り, 住みよい修二学区を作る	修学院第二小学校	29
放課後の子ども見まもり活動 ~下鴨子ども見まもりたい・アフタースクール	下鴨小学校	30
いつまでも 今熊野子ども見守り隊 ~学校・家庭・地域の連携のもと~	今熊野小学校	31
学校・家庭・地域が一体となった安全確保を	大枝小学校	32
安心・安全ネット活動の取組	上里小学校	33
笑顔で声かけ, みんなで守ろう子どもの安全・地域の安全 ~福西安全見守り隊の結成~	福西小学校	34
地域で見守る大原野のこども	大原野小学校	35

## (2) 子どもたちへの声かけ・あいさつ運動の取組

安心・安全の町 室町	室町小学校	36
地域ぐるみで子どもたちの安全安心を守るために	乾隆小学校	37
地域が見守る子どもたちの安全	朱雀第二小学校	38
元気よく あいさつ 声かけ みんなで子どもの安心安全を	九条弘道小学校	39
地域ぐるみで守る子どもの安全	陶化小学校	40
みんなで意識し, みんなで守る, こどもの安心安全	吉祥院小学校	41
黄帽で元気に登校! ぼくらの安全	祥豊小学校	42
みんなで見守る子どもの安心安全	大藪小学校	43
地域で守ろう, 地域の子どもたち! ~心の通うあいさつで, 今日でも安心・安全に~	岩倉南小学校	44
地域ぐるみで守る子どもの安全	八瀬小学校	45

地域の子どもは地域のみんで守る	市原野小学校	46
地域と学校が協力して登下校の安全を	静原小学校	47
あいさつ運動	修学院小学校	48
子どもを見つめ見守る地域ぐるみの安全活動	上高野小学校	49
「おはよう」「おはよう」明るい声が響きます	清水小学校	50
地域で守り、育てる月輪の子	月輪小学校	51
子どもたちへの声かけ・あいさつ運動の取組	竹の里小学校	52

### (3) 地域パトロール活動の取組

心はひとつ 子どもを守ろう 学区民全体で	紫野小学校	53
楽只 こども あんしん あんぜん パトロール	楽只小学校	54
下校時のポイント式子ども安全パトロール「お帰り当番」	御所南小学校	55
学校・家庭・地域で取り組む安心・安全	洛中小学校	56
子どもの安心安全を守る地域パトロール	朱雀第六小学校	57
子どもたちのみまもり活動の取組	醒泉小学校	58
学校・PTA・地域に守られる梅小路の子どもたち	梅小路小学校	59
地域・保護者・学校が三位一体となって子どもの安全活動	七条第三小学校	60
地域ぐるみで子どもたちを見守る学校安全活動	山王小学校	61
保護者・地域ボランティア・教職員によるパトロール	北白川小学校	62
地域パトロール活動の取組	葵小学校	63
地域・家庭との連携による学校安全活動 ～子どもを地域で見守るために～	一橋小学校	64
地域で見守る子どもの安全 ～子どもを守る「安全パトロール」～	桂坂小学校	65

### (4) 安心・安全に関する啓発活動の取組

地域ぐるみの安心・安全を目指した取組	柏野小学校	66
子どもの安全＝地域の安心	朱雀第三小学校	67
地域が一体となった「あんしん・あんぜん」の取組	上鳥羽小学校	68
学校・家庭・地域みんなでみんなの子どもを育て、命を守ろう	岩倉北小学校	69
地域ぐるみの安心・安全“守ろう境谷の子”	境谷小学校	70
紫明の仲間にありがとう ～笑顔がいっぱい 紫明小学校の安全を守るセーフガード～	紫明小学校	71
安心・安全まちづくり	金閣小学校	72
あんしん・安全 地域ぐるみの街づくり	大將軍小学校	73
学校・地域で子どもを守る	中川小学校	74
学校・家庭・地域で取り組む防犯活動	新町小学校	75
安全・安心な学校を、地域とともに	仁和小学校	76
地域ぐるみで守る子どもの安心安全	二条城北小学校	77
安心・安全の学校づくり ～家庭・地域との連携を通して～	高倉小学校	78
地域・学校で守る子どもの安全	朱雀第一小学校	79
地域で見守る子どもの安全安心	崇仁小学校	80
小高連携「こども110番のいえ」オリエンテーリング	祥栄小学校	81
岩倉明德学区 みんなで守る 子どもたちの安全	明德小学校	82
自ら高める防犯安全活動	鞍馬小学校	83
子どもたちとともに防犯安全活動	八槨小学校	84
地域ぐるみで安心・安全への意識を高める	第三錦林小学校	85
地域ぐるみで守る子どもの安心安全	新洞小学校	86
子どもの安全から、地域の安全へ ～松ヶ崎あんしんネットワーク通信～	松ヶ崎小学校	87
白川キッズ「あんぜんたい」の活動 ～活動を通じて家庭・地域に発信～	白川小学校	88
地域で見守る子どもの安全	新道小学校	89
PTA・地域とともに進める安心・安全活動	東山小学校	90
地域ぐるみで 子どもを守る ～新林子ども安全システム～	新林小学校	91

## 参 考

平成18年3月発行「もっと出会おう もっと話そう 地域ぐるみの学校安全」に掲載した各学区での取組

### 子どもたちのみまもり活動の取組

地域の子どもの安全は地域で守ろう！

鳳徳ふれあいネットワーク

山階やすらぎの街づくり会みまもり隊

地域で見守る子どもの安全

登下校時の子どもの安全を守る活動

太秦グリーンプロジェクト 地域ぐるみの“力のある学校”づくり

地域ぐるみの子ども見守り隊

3つの「安」が合い言葉 安全・安心・安井学区

あんしん・あんぜん・すこやかな学びのある学校づくり・まちづくり

「安心・安全 梅津のまち」をめざして

継続的な子どもの安全確保の活動

地域ぐるみの西京極子ども見守り隊

学校・家庭・地域が一体となった安全確保を

地域で守る子ども安全

「松陽 地域・子ども見守り隊」の活動

桂みまもり隊」の活動

地域とPTAの協力で守られている桂徳小の安全

地域・家庭・学校が一体となった学校安全活動

家庭・地域との連携による子どもの安全確保

地域ぐるみで「守り」、「育てる」安全・安心な宮山まちづくり

地域で守る子ども安全

子どもたちの安全は地域の手で

「今日も元気だ 醍醐西っ子」みんなで見守っているよ きみたちのことを！

地域でまもる北醍醐の子

地域ぐるみで子どもを守る「向島南みまもり隊」

### 安全マップの充実を図る取組

みんなでまもる子どもの安全

一人一人が防犯を意識し、みんなで子どもを守る学校安全活動

みんなで守ろう子どもたち

子どもの安全は学校とPTA・地域が連携して守る！

みんなで作る みんなの安全マップ

みんなで作ろう学校安全

地域と連携した学校安全活動

地域・保護者、みんなで守る竹田の子

地域ぐるみで守る子ども安全

子どもを守る・学校を守る

地域・家庭とともに子どもを守る

地域で取り組む安全活動

危険箇所総点検、みんなで見守ろう校区の安全

### 子どもたちへの声かけ・あいさつ運動の取組

たかがみね子ども安全の日

朝の校門前立ち番による安全確保

家庭や地域の見守りによる登下校の安全確保

息の長い安全確保の活動

みんなで守り育てる子どもの安全

元町小学校

鳳徳小学校

山階小学校

山階南小学校

陵ヶ岡小学校

太秦小学校

南太秦小学校

安井小学校

西院小学校

梅津小学校

梅津北小学校

西京極小学校

西京極西小学校

葛野小学校

松陽小学校

桂 小学校

桂徳小学校

醍醐小学校

小栗栖小学校

小栗栖宮山小学校

池田東小学校

日野小学校

醍醐西小学校

北醍醐小学校

向島南小学校

待鳳小学校

紫竹小学校

音羽川小学校

嵯峨小学校

山ノ内小学校

川岡東小学校

深草小学校

竹田小学校

桃山南小学校

池田小学校

納所小学校

二の丸北小学校

神川小学校

鷹峯小学校

安朱小学校

鏡山小学校

勸修小学校

小野小学校

あんしん あんぜん みまもりたい	広沢小学校
パトロールボックスの運用	嵐山小学校
みんなで見守る「花園の子」	花園小学校
守ろう 創ろう みんなの安全	桂川小学校
みんなで作る安心・安全のまち すながわ	砂川小学校
家庭・地域との連携による子どもの安全確保	石田小学校
子どもの安全意識を高め、学校・保護者・地域で取り組む下鳥羽安全確保推進活動	下鳥羽小学校
地域との連携による登下校の子どもの安全確保の取組	向島藤の木小学校
地域パトロール活動の取組	
地域ぐるみの子ども見守り活動	上賀茂小学校
みんなで見守る子ども安全活動	柗野小学校
地域の子どもは地域で守る	大宅小学校
地域ぐるみで子どもの安全を守る活動	西野小学校
笑顔で声かけ、みんなで守ろう子どもの安全・地域の安全	音羽小学校
子どもの安全を守る「おかえりトトロ隊」の活動	大塚小学校
地域が見守る安全活動	百々小学校
地域ぐるみで見守る子どもたちの安全	大宮小学校
こどもの安全・地域の安全をみんなの手で	常磐野小学校
地域・PTAと連携して取り組む学校安全活動	宇多野小学校
地域を貫く国道162号線と山に囲まれた校区の安全な環境づくり	高雄小学校
こどもぼうはんパトロール隊	檜原小学校
学校・地域安全防犯活動	桂東小学校
地域ぐるみで子どもを守る	稲荷小学校
セーフティーネット藤城	藤城小学校
地域と手を携えた安全活動	春日野小学校
地域ぐるみで守る、子どもたちの安全	伏見板橋小学校
学校・家庭・地域で地道につみあげる安全確保対策	伏見住吉小学校
地域みんながみまもり隊	横大路小学校
地域の子をみんなで守る「羽束師みはりたい」	羽束師小学校
「地域で守る」明親見守り活動	明親小学校
安心・安全に関する啓発活動の取組	
みんなで守ろう 子どもたち	雲ヶ畑小学校
みんなで取り組む防犯安全活動	宕陰小学校
学校・家庭・地域が一体となって安全な学校づくりを	嵯峨野小学校
みんなで続ける学校安全活動	御室小学校
地域ぐるみの学校安全活動	京北第一小学校
子どもを守る学校安全活動	京北第二小学校
学校・地域で取り組む子ども安全安心の校区づくり	京北第三小学校
地域ぐるみの学校安全体制の取組	川岡小学校
学校と地域で“子どもを守る”	松尾小学校
学校・家庭・地域が一体となった子どもの安全確保	嵐山東小学校
地域の安全は面で守る	藤ノ森小学校
安全対応能力と防犯意識を高める	桃山小学校
広めよう安全知識・高めよう安全意識	桃山東小学校
「地域の子どもは地域で守ろう」の合言葉のもとに	伏見南浜小学校
安心と安らぎのまちづくり	向島小学校
向島二の丸の見守り活動	向島二の丸小学校
地域ぐるみで子どもを守る学校安全活動	久我の杜小学校
地域ぐるみで守る子どもの安全	美豆小学校



## 地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業の 取組について

京都産業大学大学院教授 藤岡 一郎

(モデル地域推進委員会 委員)

この事業の取組がこの二年間市内全小学校区において展開され、昨年度に引き続きその成果がこの報告集として結実した。さらに各支部の安全講習会でのお互いの報告に対する意見交換を重ねることで、お互いに学習をしさらに工夫を加え、日々の活動に生かしているように思われる。

この事業はスクールガードの養成によって地域のひとびとによる子どもの見守り活動を立上げ、活性化し、地域社会の再構築に向けた取組みであるが、各小学校区はそれぞれ特性をもち、この報告集の事例をみてもひとつとして同じものはなく、その先進性の優劣は容易ではなく、その優劣を判断する必要もない。ただ、安心安全に関する啓蒙活動から、子どもたちへの声かけ・挨拶、見守り活動、さらに地域のパトロール活動と日々の身近な活動を通じて、住民ひとりひとりのライフスタイルや地域社会が活性化したかを各個人や各地域が自己点検をする必要である。また、どの段階にあるかを知ることはいずれの活動を行うにあたって大切だからである。

犯罪被害者や犯罪者を出さず子どものみでなく大人にとっても安全安心な地域社会の実現に向けて、公助・自助・共助のバランスをとりながら、まずは地域活動への住民の参画を促すことから始めるとすれば、いま自分は、自分の住む地域社会はどのような地域社会になりたいのか、そのためにはさらに何が必要なのかを問う時期になっている。

その際、自分の住むまちに住み続けたいと思うそのようなまちのあり方をみんなで考え、それに向かう活動の一環であり、そのもっとも大切な基盤を形成するひとつが子どもの見守り活動であるということを確認することは大切である。見守り活動が子どもを犯罪者から守ることだけにあるのではなく、声かけ・挨拶を通じて人づくり・まちづくりの活動となっているという自覚である。この事業の各ブロックの報告会に出席させていただいてその自覚を感じることができることが多くあった。この報告集はその証であると思われる。

この事業のあるブロック会合に、その区の生活安全推進協議会のメンバーの多くの方が参加していて、縦割り行政を超えた住民の連携の具体的事実として、実にたのもしく、今後の展開に期待し注目しているところである。多分、わたしの知らない多くのブロックでそのような動向にあるのであろう。とすれば上に述べたことは杞憂であり蛇足の感をまぬがれない。密かに積み重ねられたひとりひとりの日々の活動の結晶として、本年度も立派な報告集が完成したことに敬意を表したい。





## 「多様な連携と活動のカタチ」アイデアが一杯詰まった二つの報告書

立命館大学助教授 谷口 知弘  
(モデル地域推進委員会 委員)

### 1 活動の継続からあいさつの声が響く地域社会へ

「おはようございます」「お帰りなさい」「ただいま」、やさしい声、おおきな声、子どもの声、大人の声。二年間の取組がまとめられた二つの報告書を読むと子どもたちや地域の方々の元気な声が聞こえてくるようである。残念にも子どもが被害者や加害者となる痛ましい事件が続いたここ数年、保護者も地域も学校も危機感を少なからず共有し、子どもたちを守りたいとの一心から本報告書にあるように多様な活動や連携が展開されてきた。活動展開の過程には、危機感のみならず、PTAや地域の方々の利他的な行動があつてのことであることは言うまでもなく、モデル学区での会議や活動に参加させていただき各組織の役員の方々や街頭に立つ地域の人々の姿に触れる度に頭が下がる思いであつた。地域社会のつながりが希薄化する中であつて、防犯の活動から機嫌よく暮らせる地域社会を形成する「まちづくり」の取組へと継続発展するきざしが2冊の報告書から読み取れる。

だが、家庭・地域・学校とすべての人々が同じ危機感を抱いているわけではなく、また、危機意識は時間とともに薄れても行く。見守り活動参加者が一年で当初の二割程度に減り、人数を増やすために会議を重ね名称を変えて再結成、再募集したとの課題解決に取り組んだ報告が寄せられているように、活動を継続するためには関係者の努力と創意工夫は欠かせない。また、京都といえども地縁組織の脆弱化は進みつつあり、地域社会における小学校の重要性は増しており、とりわけコーディネーターを担う学校長の役割は益々重要になってくるであろうと考える。

### 2 無理なく長続きする取組への工夫

二年の間に参加させていただいたモデル学区の会議や活動と2冊の報告書から、活動を継続するための3つのポイントが読み取れる。

#### 組織づくり、連携づくりの工夫

「PTAに安全委員会」を新設するなどの組織づくり。大学生や高校生、商店街、地元企業と協力して取り組むなど地域特性に沿った連携や「町内の回覧板で学校安全ボランティアを募集」するなど活動の輪を広げる工夫。

#### 参加者の相互理解を深める工夫

「学校・地域・PTAによる話し合い」の場を設ける例や「見守り隊の結成まで9ヶ月、地域全体で子どもを見守ろうとの意識が高まってきた」との粘り強い話し合い、「感謝の集い」の開催など組織内や組織間の考え方や世代を越えた相互理解・信頼関係づくりの工夫。

#### 無理なく続けられる活動の工夫

「お帰り当番」「こども見守りタイム」など防犯活動を無理なく続けるための工夫や「地域ウォークラリー」「向こう三軒両々隣り」の取組など意識を共有し地域で顔の見える関係づくりを進める工夫等々。

この紙面ではほんの一部の事例しか取り上げられないが、2冊の報告書には地域特性を読み解きながら展開される連携や活動の様々なアイデアが詰まっている。課題が生じた時、報告書を読み返すことで解決の糸口が見えてくるに違いない。加えて、警察・教育委員会・市役所など関係機関は各地域の課題に沿った支援を継続していただきたい。

## ～ 「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」 の取組について ～

### 1 趣 旨

学校の管理下における事件・事故が大きな問題となっている近年の状況を踏まえ、家庭や地域及び関係団体・機関と連携しながら、学校の実情にあった学校安全ボランティア（以下、「スクールガード」という。）の安全管理に関する取組を推進する。

### 2 内 容

#### (1) 「地域学校安全指導員の巡回指導」

警察官OBの地域学校安全指導員（以下、「スクールガード・リーダー」という。）が、学区内において登下校時の巡回指導等を実施する。また、スクールガードの取組に対して実態に添った専門的な助言等を行う。



<スクールガード・リーダーによる登下校時の巡回指導>



<スクールガード・リーダー連絡協議会>

(2) モデル地域(全市で9地域を指定)において「学校安全推進委員会」を2回開催し、地域ぐるみで学校安全に関する実践的な取組を実施する。また、支部内でスクールガードを養成するための「学校安全講習会」を年内に1回開催する。

「学校安全推進委員会」

(2回開催, 時間は1回1時間30分程度)

\*メンバー例: 学校, PTA, 各種団体, スクールガード団体, 所轄警察署, 学識経験者, 教育委員会等

\*内容例: 1回目...挨拶, 趣旨説明, 学校の防犯に関する取組, スクールガードの実践・情報交換, 警察及び学識経験者からの助言

2回目...挨拶, 活動の成果と課題, 情報交換, 警察及び学識経験者からの助言



「学校安全講習会」

(1回開催, 時間は1時間30分程度)

\*メンバー例: 支部内の学校関係者並びにスクールガードの代表者, 所轄警察署, 教育委員会等

\*内容例: 挨拶・趣旨説明・不審者への対応・みまもり活動・情報交換・警察からの助言等



(3) 平成17年度実施支部においては、支部内で年1回「学校安全講習会」を開催する。開催にあたっては、支部校長会で日程を調整し、支部長校で案内・会場等の連絡を担当する。



### 3 スクールガード・リーダーの巡回とモデル地域

<「学校安全推進委員会」及び「学校安全講習会」は、支部ごとに実施>

新規（平成18年度から実施：9支部91校）

- 1 北下支部〔9校〕・上京支部〔2校〕...北下支部モデル地域<柏野>  
(衣笠, 金閣, 大將軍, 柏野, 中川, 小野郷) (紫明, 紫野, 楽只, 乾隆, 翔鸞)
- 2 上京支部〔7校〕・中京支部〔1校〕...上京支部モデル地域<正親>  
(西陣中央, 仁和, 正親, 二条城北) (室町, 京極, 新町, 御所南)
- 3 中京支部〔9校〕・下京支部〔3校〕...中京支部モデル地域<朱雀第三>  
(朱雀第一, 朱雀第三, 朱雀第七, 光徳) (朱雀第二, 朱雀第四, 朱雀第六, 朱雀第八)  
(高倉, 洛央, 醒泉, 洛中)
- 4 下京支部〔8校〕・東山支部〔3校〕...下京支部モデル地域<洛央>  
(梅小路, 七条, 西大路, 七条第三, 植柳, 淳風) (六条院, 崇仁, 一橋, 月輪, 今熊野)
- 5 東山支部〔5校〕...東山支部モデル地域<六原>  
(白川, 新道, 六原, 清水, 東山)
- 6 南支部〔13校〕...南支部モデル地域<上鳥羽>  
(九条弘道, 九条塔南, 南大内, 唐橋, 陶化, 東和, 山王)  
(上鳥羽, 吉祥院, 祥栄, 祥豊, 大藪, 久世西)
- 7 左京北支部〔8校〕...左京北支部モデル地域<岩倉北>  
(岩倉南, 明德, 岩倉北, 市原野, 静原, 鞍馬, 別所, 八桝)
- 8 左京南支部〔13校〕・左京北支部〔2校〕...左京南支部モデル地域<第四錦林>  
(北白川, 修学院, 修学院第二, 上高野, 八瀬, 大原) (養正, 養徳, 下鴨, 葵, 松ヶ崎)  
(錦林, 第三錦林, 第四錦林, 新洞)
- 9 西京西支部〔8校〕...西京西支部モデル地域<境谷>  
(大枝, 桂坂, 新林, 境谷) (竹の里, 上里, 福西, 大原野)

継続（平成17年度から実施：8支部90校）

- 1 北上支部〔9校〕  
(上賀茂, 紫竹, 元町, 鳳徳) (鷹峯, 待鳳, 大宮, 柊野, 雲ヶ畑)
- 2 山科支部〔13校〕  
(陵ヶ岡, 鏡山, 安朱, 西野, 音羽, 山階)  
(百々, 山階南, 勸修, 小野, 音羽川, 大塚, 大宅)
- 3 右北支部〔13校〕  
(嵯峨, 広沢, 嵐山, 嵯峨野, 高雄, 宕陰)  
(常磐野, 宇多野, 御室, 花園, 京北第一, 京北第二, 京北第三)
- 4 右南支部〔10校〕  
(梅津, 梅津北, 太秦, 南太秦, 安井) (山ノ内, 西院, 葛野, 西京極, 西京極西)
- 5 西東支部〔10校〕  
(嵐山東, 松尾, 松陽, 櫻原, 川岡) (桂, 桂川, 桂徳, 桂東, 川岡東)
- 6 伏中支部〔9校〕  
(稻荷, 砂川, 深草, 竹田) (藤ノ森, 藤城, 桃山, 桃山東, 桃山南)
- 7 伏東支部〔10校〕  
(北醍醐, 醍醐西, 醍醐, 春日野, 日野) (池田, 池田東, 小栗栖, 小栗栖宮山, 石田)
- 8 伏西支部〔16校〕  
(伏見住吉, 伏見板橋, 伏見南浜, 下鳥羽, 横大路)  
(向島, 向島藤の木, 向島南, 向島二の丸, 二の丸北)  
(納所, 明親, 美豆, 神川, 羽束師, 久我の杜)



## 各学区の取組



# 地域ぐるみの学校安全『正親見守りたい』の活動

正親小学校

## 1 取組の内容・方法

- (1) 地域ぐるみは学校ぐるみの取組からとし、『自ら危険に気付き安全に行動できる正親の子』をねらいとして教育活動に位置付けて取り組む。
- (2) 地域・保護者の取組として「見守り隊」から「見守りたい」の気持ちで、気楽に、気長に、危険なくを基本に継続的な取組にする。
- (3) 西陣警察署など関係機関と連携し安心安全の街づくり推進の一環として位置付け取り組む。

ア 「自分の命は自分で守る」が基本  
PTAから全児童に防犯ブザーの贈呈



いかにおすしの学習

防犯ブザーの活用方法についても学習した。

イ 子ども安全パトロール隊の支援活動  
全校童を町別に27グループ編成で実施した。



「こども110番のいえ」の訪問や通学路の安全点検を実施。

ウ 「正親見守りたい」の登下校時の取組



各種団体の全てが協力して(毎日)



PTA全会員が協力して(木)

エ マイ安全マップをつくらう(地域と共に)



## 2 取組の成果・課題

- ・ 「正親見守りたい」の取組を地域、保護者、PTAが一体となって活動したことによって、「地域の子は地域で育てる」意識が高まってきた。
- ・ 「正親見守りたい」など地域ぐるみで、子どもの「マイ安全マップをつくらう」の取組を支援した結果、子どもの防犯・安全意識の向上をもたらした。
- ・ 気楽に、気長に、危険なく継続的な取組通して地域のコミュニティを豊かにしていくことが大切である。

## 地域ぐるみで取り組む『洛央子ども見守りたい』

洛央小学校

### 1 取組の内容・方法

#### (1) 経緯

本校では、平成16年度より校内における児童の安全確保のために、地域・保護者による「学校安全ボランティア」を立ち上げた。

これは、毎月、地域・保護者にボランティアを募集し、午前10時～午後1時、午後1時～4時まで、学校の玄関で来校者の確認をお願いするとともに、子どもたちと顔見知りになっていただく組織である。

当初は学校が事務を行っていたが、17年度より学校運営協議会「洛央いきいきコミュニティ」の発足に伴い、コミュニティの組織の一つとして現在に至っている。

一方、登下校時の児童誘拐等への対応が課題となつてからは、校外での児童についての安全確保の声が多方面からあがった。

本校では、8年前よりPTA委員を中心に月1～2回、下校時にパトロールを実施してきた経緯がある。昨年度、児童の下校時の安全確保について学校評議員に諮問したところ、PTAに加え、地域の防犯推進委員の方々にお願いしてはどうかという意見をいただいた。

前述の「洛央いきいきコミュニティ」の発足を機会に校下7学区の防犯推進委員の方の協力を得て「洛央子ども見守りたい」を組織した。(たい：子どもたちを見守っていきいたいという意味を込めている。)

#### (2) 現在の活動

「洛央子ども見守りたい」は、下校時にパトロール等(呼称：おかえりパトロール)を実施するとともに、児童の安全確保についてのアイデアを出すことも目的としている。

しかしながら、毎日下校時にパトロールを行うことは、現実には難しい問題がある。



そこで、週1回程度の人によるジャンパー・腕章着用の見守り活動に加え、校区に「子ども見守りたい」の「つり旗」や

「のぼり旗」を掲げ警戒体制をとることにした。この「つり旗」や「のぼり旗」については、地域の方々から寄付の申し出があり、取組の気運を盛り上げることができた。

現在、通学路に面した家庭や商店、柵等に毎月(10日～20日まで)掲げていただいている(期間を限定したのは、マンネリ化を防ぐため)。

また、児童の安全を確保するためには、地域と学校の結びつきをより一層強くし、地域・保護者の方々と児童とが顔見知りを増やしていくことで、町全体で子どもたちを見守っているという状況をつくっていくことが大切であると考えた。

この趣旨を踏まえ、今年度より自治連合会、防犯推進委員、PTAの協力のもと、地域のシルバークラブ、女性会、更生保護女性会、少年補導委員会、全保護者より「洛央子ども見守りたい」会員を募ったところ、総勢250名ほどの会員が集まった。

現在、毎週子どもの下校時間帯に合わせて、交替で「おかえりパトロール」を続けている。

### 2 取組の成果・課題

「今2回目のパトロールが終わったのですが、子どもたち皆に『さようなら』『気をつけてね』と声をかけて顔を覚えてもらえるよう、私も子どもたちを覚えてつながりを深めていきたいなと思っています。地域の人たちと子どもたちがどどんつながって地域全体で子どもたちを見守っていただけたら・・・と願っています。」

パトロールに参加していただいた「見守りたい」の方の感想である。

このように地域全体で子どもたちの安全を守っていこうという気運が高まってきていることが一番の成果であると感じている。

子どもたちの下校時間に幅があるため、学校から離れた地域ほど子どもの数が少なくなり、会員の方のやりがいに影響しているようだ。

今後、子どもの姿が少なくても、多くの方がパトロールに参加し、警戒を強めていることを訴えることに活動の意義があることを会員の方々に浸透させ、この問題を解決していきたい。



# みんなで守る 地域の子ども

～開かれた学校と地域の防犯活動～

第四錦林小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 吉田地域での子ども見守り活動

子どもたちの安全確保が社会問題となる中で、本校の校区では、子どもたちの安全確保のため、地域住民が自分の生活時間帯を登校時刻に合わせて、子どもたちを見守る「見守り活動」が、6年前から始められた。また、従来から、地域の各種団体によって、積極的な安心安全に関する活動が行われてきた。

このような取組を受けて、地域の子どもの安全、防犯、防災、社会福祉等の推進のために総合的に吉田地域の安心安全を確保するネットワークの形成を推進する組織として平成17年度に「吉田安心安全町づくり委員会」が立ち上げられた。



吉田みまもる隊のバッジ

### (2) 「吉田みまもる隊」の取組

地域の各種団体・学校・一般参加・京都大学の学生など約430人の登録メンバーが、日常生活で「吉田みまもる隊バッジ」を装着して外出兼パトロールを実施している。子どもたちの登下校時の見守り活動と、あいさつなどの声かけによるコミュニケーション活動を行い、子どもたちと地域とのつながりを深めている。初めはあいさつできなかった子どもたちもできるようになり、学校での出来事などを話す子どもも見られるようになった。



「見守る隊」のメンバーに見守られて登校する子どもたち

近隣地域に不審者が現れた場合や学校が長期の休業に入った時は、至急回覧やメール配信により、隊員や地域に対して、パトロールや見守り活動の

強化を広報している。

また、子どもの安全はもとより、地域の安心安全に対する意識の向上を図り、希薄になっている地域住民のつながりを強め、地域に危険が近づきにくい環境をつくることを目指して、地域住民の交流を図る活動や安全に関する学習会の開催などの取組を進めている。

### (3) 学校と地域との連携を深める活動

#### 安全教育の取組

子どもたちの危険回避能力を高め、実践に即した安全意識を育てるために、安全学習に地域をフィールドとした学習を取り入れ、自らの生活と結び付けて考えられるように内容や方法を工夫している。

#### 町別集会の取組

子ども・PTAの地域委員・みまもる隊の隊員が、通学路や家の近くの危険箇所、日頃のグループ登校の様子について話し合う。身の回りの危険について話し合うことを通して、大人に守られるだけでなく、自分たちで気をつけていこうとする意識を高めている。

近年、同じ町内に住んでいてもふれあいが少なく、大人と子どもが顔を知らないということもある。そこで、日曜参観の最後に町別集会を設



日曜参観の町別集会后 集団で下校する子どもと保護者

定し、同じ町内に住む保護者・子ども・みまもる隊の隊員が集い、顔見知りをつやして地域と子どもたちのつながりを強めていくようにした。

## 2 取組の成果・課題

「吉田みまもる隊」の参加者を点から面に近づけ、見守り活動が地域全体をカバーできるようにしていきたい。また、学校・地域住民などが互いに結びつきを深め、子どもや地域を守る活動をさらに推進して、誰もが安心して、安全に暮らせるまちづくりにつなげていきたい。

# 地域ぐるみの学校安全体制

六原小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 組織

本校区では、平成16年度に子どもや高齢者の方々が、安心して健康に暮らしていけるよう、住民の皆様が互いに助け合い、支え合う仕組みとして、地域の各種団体・行政等を含んだ「いきいきネットワーク」が設立された。その中に安心・安全部会が組織され、地域の消防団・自主防災会・少年補導委員会・PTA・女性会・警察・六原小学校等の代表者で構成されている。本年度は地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業の委嘱を受け、推進委員会構成員を組織して、安心・安全部会と連携を図り、その中で以下のような主な取組を行っている。

### (2) 子どもを見守る地域活動

地域の「安心・安全部会」で子ども見守りボランティアを募り、PTAをはじめ地域の方総勢108名のボランティアが集まった。無理なく、長く続けられることを合言葉にして活動されている。登下校時の子どもたちの安全・安心を守るために、朝の散歩、家の前の掃除や通勤時間を合わせたり買い物時間を合わせたりして、地域全体で子どもを見守る活動を行っている。



### (3) 防犯訓練・防犯教室

学校に不審者が侵入したり、学校外で不審者に声をかけられたり、いたずらされそうになった時を想定して、教職員の「防犯研修」や子どもたちも交えた「防犯訓練」を東山警察署の協力のもと2回に分けて実施した。

防犯研修では、侵入者から子どもを守り避難させる方法や「さすまた」等の使い方などの指導を受けた。研修をもとに、1週間後に防犯訓練を実

施した。

訓練終了後、警察の方から「イカのおすし」・・・イカない・のらない・大声で叫ぶ・すぐ逃げる・知らせる等の話を聞き、この様子を学校だよりも記載して、家庭で話し合う機会を設けた。



### (4) 六原安心・安全マップ点検

安心・安全部会では、平成16年度に子どもの目線で、自分たちが生活している地域の登下校の道を中心に、車が多く通る場所や駐車車両が多い所、外灯がない所、「こども110番のいえ」設置場所等を盛り込んだ六原安心・安全マップ作成した。18年度には、六原安心・安全マップをもう一度、生活場所や登下校の道を中心に見直し、また、「こども110番のいえ」を点検、確認し、新たに「こども110番のいえ」の設置場所としてふさわしいところを地図に記し、改訂版を部会で作成し全家庭に配布する予定である。



## 2 取組の成果・課題

地域の一人一人が安心・安全を意識し、みんなが助け合い、支え合い、学校を含めたみんなで守る地域活動を展開している。これらの取組は、人と人とのつながりが心と心のつながりとなり、地域の和がより一層広がり、地域の活性化につながる活動となっている。

# 地域ぐるみで子どもの安全を守る『衣笠みまもり隊』

衣笠小学校

## 1 取組の内容・方法

児童が被害者となる事件が多発している近年、弱者である児童の安全を守ることが大きな課題である。

衣笠校区には、「校区の子どもは地域みんなで育て守る」という長年の伝統が引き継がれ、子どもは地域の宝であり大切にしようとする意識が高い。

学校では児童に「自分の身は自分で守る」という意識を持たせるように指導している。地域の方々の児童への関わりもPTA保護者や地域団体を中心に学校図書館への協力や授業に関わる地域ボランティア活動をはじめ、ふれあい教室など数多い状況にある。

児童は数十年の前からずっと集団登校をしている。町内の児童が全員集合場所でそろい、高学年が登校旗を持って出発する。危険箇所である交差点にPTA地域委員と教職員が当番で立ち、安全指導をしている。地域によっては町内から校門まで児童といっしょに引率される方もある。

### (1) 衣笠学校安全会 衣笠みまもり隊

地域住民から自分たちでできることがあれば協力したいとの申出があり、学校安全ボランティア発足に向けて準備した。平成18年4月に地域住民有志で学校安全ボランティアが発足した。名簿登録して学校・地域だよりで知らせ、児童や保護者にわかり、顔見知りになるようにした。学校安全対策会議を今年度は3回開催し10月末で22名の会員が活動している。



### (2) 活動内容

登下校時の巡（特に下校時）  
学区パトロールや声かけの実施  
犬の散歩・草木の水やり・表に出るなど  
できる時にできる場所で、無理なく見守る。

### (3) 活動日時

児童の登校時 8時前から 8時30分頃  
下校時の 2時30分から 5時頃

### (4) 活動内容

ジャンパー・腕章・キャップ  
（目印・抑止力・簡単）



## 2 取組の成果・課題

地域で蛍光色の黄緑ジャンパーを見たら、みまもり隊の方々であることがわかり、児童が声かけをするようになった。

毎朝夕に知った児童の顔が見られてあいさつができるようになった。

みまもり隊の服装をしていることによって目だってよくわかるし、声をかけても不審に思われない。

みまもり隊が児童の下校を待っておられることがある。学校行事などで下校時刻が変わったときは連絡網によって代表が知らせる。

安全対策会議を定期的にすることによって児童の下校時の様子がよくわかり指導に生かすことができる。

近隣の小学校との代表による学校安全ボランティアの情報交換を行う。

安心できる地域にするためには、下校時だけでなく塾や習い事による時間外の取組も必要である。

各種団体やPTA・スクールガードリーダーとの連携による充実を図る。

みまもり隊の充実のため、昼間在宅者や卒業生保護者などへ働きかける。



# 地域ぐるみの子ども見守り体制づくり

小野郷小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 経過

小野郷小学校は、小・中併設校であり、児童・生徒あわせて9名の小規模校である。校区は小野地域と大森地域の二地域に分かれ、どちらも山間にある。通学路は、学校前を通る国道162号線と大森街道の二経路である。

小野の子どもは、国道を徒歩で通学し、大森の子どもは遠距離のため大森街道をスクールバスで通学している。小野の子どもたちは、学校まで200m～300mの範囲内に自宅があり、通学距離は短い。安全上の課題は、車の通行量が割に多く、走行スピードが速い上、路側帯が狭いため、子どもが交通事故に巻き込まれないようにすることである。また、不審者による車の拉致が懸念される。

大森の子どもたちは、学校から4km～6kmの範囲に自宅があり、学校までスクールバスで通学している。そのため、その間の安全上の問題は特でない。ただ、遠方の子どもは、スクールバス乗り場まで1kmを徒歩で通っている。通学路に沿って人家はあるが点在していて、人通りはほとんどない。奥にキャンプ場があるため、季節によっては校区外の車が頻繁に往来する。

安全上の課題は、交通事故と車による拉致の危険性である。

### (2) 内容と方法

自治会・PTA・駐在所に働きかけ、以下の事項について「見守り隊」の役割を果たしてもらう。

ア 登下校時に、できるだけ家の外に出て、子どもを見守ったり、声掛けをしたりする。

イ 駐在所警察官に、できるだけ登下校時にあわせて地域パトロールをしてもらう。

ウ 不審な人物や、不審な車などを見かけたら、学校・PTA会長・保護者・駐在所に連絡する。

エ 身の危険を感じた子どもが、いつでも逃げ込めるよう、どの家庭でも家族全員に周知するなど、受け入れ態勢を整えておく。

オ 「見守り隊」のブルゾンを着用して、パトロールを実施する。



## 2 取組の成果・課題

### (1) 成果

登下校時の通学路に、地域の人たちや警察官の姿があることで、車の走行スピードが落とされるようになった。

地域の防犯意識が高まり、防犯ネットワークができた。

交通事故や防犯に対して、子どもや大人の認識が高まった。

通学に対する、保護者や子どもの安全に対する安心感が高まった。

地域の大人に対する子どもたちの信頼感が高まった。

### (2) 課題

地域が山間の静かな環境にあり、住民はほとんど顔見知りで、外部からの人の出入りもほとんどないためか、安心感が高い。反面、地域の防犯意識はまだ低い。

子どもの安全を確保するための協力を得るだけでなく、学校の取組を通して、地域の安全や防犯に対する啓発を進めていく必要がある。



## 地域・保護者・学校が一体となった子どもの登下校時等における安全確保 京極小学校

### 1 取組の内容・方法

#### (1) 「京極学区子どもの安全を守る会」結成の経過

学校への不審者の侵入や登下校時における子どもに関わる事件や事故の増加など、地域を取り巻く環境は、残念なことに子どもたちが安心して暮らしていけるとは言い難い状況で、年々悪化するように思われた。

そんな中で、平成13年度に京極学区では学校やPTAの呼びかけで、京極住民福祉連合会、京極防犯推進委員会、京極同窓会、出町商店街振興組合の皆様をお迎えして、「今、何が出来るか。また、どんな取組をしていけば良いか。」などを話し合い、この集まりを「京極学区子どもの安全を守る会」として今後、少年補導委員会京極支部、京極女性会等の地域の主だった団体に広く参加を呼びかけ、月に1回程度の集まりを持つこと、その中ですぐにできる取組として、「こども110番のいえ」の再編成、学区民への「パトロール中」のプレート装着依頼、京極防犯講習会の開催の3つのことをまず行うことが決められた。

近年、各地で幼い児童が下校中に殺害されるという痛ましい事件が発生したことを受け、今一度、学校・家庭・地域社会・各種団体・関係機関の関係を一層強化し、登下校時はもとより地域社会における安全確保の一環として取組を行うことにした。

#### (2) 活動の内容

見守り活動・パトロール活動の推進

保護者や地域の皆様に、登下校時（特に小学校低学年の下校時）や放課後等に、子どもの様子に目を配る見守り活動・パトロール活動を行ってもらおう。

ア 買い物の時間を下校時刻にあわせて「見守り活動」

イ 犬の散歩をかねて不審者チェック「愛犬パトロール」

ウ 下校時刻に玄関先に出て立ってもらっただけでもいい「通学路見守り」など

取組を普及するためのポスターの掲示

ア 見守り活動やパトロール活動の呼びかけ



ポスターの掲示

イ 注目を集めるための工夫として、腕章やブルゾンの着用

安全に関する講習会等の開催

中立売警察署生活安全課の協力を得て防犯に関する講習会を開催したり、京極文化祭に於いて防犯に関する寸劇を行ったりしている。その中で、子ども向けに「連れ去り」防止の合言葉「イカのおすし」についても取り上げ、事件に巻き込まれないように呼びかけている。



「こども110番のいえ」の確認と依頼

「こども110番のいえ」の見直しを行い、新たに50軒近くの家やお店に依頼し、黄色い旗やプレートの新調・更新を行った。

#### (3) その他の取組

PTAの活動

ア 通学時の児童保護及び誘導

イ 防犯ブザーの新入生への配布、携帯奨励

ウ 「パトロール実施中」の自転車ステッカーの作成・配布

エ ツール・ド・京極（自転車教室）の実施学校の取組

ア スクールガードリーダーの巡回

イ 全家庭への入校証の配布

ウ 親子で確かめる安全マップづくり

エ 防犯訓練

オ 校門オートロック・インターホンの設置

カ 体育館東側に侵入者防止用フェンスの設置

### 2 取組の成果・課題

上記の安全に関する取組を通して地域との連携が深まる中で、「かも川探検隊」や「京極歴史探偵団」などの活動も行われ、京極子供みこし会、出町ホテルの会、京極まちづくり委員会、でまち倶楽部等の各団体間の人とのつながりや信頼関係が深まり、地域あげて健全な子どもたちを育もうとする機運を盛り上げることができた。

# 安心・安全の町 西陣!

西陣中央小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 子ども見守り隊の取組の経緯

西陣中央小学校では、平成16年度にPTAを中心にスクールカラーの青を基調としたハンカチをよく見えるところに取り付けて、朝の声かけなどを行って子どもたちを見守ろうという子ども見守り隊の取組が始まった。

平成17年度に起こった子どもを取り巻く様々な犯罪を受け、地域の自治会の方々を中心となって子ども見守り隊活動が発足し、黄色ジャンパーを着た地域の方が登下校時に校区内のあちこちらにたっていたいただき、子どもたちの安全を守る活動が始まった。

現在では、元4学区にその活動が拡大し、地域の女性会や婦人会・民生委員・社会福祉協議会・ボランティアなどその数も80名を超え、PTAもこの活動の加わることとなり、120名ほどの方が参加している。



平成18年11月には、第一回の全体会総会を開催し、見守り隊活動における意見交流と連絡網の作成を行った。



### (2) 活動内容

毎日、登下校時に黄色いジャンパー（背中に子ども見守り隊 西陣中央小とプリント）を着て、校門や各辻に立って、「おはよう」「お帰り」の声かけを行う。

仕事で自転車やバイクに乗っているときもこの黄色いジャンパーを着て活動する。

活動に際しては、自分ができるときに無理のないように行うことを基本としている



## 2 取組の成果・課題

### (1) 成果

この活動のおかげで、子どもたちは安心して登下校ができるようになった。

子ども見守り隊が、交通量の多い道路を把握し、警察署に事情を説明したところ、警察のパトロールが強化された。

あいさつしていなかった子どもたちが元気にあいさつするようになったり、地域の方と顔なじみになったり、地域の人とのつながりができるようになり、地域の方々も喜んでいる。

### (2) 課題

交通量の多い場所での安全確保には、子ども見守り隊の方々の中には限界があることやとっさの事態発生の際の対応や子どもへの指導について、学校との連携体制を強化する必要がある。

# 地域や保護者とともに守る 子どもの安全

翔鸞小学校

## 1 取組の内容・方法

子どもたちの見守り活動母体となっているのは地域19団体の会長・代表者による「翔鸞子ども安全対策協議会」で、その傘下に翔鸞子ども見守り隊とPTA子ども見守り隊がある。

これらの見守り隊は、それぞれの特色を生かし、互いに力を合わせて安全対策活動を推進している。

### (1) 翔鸞子ども見守り隊

全国から毎月のように悲しいニュースが届いていた頃、翔鸞学区でも町内の回覧板に「学校安全ボランティア募集」のプリントが回された。この「翔鸞子ども安全対策協議会」からの呼びかけに集まってくださった地域の方々は、だれもが地域の子どもの安全を守ろうという真剣な面持ちであった。

「私は御前通、天神さんの交差点に立つ」「夕方は親も忙しいやろから、わしらが回る」すでに自主的に校区を巡回してくださっている方もあった。毎朝の交通整理に来ていただいている女性も仲間に加わってくださった。メンバーの多くは地域のおじいさんやおばあさんであったが、元PTAの方々も馳せ参じてくださり、隊長には以前にPTA会長を務められた方が選ばれた。

毎朝早くから街角に立って「おはよう！」の



声かけをしていただき、帰りには下校時刻を見計らって「お帰り！」と笑顔で迎えてくださっている。遅刻しそうな子には学校までついてきていただき、時には安全指導もして下さる。

このような活動を見て「自分もお役に立ちたい」と協力を申し出てこられる方もあり、地道な活動が続けられている。地域をよく知る人々

による支援は真に心強いものである。

### (2) PTA子ども見守り隊

PTAでは平成17年度から安全への取組に重点を置いており、パトロール用の腕章を全家庭に配布したり、自転車に取り付ける「パトロール中」のプレートも全家庭分を自作したりしてきた。そして、平成18年度には幹事の中から安全対策委員長を選出し、「PTA子ども見守り隊」の組織づくりを進めるとともに、毎日の活動を開始している。



「PTA子ども見守り隊」の特徴は校区をA～Hの8ブロックに分け、各ブロックの保護者が当番を決めて見守りをするというものである。保護者は主に自分の住むブロックを担当するので、我が子の通学路を見守ることが自動的に担当地域の見守り活動になる。だれもが忙しい毎日、少なくとも自宅付近の安全には互いに責任を持つという考えから、ブロック方式を採用することになったのである。

11月に行ったアンケートには、「背中が見えなくなるまで見送ってくださるお姿に日々感謝しております。」「通学の道で声をかけていただき感謝しています。」など、どの子も我が子のように見守っていかうとする姿勢への謝辞が並んでいた。

## 2 取組の成果・課題

このような取組の成果として、見守り隊発足以来、重大な事案等は起こっていない。しかし、自転車で子どもにぶつかっておきながら黙って逃げていくとか、通学路の交通規制を無視して車両が進入してくるとか、ひとつ間違えば大きな事故につながることも起きている。地域が丸となって、これからも安全な地域づくりを目指したい。



# 地域とともに「子どもの命を守る」安全活動

朱雀第四小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 登下校の取組

登校時の安全指導

子どもたちの安全を守ることが課題となる以前より下記のような取組を行ってきた。

ア 朱四・朱五学区の交通指導員が交通量の多い交差点に立ち、交通指導・安全確認をするとともに「おはよう」と言いながら子どもたちを見守っていただいている。



イ 各町のPTA地域委員を中心にして、保護者が当番を決めて集団登校場所から子どもと一緒に歩き、通学路を守り、交通誘導をしていただいている。

ウ 教職員（校門・通学路3箇所）も挨拶指導とともに交通指導・安全確認を行っている。

下校時の安全指導

ア 見守り隊の活動

子どもたちが安全に下校できるようにという地域の方々の願いのもと、朱五学区子ども見守り隊（平成17年1月立ち上げ）と朱四学区子ども見守り隊（平成18年6月立ち上げ）が発足された。毎日下校時に通学路に立って声をかけていただいたり、人通りの少ない場



所のパトロールや安全確認などをしていただいたりしている。

朱四学区子ども見守り隊にはPTAも参加して共に活動をしている。

イ 教職員によるパトロール

下校時刻や部活動終了時刻に校区を4方向に分かれてパトロールを行っている。



### (2) 防犯ブザー・ステッカーの携帯

平成17年度にPTAからは、防犯ブザー・朱四PTA賛助会からは、「防犯ブザー携帯中」のステッカーを全校児童がいただいた。ステッカーは、ランドセルに貼り抑止力として効果を挙げている。

合わせて子どもたちには、自分の命を自分が守る手段として防犯ブザーの使い方について指導を行った。

### (3) 校内での防犯対策

ア 校内巡視

教職員が授業時間外に運動場や校舎内を見回り、安全確認を行っている。

イ 防犯避難訓練

不審者を想定して避難訓練を行っている。

## 2 取組の成果・課題

それぞれの取組を通して、子どもたちの安全に対する意識の高揚が図れるとともに、様々にお世話になっている方々への感謝の気持ちが高まってきている。

これからも学校・保護者・地域と連携をして「子どもを守る」観点での取組を進めていきたい。安全対策に関しての取組は、継続していくことが何よりも大切であるが、子どもたち自身の「自分の命を守る」「命を大切にする」という意識の高揚も合わせて取り組まなければならない。



# 子どもの安心安全を守る「朱七子ども安心安全見守り隊」

朱雀第七小学校

## 1 取組の内容・方法

平成16年奈良県で小学校1年生が誘拐され殺害される事件が起こった。その後、下校時の児童を狙った事件が起こったのを契機に、多くの学校で地域をあげて児童を守る活動が進められてきた。そういった時期に、朱雀第七小学校区でも地域の方から子どもたちの下校時の安全を守ろうと見守り隊結成の声があがってきた。

### (1) 見守り隊結成の動き(平成16年)

ア 登校時に合わせた他校の声かけ運動や見守り活動をヒントに、下校時の子どもたちの安全を見守れるような活動ができないものかといった声が地域のからあがってきた。

イ 11月の臨時学校評議員会でそういった声を紹介し、話し合った結果、「児童の見守り活動」にボランティアとして活動していただける方を募集する案内の文章を各家庭に配布することになった。また、自治連の各種団体にも呼びかけ参加を募った。

ウ 結成式は12月末に開かれた。女性会、少年補導委員会、交通安全協議会の多くのメンバーや各種団体の会長等47名が集まり、会の名称を「朱七こども見守り隊」とすることに決まった。実際の活動は平成17年1月から行っている。

### (2) 「朱七子ども安心安全見守り隊」として再結成(平成18年)

ア ボランティア活動として発足した見守り活動も冬の寒い時期を過ぎた2月頃には約半数に減り、夏の暑い時期を過ぎた頃にはさらに人数が減ってきた。活動が始まり1年を過ぎた冬には常時活動している人は10人程になった。

イ もう一度見守り隊の人数を増やすために、6月から8月にかけて朱七自治連合会で見守り隊再構築に向けて会議を重ねてきた。8月の発足会で会長・副会長を始め他の役員を決め組織として形を整え、名称を「朱七子ども安心安全見守り隊」とした。隊員の再募集を行い、新たに20名程度の参加

が得られた。

ウ 今まで活動に参加していなかったPTAも地域からの要望もあり、臨時総会を開き、毎日4人の保護者が輪番制で通学路に立つことになった。10名程度に減った見守り隊も新組織のもと人員を増やすことができた。

## 2 取組の成果・課題

### (1) 成果

平成16年12月に有志を募って始まった見守り活動も2年目を終えようとしている。初めの頃は、「何してはるんですか。」と、すれ違う近所の人にも声をかけられていたが、最近は活動の内容が理解されるようになり、「ごくろうさんです。」に変わってきた。児童やお年寄り等弱い立場にある人を地域みんなで守らなければという意識の人が増えてきた。

児童も「さようなら」と元気に声をかけて帰るようになってきた。以前に増して児童と地域の人との関わりが増えてきた感じがする。



### (2) 課題

短期間の活動で終わらせるのではなく、長期的な活動としていくためには人員の確保が何よりも大きな課題である。自治連合会の組織の中に特別部会として常設し、毎年年度始めには人員の確保がされていることが必要である。PTAの活動への参加はかなり遅れたが、本年度の臨時総会で決まったように次年度も輪番制で人員を確保するのがよい方法だと思う。活動に伴う予算についても、毎年一定額の補助を市・府からしていただきたい。

# 地域とともに作り上げる「安全」

朱雀第八小学校

## 1 取組の内容・方法

本校での地域の方々による「安全に対する取組」は、平成17年11月に広島・栃木両県で起きた事件をきっかけに始まった。

学校は、PTAと共に自治連合会の会合で「子どもたちの安全のために」と協力を要請し、各種団体長・町内会長に訴えた。その訴えに自治連合会は「子どもたちにとって安全な町は、みんなが安全な町」と共感していただき、中でも地域女性会が全面協力を約束、120名ものパトロール組織が一気に実現した。また、校区の端にある町内の町内会長も協力を申し出ていただくことになり、学校長・PTA会長は、町内の集まりに何度も出席して、実現を訴えていった。

その結果、現在では約270名の子ども見守りボランティアが登録いただいている。

### (1) 現在の活動の様子

本校での子どもの安全を守る活動は、地域女性会の「見守りパトロール活動」、町内会による「見守り活動」、民生児童委員協議会の「あいさつ運動」、交通安全協議会と地域有志の方々による「交通安全の取組」、PTA・教職員による「パトロール活動」など多種多様にわたる。

#### 「見守り活動」「パトロール活動」

本校は、南北に大きな校区であるため必然的にパトロールすべき面積は多い。地域女性会は、低学年の下校時に合わせて正門まで迎えに来ていただき、特に人通りが少ない南方面への付き添いをしていただいている。また、北方面は丸太町通りで区切り、一帯のパトロールを行っていただくなど、効率的な見守り活動を実施していただいている。

また、町内会では、南端の町内会が主になっており、下校路の角々に立ち並んでいただいで、子どもたちを迎えてもらっている。

最初はとまどっていた子どもたちもすっかり顔なじみになり、ボランティアの方々にとっても「ただいま」の大きな声での挨拶は楽しみになった。

また、PTAも自転車の前かごにつける「パトロール表示板」を8種類から選べるようにして装着率を上げるなどユニークな工夫をし

ていただいている。また、教職員も当番制にして放課後校区を回るなど、地域の方々の取組に沿うよう努力している。

#### 「あいさつ運動」

民生児童委員協議会の「あいさつ運動」は、本校の見守り活動が始まる少し前から始まっている。「子どもたちのために是非何か活動をしたい。」という熱意ある申し出があり、それでは子どもたちへのあいさつ運動をということから実現した。

朝、正門に並んでいただき、元気な声であいさつをされる姿に、最初は大きな声が出せなかった子どもたちも、今は元気にあいさつできるようになり、皆さんのさわやかな笑顔を誘っている。

#### 「交通安全の取組」

本校では、登校時の交通安全指導に、交通安全協議会の方々だけではなく、地域の有志の方々は何年にもわたって関わっていただいている。毎日毎日道路に立って指導していただく姿にいつも感謝している。



## 2 取組の成果・課題

保護者にも地域の取組が次第に浸透してきた。次年度には、校区のボランティア掘り起こしを計画している。団体に加入しておられなくても、子どもの安全に協力していただける方を登録し、同時に組織を固めることにより、より効率的な人材配置を行うことで、安全を「面」として拡充していきたいと考え立っている。子どもの安全確保の取組にはまだまだ終わりはない。

# 六条院子ども見守り隊の結成と活動

六条院小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 子ども見守り隊の結成

六条院子ども見守り隊は、平成18年4月に稚松・菊浜・皆山三学区の防犯推進委員会、交通対策協議会・少年補導委員会の方々とPTA本部役員が核となり、地域ボランティア組織として結成された。



### (2) こども見守り隊の活動

「不審者や犯人を捕らえることではなく、六条院の町に多くの見守り隊の人々がいることをアピールし、抑止力として犯罪から子どもを守っていく。」という趣旨で活動が始まった。

登下校の時間に、

- 交差点等での交通安全推進活動
- 学区内や町内の見回り・巡回活動
- 自宅玄関先での見張り番活動

など、いろいろな形態で自主的な活動が行われている。



4月発足以来、見守り隊として活動いただく人々も、地域の方々や保護者の皆さんなどわずらずつ

だが増加傾向にある。また、子どもたちとの交流も深まり、あいさつだけでなく、一人ひとりの名前も覚えてもらい、最近では、遅れてくる子の家に行き、声かけとともに登校を促してもらっていることもある。



学校では、七条警察署と連携し、7月と12月、3月の学習終了日に防犯教室を開催している。その際、見守り隊の方々にも来校いただき、防犯教室に参加いただくとともに、児童代表がお礼の言葉を述べたり、児童全員から感謝のメッセージを手渡したりして、交流を深めている。



## 2 取組の成果・課題

地域の人々による見守り隊の活動によって、六条院の町に勤め先のある人々も通学路で出会う子どもたちや見守り隊の方々とのあいさつをかわすようになってきた。この人々にも、子どもたちを暖かく見守っていただいている。

ただ、下校時は登校時に比べ、見守り隊の活動人数も少なくなるため、今後は下校時の活動体制について検討の余地がある。



## 地域ぐるみの植柳みまもり隊

植柳小学校

### 1 取組の内容・方法

#### (1) 組織

児童の登下校の安全確保を目的に『児童の登下校における安全確保協力委員会』を4月より正式に発足する。

地域の各種団体（自治会運営委員・少年補導委員会・社会福祉協議会・民生児童委員会・女性会・長寿会・体育振興会・防犯連絡協議会・交通対策委員会など）とPTAと学校より組織している。100名近くの方が登録してくれている。

#### (2) 活動時間

毎日

登校時 午前8時～8時30分

下校時 午後2時30分～3時30分

午後3時30分～4時30分

#### (3) 活動内容

ア 児童が安全に登下校できるよう通学路の要所に立ち児童の様子を見守る。

イ 毎日時間帯を3つに分け長時間の立ち番にならないようにしている。ボランティア活動なので無理のないよう自治会会長や運営委員の方が常に調整をはかっている。

ウ 車両通行禁止時間帯の危険箇所にも止め「立看板」の設置を行い安全



に登下校できるようにしている。

エ 安全確保協力委員会の方が集まり改善点や気づいたことなどについて話し合う機会を設けている。10月の第二回目の会合の折には、50名ほどの委員が集まり、「児童が歩道の白線内を歩行するように学校・みまもり隊が声をかけていこう。」「立看板の設置場所をふやそう。」「教職員も児童通学コースを通して通勤してほしい。」「8時前に登校する児童もいるので朝出られる方は自主的に協力していこう。」「下校時刻を守ってさっさと下校するよう学校に指導してもらおう。」などの意見が出され積極的に話し合いができた。



### 2 取組の成果・課題

みまもり隊の活動も充実してきており、児童は安全に登下校できている。また、地域の方々と児童・保護者のコミュニケーションも高まってきた。

今後も、児童に自ら身を守る行動がとれる指導を続けると同時に、もっとたくさんの安全確保協力委員を募り、みまもり隊活動が継続していけるよう地域の各種団体やPTAと連携を図りながら地域ぐるみの安全を推進していきたい。



# 地域の子どもは地域で守る

淳風小学校

## 1 取組の内容・方法

子どもの安全が強くさげられる中、自治連合会長と学校長が「子どもの安全について考えよう」と話し合ったのが発端である。平成17年3月から準備期間をへて地域各種団体長に呼びかけ、平成17年7月に「淳風学校安全対策協議会」が発足した。通用門にあるホールを利用した図書コーナーも地域の方と子どもたちとのふれあいの場になると考えて、通用門の入り口が、子どもたちを見守る待機所と決まった。そして、下校時に通用門や運動場の見守りを実施することになった。

### (1) 組織

「淳風学校安全対策協議会」

構成団体・・・交通対策協議会、社会福祉協議会、防犯推進委員会、シルバークラブ、女性会、消防分団、民生児童委員会、少年補導委員会、生涯学習委員会、保健協議会、体育振興会、教育後援会、PTA、各町内



### (2) 時間

月曜～金曜 夏期 2時30分～4時30分  
冬期 2時30分～4時

### (3) 活動場所

淳風小学校通用門詰め所に3～5名が見守る

### (4) 活動内容

- 委員は腕章をはめ、夏期は防犯ベスト・冬期はウィンドブレーカーを着用。

- 下校時に子どもたちに声かけをしていただく。(毎日のことで子どもたちも地域の方に自然に挨拶が出来るようになってきた。)



- 詰め所には、囲碁・将棋セットが置かれていて子どもたちが委員に教えていただくふれあいが見られるようになった。
- 見守り時間が長いので、教育関係のパンフレットや学校だよりを用意して、学校の様子をよく知っていただく機会としている。

## 2 取組の成果・課題

委員の方が、毎日見守りに来ていただく中で、子どもたちとのふれあいもでき、地域へ子どもたちが戻ってからも挨拶してくれるという声をよく聞くようになった。各種団体以外に各町内からもきていただいているので多くの方に学校を知っていただける。地域の方とのふれあいの場や待機所として機能をさらに高めていきたい。

安全についての取組は日々の継続したものでなくてはならない。子どもや老人・女性に安心・安全な町づくりを目指して地域と連携した取組を今後も続けていきたい。

# 子どもたちを地域で守る

光徳小学校

## 1 取組の内容・方法

本校の校区の東西には幹線道路である国道9号線（五条通り）が走り、終日大型トラックやバス・自家用車等が数多く行き来している。南北にはJR嵯峨野線が通り、丹波口駅を中心に中央市場やリサーチパークに勤務する人たちが朝夕には徒歩あるいは自転車で数多く往来している。そんな中、4年前の4月、本校1年生児童が下校途中に五条通りで車にはねられるという悲しい事故が起こった。残念ながら被害児童は2年の間意識が戻ることがなく亡くなってしまった。悲しくて忘れることができない出来事である。これ以降、本校では従来にも増して学校・地域・PTA等が一体となり、子どもたちが安全に過ごせる校区づくりを目指して様々な取組を展開している。

### (1) 集団登校・下校

本校では従来より集団登校を実施している。入学式の翌日からは、PTAの地域委員さんが5月上旬まで毎朝子どもたちと一緒に交通安全の指導をかねて登校してくださっている。また、下校についても5月上旬までは教師と一緒に1年生の集団下校の指導をしてくださっている。

### (2) 交通安全教室の取組

本校でも交通安全教室の取組を実施している。1・2年生については、5月に堀川署とPTAの協力の下、学校周辺道路にコースを設定し、体験型の学習を行っている。他学年でも運動場にコースを設定して自転車の安全な乗り方の学習などを実施している。この交通安全教室は1校時～4校時まで実施しているがPTAも自分たちの大切な事業と位置付け主体的に取り組んでいただいている。

### (3) 写真入り「子ども110番MAP」の作成

PTAでは子ども110番MAPを毎年4月に作成しているが、「こども110番のいえ」を訪ね承認を得た上で「子ども110番MAP」に写真を付け、全家庭に配布している。それぞれの「こども110番のいえ」を視覚的に把握できるようになり、指導の面でも有効なものとなっている。

### (4) 「児童下校時立ち番」の取組

光徳自治連合会では光徳の子どもを守るために様々な取組を先駆的に展開されている。各町内には子ども見守りポスターを掲示し光徳学区の全ての町内で子どもたちを見守る体制づくりをいち早



く築いていただいた。特筆すべきことは毎日の児童下校立ち番体制である。2年前より自治連合会の各団体の皆さんが、下校時間に合わせ校区の各ポイントに立ち、児童の安全を確保し、不審者からも守っていただいている。文字通り雨の日も風の日も、一日も欠かすことなく見守り続けていただいていることが、本校の教育の推進に大いに寄与していることは言うまでもない。もちろん学校・PTAも加わり、全家庭が当番で立ち番に出るようになっている。子どもたちの安全を地域・PTA・教職員が一丸となって守る体制が構築されている。

## 2 取組の成果・課題

地域全体で子どもたちを見守る取組は、今までどちらかというと我が子を通してだけしか見られなかった学校を、他の子どもたちを通して見られるようになったという声が聞かれるようになった。また、地域の方も今まで疎遠になりがちであった学校に関心を持ち、同時に立ち寄りやすくなったとおっしゃっていただいている。

今後とも、「おかえり」「ただいま」の声が町のあちこちで交わされる町づくりを目指していきたいと考えている。

# 地域ぐるみで守る子ども安心・安全

七条小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1)「七条子ども見守り隊」結成の経過

平成17年度にPTAが保護者に対し、安心・安全についてのアンケート調査を行い、保護者・教職員・子どもで「安全マップ」の再点検を行った。できあがった安全マップは学区内の全戸に配布された。

平成18年度に入って、自治連合会が七条安心安全推進委員会を設立し、七条安心安全ネットワーク推進委員会と七条子ども見守り隊を発足し、実際の活動に向けて何度か会合がもたれた。話し合いの中心はやはり活動を長く続けるにはどうすればよいかということであった。そのために、あえて各種団体から何名という割当はしないで、全戸にボランティアを募るプリントを配布し、自主的に関わってもらうようにした。

### (2)「七条子ども見守り隊」発足式

当初は50名余りで活動が始まった。広く地域にアピールしようということで平安騎馬隊を招いて発足式とパレードをすることになった。

集会には、全校児童に見守り隊、PTA、地域の方々、警察関係者の皆さんにも多数参加いただき、盛大にとり行われた。発足式の後、ヘリコプターに手を振っての航空写真撮影、平安騎馬隊を先頭にしたパレードを行った。



### (3)七条シンボルカラー

日々の活動にあたって、以前からある自治連合会が作成したオレンジ色のウィンドブレーカーを着用することはすぐに決まった。会議を重ねて、「七条子ども見守り隊」の隊員であることが一目でわかるものとして、オレンジ色の帽子が新たに作られることとなり、隊員全員に配布された。

## 2 取組の成果・課題

### (1)活動の成果

今では隊員の方も100名を越え、子どもたちの登下校時には鮮やかなオレンジの帽子を被った隊員が、地域のあちらこちらに見られ、子どもたちも安心して学校に通っている。

先日も隊員の方々と話していると、「最初のうちは、こちらから声をかけても、どこのおじさんという顔をして、半分くらいの子もたちからしか返事が返ってこなかった。しかし、最近では学校での指導もあると思うが、『おはよう』と言えば『おはようございます』、『お帰り』と言えば『ただいま』と全員の子もたちから元気な声が返ってくる。我々にとってはうれしいこと。やりがいがある。」と言っておられた。地域住民と子どもたちとのコミュニケーションが生まれ、地域の子もたちの安全は地域が守るという意識の高まりを感じた一瞬だった。



### (2)今後の課題

課題としては、下校時の長い時間を隊員同士で連絡・調整しながら、どう配分していったらいいのか、また緊急対応時の連絡網の整備、安全マップの再点検などが挙げられる。しかし、何よりも大切なのは、まさかの際に備え、子どもたち自身に危険から逃れる力をつけさせることである。学校での日々の指導に合わせて、家庭でも十分に話し合ってもらえるように働きかけていきたい。



## 活躍！ 西大路パトロール隊

西大路小学校

### 1 取組の内容・方法

#### (1) パトロール隊発足までの経過

数年前から、子どもをねらった凶悪な事件が相次いで発生し、地域の方々も子どもたちを守るために、何かできることはないかと考えてこられた。

その結果、まず平成12年3月、自転車用のプレート（「パトロール実施中」）約700枚を、児童宅のみならず、校区内のご家庭にも配布し、自転車への装着をお願いした。また、平成17年3月には、有志の方が下校時のパトロールを始めてくださり、その方々用に手作りの腕章を作成した。

#### (2) パトロール隊の発足と取組内容

そして平成17年10月、後期の開始にあわせて「西大路パトロール隊」が正式に発足、下校時の安全を見守る体制が整えられた。このパトロール隊は、校区内の



諸団体のみなさんが、交通量の多い交差点を中心に、1年生の下校時刻から1時間程度、毎日校区内5箇所に分かれて子ども

たちの下校を見守ってくださっている。

上の写真は、平成17年10月に行われた、西大路パトロール隊発足式の様子である。

#### (3) 取組方法とその他の見守り活動の取組

このパトロール隊は、上記のとおり、校区内を5箇所のポイントに分け、それぞれのポイントを、PTAも含めた各種団体、合計200名程度のみなさんで分担してパトロールをしていただいている。

右上の写真は下校時の様子である。自転車に乗っておられる方と、立っておられるのが地域の方で、自転車前面に、(1)でふれたプレートが見える。

本校では、このパトロール隊の取組とは別に、登校時に、PTA地域委員さんと本校職員が3ヶ所の横断歩道で、道路を渡る子どもたちの安全を見守っているほか、毎朝、ボランティアで、子ども



たちについて、登校する様子を見守っていただいている方もおられる。

### 2 取組の成果・課題

#### (1) 成果

これらの活動を通して、地域のみなさん方には、「地域の子どもたちは、自分たちで守る。」という意識が強まるとともに、外に対しては、「子どもたちの安全は、地域で守っている。」という意味表示にもなっている。

また、これらの取組により、同じ地域に住んでおられる方々と、子どもたちの間で、「おはようございます」「こんにちは」「ありがとうございます」などの挨拶や声かけをはじめとするコミュニケーションが取れるようになってきたことも大きな成果である。

右の写真は、今年3月に、教育委員会からパトロール隊に贈られた感謝状である。



#### (2) 課題

地域のみなさんは、大変快く活動に参加して下さっており、大きな課題は認めないが、課外学習や部活動・急な時間割の変更など、予定していた下校時刻と、実際に下校する時刻のずれがあった場合に、連絡がとりにくく、当日のパトロール担当の方にご迷惑をおかけすることがあり、連絡網の整備が望まれる。



# 九条塔南 安心・安全のまちづくり

九条塔南小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 子どもたちの見守り活動の取組

子どもたちの安全は自分たちで守ろうと、本年度からPTA本部の中に、「安心・安全のまちづくり」の係が結成され、その係が推進役となり、学校と連携をとりながら、見守り活動の充実に取り組んでいる。

#### ア 組織

PTA 会員だけでなく、地域のボランティアや、自治連合会各種団体の協力を得て、「九条塔南子ども見守り隊」を結成した。「見守り隊」は名札や腕章をつけ、子どもたちにその存在を明らかにして活動している。また、自転車に「見守り隊」のプレートをつけて外出するなど、日常生活の中で「見守り活動」を行っている。

#### イ 活動内容

登下校時に、学校の正門や地域の各ポイントで、あいさつ運動や見守り活動を行っている。子どもが小学生だけでなく、幼稚園児もいる保護者は、朝夕の送迎バスを待つ間に、見守り活動を行っている。地域の人は、自宅の植木の水やりや犬の散歩などを、登下校の時間に合わせて、見守り活動を行っている。買い物等で出かける時は、「見守り隊」のプレートをつけた自転車を活用し、見守り活動を行うとともに、犯罪への抑止力につなげている。

### (2) 安全マップの充実を図る取組

上記の「安心・安全のまちづくり」の係と学校が連携して、安全マップの充実を図った。

ア 各家庭や地域の事業所等に「こども110番のいえ」の依頼を行った。その結果、件数が以前の18件から68件に増えるとともに、地域の人々の子どもの安全確保について協力しようとする意識が高まった。

イ 教職員が、校区の安全点検を行うとともに、全保護者が自分の子どもと一緒に、登下校で通る道の安全点検を行い、自ら利用する通学の経路図を学校に提出した。また、町別児童集会で集団下校を行い、児童・教職員・

PTA 地域委員会の補導委員と一緒に下校時の安全チェックを行った。それにより学校とPTAは子どもの登下校の実態を把握し、見守り活動に生かすとともに、その情報を整理し、安全マップに記載した。

ウ 「こども110番のいえ」の場所と、校区の交通面や防犯面で危惧する状況を表した「安全マップ」を全家庭に配布するとともに、「九条塔南子ども見守り隊員」や南警察署にも届け、連携して安全面の強化に取り組んでいる。また、学校の玄関にも拡大版を掲示し、子どもや保護者や地域の人々の安全意識向上につなげている。

## 2 取組の成果・課題

### (1) 「九条塔南子ども見守り隊」について

地域の子供は、保護者や地域で守ろうとする意識が高まってきた。しかし、まだ一部の保護者やボランティアの活動に負うことが大きい。今後は、全保護者の意識をさらに高め、見守り活動への全員の参加を目標にし、取組を進めていく。

### (2) 安全マップの充実について

安全マップの改善が図れ、配布することができたのは一定の成果である。しかし、校区の状況は刻々と変化するものである。常にその変化の様子を把握し、安全マップにも反映させたい。



学校の玄関に掲示してある「安全マップ」

# 子どもたちのみまもり活動の取組

南大内小学校

## 1 取組の内容・方法



本校は、平成18年、19年度文部科学省のコミュニティ・スクール推進事業、京都市教育委員会の学校運営協議会の研究指定を受けた。その中の企画推進委員会の児童安全部として、みまもり活動を地域ぐるみで行うことになった。

まず、自治連合会長にお願いして、地域の防犯推進委員会の会長に発足までの準備をしていただくようにした。そこに、PTAと学校が入り、話し合った。

みまもり活動は息の長い活動なので、地域に呼びかける際「できる人から、できる時間に」を合い言葉に、立ち話し・ウォーキング・犬の散歩しながらと気楽な参加を基本とした。そして、

- ・安全マップで下校路の確認をする。
- ・「こども110番のいえ」を把握する。
- ・スクールガードリーダーに話を聞く。
- ・他校の組織状況、方法を見学する。

に取り組んだ。

一方、他の関係地域団体（少年補導・交通対策協議会・自主防災会・老人会・消防団）に呼びかけ、協力の承諾を得た。

実施する方法は、

- ・毎日2団体（1団体2・3人）があたる。
- ・ジャンパーと腕章を着用する。
- ・下校時子どもに付き添いパトロールする。
- ・気づいたことを地図やノートに記入する。

とした。本校は、全校児童170名ということもあって放課後門を開ける時刻を3回決めており、地域にポイントを決めて立たなくても、その時刻に合わせて活動すればよいことになる。特に低学年女児がねらわれやすいということから、3時と3時45分の2回（火・木曜は2時と3時の2回）に

絞りを、門から付き添うことにした。一緒に下校しながら交通量の多い所、人通りの少ない所に十分注意する。子どもたちには、ジャンパーや腕章を着けたみまもり隊を紹介済みなので、積極的に声もかけていく。2回目のパトロールが終わった時点で終了解散とし、その後は時間が許す限り地域を回ったり、家の前で立ったりと自由にした。

やはり、息の長い活動を目指すので、雨天時等は各自体調を考慮してもらうこととした。

## 2 取組の成果・課題

登校時は集団登校であり、信号の所には交通巡視員さんが週2回（それ以外は学校長が）立ち、門は当番教員が出迎える。そこで当面の課題は、下校時の子どもの安全について考えていく。特に低学年の女児がねらわれやすいということなので、門が開く（児童が下校する）時刻の最初2回を選んだ。高学年は比較的ねらわれにくいということだが、2団体ずつあたるので、前半後半に分かれて下校時間をすべてカバーすることも必要になってくるかもしれない。

ノートや地図への記録や申し送りが、どの程度効果を発揮するか。連絡や連携という点で更なる課題が見えてくるかもしれない。

緊急事態発生時のために、笛を用意している。腕章は十分あるが、ジャンパーを増やしたり、帽子購入の点も考えていきたい。

募集により、パトロールに加わっていただける方、下校時に合わせ家の前で立つ・買い物に行く・犬の散歩をするなど少しでも協力していただける方を増やしていきたい。合わせて「パトロール中」のステッカーを自転車等のかごにつけていただけの方も募っていききたい。



# 地域ぐるみの子ども見守り活動

唐橋小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 「唐橋子ども見守り隊」の発足

唐橋地域は、北はJR東海道線、東は旧千本通り、南は十条通り、西は西大路通り付近に位置しており、公共交通機関や大型スーパー・病院などが大変便利に利用できるため、人の往来や交通量も多くある。人々がくらししていくための地理的・地域的条件が大変恵まれているため、昨今子どもを狙った悲惨な事件が各地で報告されている状況下においては、他の地域と同様に子どもたちが被害にあわない地域ぐるみの取組が急がれている。

そこで、9月末には地域・PTA・学校の三者連携による「唐橋子ども見守り隊」が発足し、多くの方（登録数約150名）の協力を得て、10月から本格的に「唐橋子ども見守り隊」による子ども見守り活動が始まったのである。



### (2) 取組の内容

唐橋地域においては、「安心・安全な住みよい町づくり」をしていくために、これまでより自治連合会が中心となり、自宅付近の門掃きや買い物・散歩に出かけた時など、地域の見守り活動を行うようにしてきている。9月末に発足した「唐橋子ども見守り隊」の活動は、地域の安心・安全な町づくりをさらに推し進めていくための活動の一つとして、地域・PTA・学校が一致協力しながら、以下のようなことがらを行っているのである。

校区を南北に二分して、毎日2グループず

つ計4名が、見守り活動月当番表に基づいて活動を行う。

低学年（1・2年生）下校時間帯の見守りを中心として、午後2時30分から午後3時30分までの1時間見守り活動を行う。

子ども見守り活動を行う当番は、活動開始前に小学校正門に集合し、2方向に分かれて校区の巡回を行う。活動時間が終了した時点で、現地解散とする。

子ども見守り活動を行う際は、「唐橋子ども見守り隊」のロゴマークの入った黄緑色の帽子を着用して活動を行う。



## 2 取組の成果・課題

地域諸団体・PTAによる「唐橋子ども見守り隊」の活動が、本格的に開始されてから約3ヶ月が経過した。日々の活動は、月当番表に基づき下校時間帯のみ行われているが、10月から活動が開始されて以後、一日も途切れることなく下校時間帯の子どもたちの安全確保に向けた見守り活動が続けられている。このことは、「唐橋子ども見守り隊」が発足する際、学校の授業日に行う子ども見守り活動が、無理なく毎日継続できる活動となることを第一に考えて、取組を進めた成果といえる。

また、現在の活動は、地域諸団体・PTAが中心となり行っているが、今後さらに活動を継続・維持していくためには、地域ボランティア等を募り増員していくことが必要である。



## 地域ぐるみで守る子どもの安心安全

東和小学校

### 1 取組の内容・方法

6月27日（火）学校とPTAから東和自治連合会、社会福祉協議会、民生児童委員会、少年補導委員会等地域諸団体に働きかけ、「東和みまもり隊」の発足式に向けた打ち合わせを実施した。

7月6日（木）の発足式には、PTAによる「情報メール配信」「PTAホームページ」の立ち上げや東和小PTA本部通信並びに地域諸団体の協力のもと、「東和みまもり隊」の72名のボランティア登録者を全校児童の前で紹介した。

活動内容としては、登校・下校時間帯に合わせ



た児童見守り活動、腕章やたすきを着用してのあいさつ運動、防犯のぼりの掲揚、パトロール中プレート（自転車用）の配布、学校の防犯訓練参加等である。

特に、現在頻発する子どもを巻き込んだ事件は、子どもたちが一人になる下校時に多い。学校でも複数の下校を指導しているが、途中まで複数でも最終的には数メートル一人になるところがある。「東和みまもり隊」としては、南警察署と連携して「こども110番のいえ」の実態調査をし、現状（約四十数軒）より倍増させる計画を進めている。

さらに、新しい「こども110番のいえ」を含めて、学校安全マップを更新し、児童や保護者とともに「安全学習のためのワークショップ」を行うとともにその安全マップの全戸配布により地域の人々の「安全への関心」を高める。



### 2 取組の成果・課題

「東和みまもり隊」の登録者による登校時や下校時の見守り活動が定着してきた。また、登録者以外の地域の方からの「子どもの安全」に関する情報も寄せられることが多い。例えば、「地下鉄十条駅の放置自転車のハンドルが子どもの目の高さになるため、大変危険ではないか。」とか「防犯パトロール実施中ののぼりを刃物かはさみで切り裂いてある。」などの情報がそれであり、情報が寄せられるたびに「東和みまもり隊」として関係諸機関と連携して解決に努力している。

課題としては、前述したように防犯グッズの損耗に対する補完の体制づくりや情報宣伝活動のさらなる活性化である。また、ボランティア登録者の創意や工夫を取り上げ、活動を多様化・個性化したり、そのための定期的な会合を計画したりすることである。





# 地域で見守る子どもたちの安全

久世西小学校

## 1 取組の内容・方法



### (1) 久世の子どもたちはかえるが守る

久世学区の道路の各交差点には、黄色いかえるががたくさん描かれている。このかえるは、久世西小学校が開校する以前から子どもたちの安全を願って地域の交通安全対策協議会の人たちが描かれたものである。地域の人たちの願いがこもったかえるを毎年、4月の第一土曜日と8月の第二土曜日に地域・PTA・学校が共同して化粧直しをしている。ここ数年、かえる描きに中学生のボランティアも参加するようになり、大きな地域の行事となっている。現在、久世地域の安全を守る大きなシンボルとなっている。



< 8月のかえる描き >

### (2) 久世西子ども見守り隊と声かけ活動

保護者・地域に声をかけ、子ども見守り隊を結成する。また、色々な事情でパトロール等、参加できにくい保護者・地域の方にも、登校時・下校時に合わせて家の前を出ていただき、子どもたちに声をかけてもらっている。

登校時に信号のない交差点に立ち、子ども

たちの交通安全を確保する。

登下校時、自宅前に立ち安全確認と声かけをする。

会員や地域の子ども会に腕章を配布するとともに、定期的に安全指導に立っておられる方にはジャンパーを着用していただき、地域の安全意識を啓発している。



### (3) 安全マップの見直しと子どもたちの参加

地域では住宅地の開発や新駅の工事など、年々様子が変容している。PTA・子ども会・地域・学校が協力をして毎年、安全マップの見直しを実施している。昨年度からは、子どもたちも町別児童会などで実際に危険なところを確かめながら安全マップづくりに参加している。



< 地域を3分割して安全マップを見直す >

### (4) 安全情報の発信とパトロール

メール配信登録の積極的利用。

学校ホームページによる安全情報の発信。安全情報を敏速に保護者・地域に知らせると共に、学校・保護者・地域がパトロールを実施する。

# 地域全体での見守り活動

大原小学校

## 1 取組の内容・方法

平成17年12月、次々と起こる子どもに関する事件を受けて、大原の地域でも何とかしなければとの声が上ががり、話し合いが始まった。

最初は、今までの学校及びPTAの取組を見直し、どう発展させるかを考えていたが、自治連合会からの協力依頼があり、共に考えていくこととなった。課題となったのは、一過性のものとならないようにするためにはどうすればよいか。誰もが無理のないようにするためにはどうすればよいか。地域全体で取り組めるようにするにはどうすればよいかなどであった。

まず行ったのは、本校の児童であることがわかるようにできないかとの意見から、2月から帽子をかぶることとした。また、一番気になっている下校時の見守りを、「可能な人が可能な時に」という意見から、可能な人からスタートすることとした。



6月に大原全地域に見守り隊の募集を行ったところ、50名程の申し込みがあった。

最終的には、無理のないようにすることと、自然消滅することのないようにすることとの兼ね合いをどうするかが協議の中心となり、組織体制及びグッズの検討を行い、規約と活動指針が決定し、見守り隊を結成することとなった。組織体制は次のように決定をみた。

隊長	自治連合会副会長
副隊長	社会福祉協議会会長 少年補導委員会支部長 いきいきクラブ会長 PTA会長 PTA地域委員長
町別班長	各町世話人 PTA地域委員
隊員	各町隊員
事務局	小学校

平成18年8月29日、大原小・中学生との対面式とともに、大原見守り隊の結成式を行った。

活動指針は次の通りである。

- 1 活動は登下校の時間帯を中心とするが、学校の休みの日なども近所の公園などで、活動をする。
- 2 不審者を見かけた場合、すぐに警察や学校に連絡をする。
- 3 見守り活動の時には、できるだけ帽子や腕章等で見守り隊員であることを明らかにする。(車で見守る場合は、ステッカーをつける。)
- 4 商売中や農作業中でも子どもの姿を見かけたら、声かけ活動を行う。
- 5 自分の住んでいる町内を中心に見守る。

その他グッズについては下記の物を用意した。

- ・腕章・帽子・ウインドブレーカー
- ・マグネットステッカー

これらを各自の活動内容に合わせて希望をとって渡すこととした。

## 2 取組の成果・課題

### (1) 成果

子ども見守り隊の結成までに、約9ヶ月という長い期間を要したが、その話し合いの経過の中で、地域全体で子どもを見守ろうとの思いが高まってきたことが第一の大きな成果であった。

また、活動内容を無理なく長続きするようにとの考えをもとに設定したことにより、地域の様々な場所での見守り隊の活動が見られるようになっていたことが第二の成果であった。

さらに、ただ見守るという一方通行的なものにならないようにするために、児童生徒と地域住民との交流を大事にするとの考えから、言葉を交し合う光景が多く見られるようになっていたことが第三の成果であった。

### (2) 課題

地域全体で見守るとの思いをより高めていく取組となるようにしていくこと、緊急時においても対処できる組織づくりをめざすことが今後の課題である。

# 地域ぐるみで守るこどもの安全

別所小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 校内の安全確保

学校への不審者の立ち入りや、校内の子どもの安全を徹底するために、防犯カメラの増設や校内見回りの強化に努めている。



### (2) 登校時の安全

校区は学校を中心に国道477号線に沿い、ほぼ南北に広がっている。中学校との併設校のため、中学生に見守られて登校している。また、毎日保護者の方が犬とともに学校まで付き添ってくださり安全確保にご協力いただいている。



(校長先生に出迎えられ朝のあいさつ)



(毎日子どもたちと一緒に)

### (3) 下校時の安全

防犯、交通安全とともに、クマやサル等の動物に出会う可能性もあるため、中学生と一緒に下校出来ない時は教職員が付き添っている。



### (4) 地域の見守り

地域の方には、農作業の途中やグランドゴルフ等をされる際に子どもたちの下校を見守っていただけをお願いしている。また、下校時刻頃に警察署と消防署にパトロールをお願いしている。

## 2 取組の成果・課題

地域の方々には無理なく続けられる方法で関わってもらっている。今後も登下校の時刻に合わせて意識的に見守っていただけるよう、はたらきかけていきたい。



## 地域ぐるみの錦林みまもり隊

～ 学校・家庭・地域が一体となった子どもの見守り活動～ 錦林小学校

### 1 取組の内容・方法

#### (1) 取組の趣旨

小学生が犠牲となる痛ましい事件が相次いで発生し、子どもの安全を見守る活動が全国的にもクローズアップされる中、本校においても「子どもを見守る」取組を進めてきた。

そんな中、昨年11月に入り数日にわたり校区内で不審者が出没し、本校児童が被害に遭うという事例が発生した。

幸い、大事には至らなかったが、この事例をきっかけとして、学校・PTAを中心として3地域の自治連、少年補導、防犯推進委員、民生委員等が協力して子どもたちを見守っていくことを申し合わせ、「錦



林みまもり隊」が発足した。

#### (2) 学校の取組

子どもへの安全指導の徹底

通学路が同じ方面の児童同士による複数での登下校指導。とりわけ、上学年児童が少し離れた所を歩いている下学年児童に寄り添い、見守りながら登下校する。

「こども110番のいえ」への逃げ込み訓練の実施

川端署やPTA、防犯推進委員、民生委員等との連携のもと、不審者（実際には川端署署員が不審者役）に遭遇し、「こども110番のいえ」に逃げ込むとともに不審者の特徴を的確に話す。110番通報を受け、駆けつけた川端署署員にも同様のことを話す。

校内への不審者侵入を想定した避難訓練の実施

感謝状贈呈式の実施

各地域の自治連等に対して、「みまもり活動」への感謝の気持ちを、感謝状という形で表現しお礼を述べる。

#### (3) PTA・地域の取組

「こども110番のいえ」の追加登録と安全マップの作成

組織的・継続的な見守り活動実施と安全プレートの作成・配布および防犯ブザーの配布

1年生入学時および転入時に、安全プレートおよび防犯ブザーを配布し、防犯プレートは自転車の前カゴに、防犯ブザーは児童本人が携帯して、いざという時に使用できるようにしている。

登下校時の声かけ運動の実施

「赤いジャンパー」や「錦林みまもり隊バッジ」を付けたPTA・地域のボランティアの方々約600名が、自宅前や交差点等に立ったり、水やり・門掃き・買い物・散歩等をしたりしながら、子どもたちの登下校時に、「おはよう」「おかえりなさい」と声かけをし、子どもたちの様子を見守ってくださっている。



### 2 取組の成果・課題

PTA、地域の方々による「錦林みまもり隊」のボランティア活動を通して、「地域の子は、地域で守る」という気運が高まってきた。また、これらの見守り活動を通して、地域の方々と子どもたちがふれあう絶好の機会となっている。

今後は、この「錦林みまもり隊」を細く長く続けていく方法を検討していく必要がある。



# 地域・PTA・学校で守る子どもの安全

養正小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 子どもの安全に向けて

本校の児童は集団登校ではなく、町別児童会のメンバー同士でさえ、互いの家をよく知らないという現状がある。また、これまでは少年補導の方によるパトロールや、保護者が個人的に児童の登下校時にパトロールをしてくださっている程度で、PTAや地域の方々の組織的なつながりがあまりなかった。そこで、今年度PTAの会長から、児童の安全をテーマに、「会員の一人一人が自分のできることから取り組みましょう」という呼びかけがあったこともあり、PTA・地域・学校が一体となって、次にあげる取組を立ち上げることにした。

- ・子ども見守り隊の結成
- ・「子どもパトロール中」プレートの配布
- ・防犯ブザーの配布

#### 登下校見守り隊の結成

見守り可能な時間帯を次の5つに分け、都合のつく範囲で協力を願うこととした。

午前7:50～8:10 午前8:10～8:30

午後3:00～3:20 午後3:50～4:10

午後4:25～4:45

地域には、学校評議員の構成メンバーである「少年補導」「体育振興会」を中心に諸団体へ声をかけることとした。保護者を含

め、現在40名ほどの方が登録してくださっている。メンバーの方々には写真のような名札をつけて、「門掃き」「草花の水やり」「散歩」「買い物」などをしていただきながら、見守ってくださるようお願いしている。さらに、この時間帯が保護者と地域の方々との交流のため、あいさつ（声かけ）等に協力していただいている。



6月28日には、PTA主催の保護者対象とした防犯教室を開催し、下鴨署の生活安全課の方に「子どもたちが自分で身を守る方法」についてお話しいただいた。また、PTA会員全員にプレートを配布し、自転車やバイクの前につけていただくよう、協力を願った。

#### 「防犯ブザー」の配布

児童全員にPTAより「防犯ブザー」を配布した。ただ、子どもに渡すだけでなく、「防犯教室」を設定し、下鴨署の方に「自分で身を守る方法」というテーマで、防犯ブザーの使い方についてもふれさせていただいたうえで、会長から子どもへ渡すこととした。



## 2 取組の成果・課題

### (1) 成果

児童数減少に伴い、PTAの活動を継続すること自体難しくなってきたが、子どもの安全に向けて、臨時の委員会など、すばやく動けたことがよかった。また、もともと地域で少年補導や養正交通安全会の方々がパトロールや交通指導をしてくださっていたので、子どもを中心にPTAと地域とがつながるうえでも有効であった。

### (2) 課題

- ・見守り隊を結成したものの、登録人数はまだ多いとはいえない。今後もPTA・地域・学校からそれぞれ呼びかけていく必要がある。
- ・PTA主催の防犯教室は、参加人数が少なかった。今後様々な活動を通して、一人一人ができることに取り組んでいくことを、呼びかけていく。
- ・学校では、子どもたちに安心・安全を含め、地域の方々に様々な形でお世話になっているという意識を育てていくことが重要である。

# 養徳子ども見守り隊

養徳小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 見守り隊の発足

本校校区においては、ずいぶん以前から、少年補導の方々の毎朝の安全確保の見守りや、PTA地域委員会の方々の登校時の立ち番の見守りなどの取組を続けてきた。また、左京老人福祉センターでは子ども見守りのバッジをつけてセンターへの往復や買い物などへ出かけていただいている。



このように多くの方々に見守っていただいているものの、子どもたちが学校から下校する時は、学年によって、また曜日によって授業終了時刻が異なるというのが現状である。学校としては、毎日3名の教員が時刻をずらして下校時刻に地域を見回る活動をしてきた。また、保護者の方々には帰宅時に家の外に出での出迎えをお願いしてきた。しかしながら広い校区のためどうしても手薄な感じは否めない。

そこで、少しでも多くの方に下校時の子どもたちを見守る活動に参加していただけないかと考え、各授業時間終了時に下校の見守り活動に参加いただける方を募集した。

### (2) 見守り活動の様子

登校時の見守り活動はおよそ10年前から少年補導委員会の方々による毎日の見守り活動がある。主要な交差点に立っていただき、交通安全も含めた見守り活動をしていただいている。多くの子どもたちが通過した後は通学路を後追いしながら学校まで送っていただいている。様々な事情で家を遅く出た子や、足取り軽く登校できない子にとって心強いサポートとなっている。

また、PTAの地域委員会の方々が、通学路の中で危険度の高いポイントにおいて定期的に立ち番をしていただいている。立ち番をする中で子どもたちに「おはよう」のあいさつをしていただいたり、安全な通行について呼びかけを

していただいたりしている。

下校時の子どもたちを見守る「養徳子ども見守り隊」は、出迎えがてら、あるいは散歩や買い物がてらに子どもたちを見守っていただく活動として、できる事からそして、何より長く続けられるようにしようとしてスタートさせた。

募集については、学校で全家庭に募集案内を配布し、さらに地域の方にご協力いただき校区内の全家庭にも配布した。

子どもたちが下校する頃には、腕やかばんに腕章をつけた「見守り隊」のメンバーの方が出迎えをしていただき、わが子や孫と共に近くの子どもたちも一緒に連れ立って帰ってくださっている。



## 2 取組の成果・課題

下校時に腕章をつけた見守り隊の人たちを養徳校区のどこでも見られるようにしたいという願いでスタートした子どもたちの見守り活動により、保護者や地域の方々の安全に対する意識がさらに高まったのは確かである。PTA行事のあるときにも見守り隊への参加呼びかけを行い、新たな参加者も増えている。仕事がなければいつでも参加するのだけれどという保護者の方もおられ、今後見守り隊のメンバーをいかに増やすかが課題である。

また、今年度はPTAが「養徳学区こども110番のいえマップ」を新たに作成した。「こども110番のいえ」の再確認と新たな募集を行い、わかりやすく地図にあらわした。

下校時に見守り活動をしたり、途中まで連れ立って帰る友だちがいたりしても、家の近くになるとどの子も最後は一人になる。子どもが一人になってからが心配である。見守り活動を推進するとともに、自分の安全は自分で守ること、万一の時にはどのように行動すればいいのかという、子どもたちへの安全指導も繰り返し行っていくことも大切である。

# 子どもの安全を守り 住みよい修二学区を作る

修学院第二小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 修二子ども見守り隊の結成

子どもの安全を脅かす事件・事故が多発する中、平成18年3月25日、修二自治団体連合会の呼びかけにより、地域諸団体長が集まって子どもの安全確保について協議した。その結果、4月23日、修学院第二小学校の体育館において「修二子ども見守り隊」結成のつどいが開催された。



結成の主旨は、直接的には子どもたちの安全を見守ることであるが、そのためにはまず、「防犯に強いまちづくり・住みよいまちづくり」が必要であるという認識の下、次の4点を活動方針にしている。

地域の中に日常的に子どもたちを見守る目があること。

あいさつが溢れる学区にすること。

学区民のふれあいと交流を進める。

防犯に強いまちをつくる。

### (2) 見守り隊ボランティアの募集

見守り隊には、少年補導委員会や社会福祉協議会をはじめ地域諸団体が団体として登録しているほか、保護者や地域住民にもボランティアとしての登録をお願いしている。

なお、右の登録用紙を提出していただいた方には、名札式の登録者証を発行し、見守り活動のときは首から吊り下げていた

だくことにしている。

### (3) 見守り隊の諸活動

見守り隊及び見守り隊を構成する諸団体の活動は、前述4点の活動方針に基づいて次のように分けている。

直接子どもたちの登下校を見守る活動

防犯教室や安全マップづくりなど「防犯に強いまちづくり」のための取組

学区民のふれあい・交流を進める取組

見守り隊の活動をアピールすることにより犯罪を抑止するための広報活動

## 2 取組の成果・課題

上記のうち、安全マップづくりは、これまで印刷されたものを配布するだけであったが、今年度、親子で通学路を歩いて危険箇所や気になるところをチェックし、それを体育館に持ち寄ってみんなで（グループに分かれて）作り上げることにした。また、帰りは「こども110番のいえ」をチェックしながら帰宅するなど、それぞれの取組において、できるだけ大人と子どもを交えた体験的な活動を取り入れることにより大きな成果をあげるように工夫した。



さらに、保護者等の個々の事情を配慮しながら、無理のない範囲でできる活動例をアンケートで集めたり、提案したりして見守り隊への参加を促してきた。

今後も活動の軽重やそれに費やす時間の長短に拘らず、個々が参加意識や地域住民としての連帯感をもてるような取組を工夫していきたい。



# 放課後の子ども見まもり活動

～下鴨子ども見まもりたい・アフタースクール～

下鴨小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 下鴨子ども見まもりたい

下鴨小学校では、これまでPTA活動として、校区の危険箇所を調べて安全マップを作成したり、自転車に『パトロール中』のステッカーをつけ、外に出かけるときなどに子どもの様子を見まもったり、地域でのパトロール活動を行ったりして、子どもの安全確保に努めてきた。

平成18年2月には「下鴨子ども見まもりたい」が発足し、PTAや少年補導、鴨寿会（老人会）、体育振興会、市政協力委員連絡協議会等の地域諸団体の協力を得て、低学年の子どもを中心とした下校時の見まもり活動が始められた。発足に際しては、地域の諸団体やPTAに呼びかけ説明会を開き趣旨説明を行った。また、緑色のストラップと腕章を作成し、「見まもりたい」と判別できるようにした。

低学年の下校時刻にあわせて、「見まもりたい」のボランティアの方々が校門に集合され、主に3コースに分かれて、校門から子どもたちの家の近くまで共に下校しながら、子どもたちの安全を見まもっていただいている。1年と2年の下校時刻が異なるときは、ボランティアの方によっては二往復していただくこともある。見まもり活動により、子どもたちは安全を守られ、安心している。

### (2) アフタースクール事業

子どもが「放課後を安心して有意義に過ごせる居場所作り」を目的として、平成18年4月から、ふれあいサロンを利用して、アフタースクール事業が始められた。地域団体の一つの「にこにこクラブ」が主体となり、PTAは委員会組織に「児童委員会」を新設し、事業の毎月の企画や運営、参加児童の把握、ボランティアとの調整等を行っている。

全学年対象の登録制で、子どもたちはいくつかの約束を守りながら、落ち着いた環境の中で2名の指導員やボランティアの方々に見守られながら、遊んだり勉強したりしている。

工作教室やおやつ作り、ランドゴルフ、校外学習等に保護者や地域の方々がたくさん関わっておられる。

## 2 取組の成果・課題

「見まもりたい」による同伴下校が始まってから、ボランティアの方々に防犯だけでなく交通安全指導もしていただき、下校時の交通事故防止にも貢献していただいている。

また、ボランティアの方々が子どもたちと関わる中で信頼関係が深まり、子どもたちの危険な行為や羽目を外した行為に厳しく指導することもできるようになり、地域として子どもたちを見まもっていることが根を下ろしてきた。

ボランティアの人数を増やすことが大きな課題であり、広報活動を行っている。区民運動会や夏祭り、チャリティーコンサート等にて、防犯の寸劇等をしてしたりして、アピールしているところである。

校門に一週間の下校予定時刻を掲示しているが、下校時刻の変更等が生じたときに、確実に学校がボランティアの方々に伝えることも大事なことの一つである。

「アフタースクール事業」については、子どもたちがいろいろな体験をさせてもらいながら、楽しく放課後を過ごしており、子どもの自信につながっている。

課題としては、定着した活動の部屋がなく、地域や学校で使用するふれあいサロンで活動するために、時々別の部屋へ移動しなくてはならず、様々な支障が生じていることである。

今後も、「見まもりたい」と「アフタースクール事業」の両面を大事にしながら、子どもの安全を見まもっていきたい。



〔見まもりたい〕



〔アフタースクール〕

# いつまでも 今熊野子ども見守り隊

～ 学校・家庭・地域の連携のもと～

今熊野小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 地域ぐるみの見守り隊へ

昨年度、各教室・特別教室など全ての場所と職員室とをインターホンでつなぎ、いざというときのための連絡に使えるよう整備したり、各教室にさすまたを設置したりするなどハード面での防犯対策をさらに強化した。また、警備会社による「防犯教室」を行い、子どもたち自身で身を守ることを学んだ。このような中、12月に他県で子どもをねらった事件が発生し、校区の近くでも子どもへの暴行事件が起こるなど、子どもや保護者の不安が大きくなってきた。そこで、1・2年生の集団下校を教員の引率のもと、スタートした。それと同時に、PTAより保護者へ、下校の引率や登下校時の声かけ・見守りなどの協力の依頼が呼びかけられた。その結果、約15名の保護者や祖父母の協力と「こども110番のいえ」が増えるなど、子どもの見守りの第一歩を踏み出すことができた。

今年度、この取組を継続、再度の募集を実施し協力者も増えてきた。また、7月には地域・諸団体への呼びかけにより、「子ども見守り隊」が発足した。発足式には、警察やスクールガードリーダーの方にも来ていただき、防犯の心得などについてもお話を聞かせていただいた。

### (2) 「いつまでも長続きする 子ども見守り隊」をめざして

子どもを見守る活動は毎日のことであり、保護者や地域の方々に無理なく、安全に協力していただける取組が考えられなければならない。そこで、それぞれの立場でできる子どもの見守りを考えてもらっている。例えば、

- ・ 登下校の引率
  - ・ 道の角に立って声かけ
  - ・ 朝の門掃きや犬の散歩を登下校の時間に合わせた子どもの見守り
  - ・ 来校のとき、お出かけのときに見守り隊の腕章を着用
  - ・ 見守り隊ステッカーを貼った自転車でのお出かけ
- などである。協力者の全員に子ども見守り隊の

腕章を持ってもらった。今熊野校区では時間に関係なくこの腕章を着用している人があちこちに歩いているという状況をつくりたいと考えている。このことが、犯罪の抑止力につながっていく。



### (3) ボランティア活動を通じて

この「子ども見守り隊」の発足により、学校・保護者・地域の連携で子どもたちを見守っているという機運が高まると同時に、学校への関心も深まりさまざまな取組・行事などへの参加も増えてきたようだ。

また、このような取組を進めていくうちに、子どもたちへの声かけから挨拶の輪が広がり、子どもたちも地域の方々と同様顔なじみになるなど、温かい雰囲気が感じられるようになってきた。さらに、地域の方々同士の会話が生まれ、大人のつながりも深まってきたという声も聞かれるようになった。



## 2 取組の成果・課題

学校・家庭・地域とも、危機感の希薄化を防ぐための取組が必要である。

Ex. 地域ぐるみの「防犯教室」、地域への情報発信（活動の様子や子どもの安全に関わることを学校だよりやHPで）ボランティア募集の呼びかけ

# 学校・家庭・地域が一体となった安全確保を

大枝小学校

## 1 取組の内容・方法

本校は旧山陰街道に面し校区は東西に長い。住宅地は旧街道沿いにあり、児童は登下校時には、狭い旧街道を通っている。

近くを通る国道9号線は亀岡方面から京都市内へ、あるいはその反対の流れで交通量が多く、車の混雑もよくあり、旧街道にも地域内外の車両が多く出入りする。

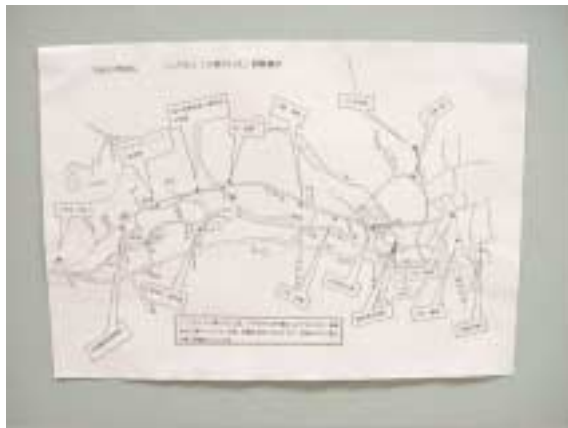
このような状況の中で、今までから登校時の安全については、教職員の通学指導や、PTAによる旗当番（立ち番）、地域の方々の声かけなど、交通安全だけでなく不審者から子どもを守る取組を進めてきている。



しかし、全国的に下校時に小学生が被害にあうケースが多いこともあり、登校時の旗当番に加えて、本年度6月からPTAによる下校時パトロール（旗当番）を始めている。旗当番当日の午後2時ごろから4時半ごろまでの都合のよい時間帯で、30分から1時間程度、腕章をつけて通学路を徒歩や自転車でもパトロールして、子どもたちを見守っている。そして、その日に気付いたことや感想をノートに記入し、今後のパトロール向上のために役立てたいと取り組んでいる。保護者全員で大枝小学校の子どもたちをあらゆる危険から守りたいという願いから取組を進めている。

加えて、今年度から「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」により、スクールガードリーダーの活動が始まり、学校、保護者、地域及び関係団体・機関と連携した取組を行っている。

また、学校・PTAが西京警察署との連携を行い、通学路のパトロール強化をお願いしている。校区内で「こども110番のいえ」として協力していただいている家を確認し、校区地図に印をつけたマップを作ったり、地域の危険場所等を記した安全マップをつくったりして、全家庭に配布している。



学校評議員の方の意見交流の場で、以前から活動している地域の方々、各種団体等の方々による地域の防犯・安全対策をさらに進めるとともに、学校・保護者の取組の連携により、「大枝小子どもみまもり隊」としての取組に広がり、深まることになるということも話し合われた。

## 2 取組の成果・課題

PTAによる旗当番（立ち番）と、下校時パトロールの実施による旗当番・パトロールノートの記述から、子どもたちがあいさつしてくれたこと、下校時一人で帰る姿がなくなったことなど子どもたちの姿からのよい面が見られた。一方、子どもたちの様子や地域の様子がわかったことにより、さらに子どもたちの周りにおける危険から子どもたちを守るために、子どもたちへの声かけなどを通して、もっと防犯・安全対策をしていかなければという思いが多くあった。そこで学校・PTA・地域それぞれの取組を引き続き進めるとともに、さらに地域・家庭・学校が一体となった取組になるよう、地域ぐるみで子どもを守るシステムづくりを強化していくことが必要である。



# 安心・安全ネット活動の取組

上里小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 上里見まもり隊発足

PTAが中心となり地域に向けて子どもたちの登下校の安全を見まもる「見まもり隊」を募集し発足した。子どもたちの登下校時に合わせて、ジョギング・清掃・散歩・買い物・草花の世話等、時間のある時にボランティアとして活動していただいている。また、地域のお年寄りの方々が中心となり、子どもたちの登下校に合わせて毎日同じ場所に立って見まもっていただいている。時間帯は、児童の登校時間午前8時～8時20分頃と下校時間午後2時～4時頃までをお願いしている。今年4月の「1年生を迎える会」に招待し、児童に紹介後、代表児童がお礼を述べた。12月には、2年・5年生の「収穫祭」に招待して、交流を深めた。



スクールガードリーダー



PTA声かけ運動

### (2) PTAの活動

PTAの活動として、地域委員が中心となり、毎月5のつく日に「声かけ運動」、15日には、集団登校に付き添い安全確保にあたっている。毎年新1年生の保護者にPTAパトロールのプレートを配り、自転車や車につけてもらって買い物等の時にパトロールをしていただいている。また、「上里見まもり隊」にも登録して、活動していただいている方もおられる。

### (3) 教職員

毎朝学校近くの信号機の所で集団登校のようすを「見まもり隊」の方と一緒に見まもり、挨拶を交わしている。また、「ハローウィーク」いう声かけ運動を前期と後期に全教職員で行っている。また、防犯研修会を行い西京警察署から講師を招き、緊急時に対応できるように研修を重ねている。

### (4) スクールガードリーダー

毎週火曜日に巡回パトロールをしていただいで、子どもたちの登下校の様子や安全について見まもっていただいている。

## 2 取組の成果・課題

### (1) 成果

「見まもり隊」の方々と児童のふれあいが広がり、道で出会った時にも挨拶する児童が増えてきた。地域で顔見知りの方が増えたということは、不審者への抑止力になっていると考えられる。「見まもり隊」を組織したことにより、保護者も危機管理に対する意識が高まり、子どもたちを自分たちで守っていくという気持ちも強くなってきた。

### (2) 課題

ボランティアで活動していただいている「見まもり隊」の方々には、常時活動の方と不定期活動の方がおられ、それぞれの保障を今後どうしていくのか。また学年・学校行事等で時間変更したときの連絡方法をどうしていくのか等、「見まもり隊」の組織基盤をしっかりしたものにしていかなければならないということがこれからの重要な課題である。

# 笑顔で声かけ みんなで守ろう子どもの安全・地域の安全

～ 福西安全見守り隊の結成～

福西小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 福西安全見守り隊の結成

福西小学校区では、8月10日に福西安全見守り隊が結成された。子どもたちの安全を守ることに重点を置き、安全・安心で住みよい福西地域にするためにお互いに声をかけ合い、助け合える住民相互の結びつきを強めることを目的としている。



[ 子どもたちへ福西安全見守り隊の紹介 ]

### (2) 活動内容

#### 安全パトロール

「この町は大人の眼が光っています」という町にするために取組が始まる。この取組を長く、持続させていくために自らの意思や判断による活動を自分の都合のよい時間に行うことを共通理解して活動を進めている。



[ 下校時の子どもたちと見守り隊の方 ]

#### [ 活動時間の例 ]

- ・ 地域内の散歩や買い物に出かけるとき
- ・ 水やりや掃除（門掃き）、子守のとき
- ・ 通勤時間に学区内を行き来するとき
- ・ 会議、会合などで往復するとき
- ・ 家の前での立ち話のとき

#### 登下校の見守り

笑顔で「おはよう、さようなら」のあいさつ

登校時刻 8時～8時30分

下校時刻 14時～16時30分

学童保育・部活動下校時刻 17時30分

放課後や休日の子どものたちへの声かけ

「目配り、声かけ」をためらわずに行う。

- ・ 地域で遅くまで遊んでいる子どもへ
- ・ 一人で遊んでいる子どもへ
- ・ 危険な遊びをしている子どもへなど

#### 福西安全マップの作成

みんなで作る地域の安全マップー

- ・ 見守り隊の活動を通して、さらにより良い安全マップを作り上げる。

## 2 取組の成果・課題

- ・ 地域全体に子どもたちを見守る意識が広がる。
- ・ 「こども110番のいえ」の増設、地域・家庭・学校が一体となった取組をさらに進める。



[ スクールガードリーダー 見守り隊 学校の教職員と下校時の話し合い ]

# 地域で見守る大原野のこども

大原野小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 見守り隊の活動の取組

大原野小学校は、京都市の南西部にあり、西京区の小学校の中でも、一番広い校区を占めている。西には西山を望み、校区のほとんどが田畑・竹林・山林と自然に恵まれている。登校は集団登校を行っているが、下校は、遠くへ人通りの少ない道を時間をかけて帰る児童も少なくない

このような校区の状況をふまえ、大原野小学校の広い校区で子どもたちが安全に通えるようにとの地域の人々の願いから「大原野見守り隊」が平成18年2月に発足した。大原野自治連合会長を代表に地域の各種団体長やボランティアの方々で構成されている。自治連合会から車用のステッカー、腕章、たすき、ジャンパーなどが用意され、見守り隊の方やボランティアの方に配られた。



活動としては、下校時の校門での指導、車による校区パトロール、登下校時の声かけなどを行っている。

### (2) PTA手作りの安全ステッカー

各家庭でも子どもたちの安心・安全を意識してもらうために、PTA手作りの安全ステッカーを使用法を書いたプリントとともに全家庭に配布した。車や自転車に付けたり、家の見えるところに貼ったりして、活用してもらっている。



### (3) 防犯ベルの贈呈

子どもたちの登下校の安全を願って地域の「大原野交番地域安全推進委員会」から全校児童に防犯ベルが寄贈された。児童代表の6年生が委員長から受け取り、全校児童に配布した。



## 2 取組の成果・課題

見守り隊の結成で、地域全体で子どもたちを守っていかうという意識が高まり、多くの人たちに行動してもらっている。しかし、広い校区を隅々まで見てもらうことは大変困難で、地域の方々からもいろいろなアイデアが出され、検討を重ねている。



# 安心・安全の町 室町

室町小学校

## 1 取組の内容・方法

本校は、明治に番組小学校として創立された教育意識の高い地域である。子どもが育ってこそ地域の発展があると考えられてきた。それだけに、町の治安を守ることに労力を惜しまない。自治連合会を中心に、少年補導、自主防災会、交通安全会などがしっかりと組織されている。

地域的には、交通量の多い烏丸通や今出川通、堀川通に囲まれているが、一歩中に入ると、町屋が整然と並び、人通りの多いにぎやかな町である。しかし、近年、渋滞を避けて抜け道として利用する車が増えてきた。

このような状況の中で、特に登校時の交通安全対策として教職員や地域の方、保護者が交差点等に立ち、安全指導を行ってきた。中立売警察署の協力も得ている。



校内はPTA、同好会活動、老人会活動などで人の出入りが多く、日常的に子どもたちと声を掛け合う習慣が出来ており、知らない人が校内に入りにくい雰囲気を作り出している。それゆえに、室町だけは、事件が無いと自負されてきた。

しかし、全国的に小学生に対する事件等が多発しており、予断を許さない状況にある。そこで、学校として次のような校内安全に取り組んでいる。

- ・ 来校者への名札の着用依頼、
  - ・ 各教室への緊急電話の整備
- 学校の取組にあわせて、PTAも動き出した。
- ・ 参観日等の校舎入り口の受付
  - ・ 全児童への防犯ベルの配布

学校やPTAの取組を見てこられた自治連合会からも「学校内の安全だけでなく、子どもが活動する地域全体の安全を考えよう。」と「こども

110番のいえ」の見直しに着手された。以前からある「こども110番のいえ」マップをもとに、一軒一軒訪ねては、改めて承諾を得られた。さらに、必要な所では新規の依頼もなされた。その結果、学区内で60件もの家が快く協力を申し出られた。そこで、60件の地域の方々を集まってもらい、地域全体で子どもを守るという「こども110番のいえ」の意義から、子どもの通学時間帯や駆け込まれたときの対応の仕方までが改めて話し合われた。



今年度は、地域老人会からも協力の申し出があり、子どもたちの下校時間に合わせて、各々の家の前に立つという取組が始まった。当初は30名ほどの有志だったのが、現在は60名を越えるようになった。



## 2 取組の成果・課題

子どもたちは、毎日顔を合わす方々と挨拶を交わし、安全が守られるだけでなく、地域の方々のコミュニケーションが図れるようになってきた。このことから、「安心安全の町 室町」は人のつながりが作り出しているものだという意識と誇りをみんなが持つようになってきている。

今後は、さらに多くのボランティアの方が参加されることを願っている。

# 地域ぐるみで子どもたちの安全安心を守るために

乾隆小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 地域を巻き込んだ取組について

子どもたちの安全を確保するためには、地域住民が可能な限り子どもたちに声をかけていき子どもたちに安心感を与えること。そのために育友会が作成した協力のお願いの依頼文書を地域全戸に配布した。

登下校時に門掃きや水やりなどをしながら子どもたちに声をかけながら見守るといった地域ぐるみの取組に発展していった。

この取組を通して、子どもたちが地域の方々の顔を覚え、地域の方々が子どもたちの顔を覚えることにつながり、子どもたちは皆に見守られていることを実感した。

### (2) 保護者としての取組について

毎月の15日を「安全の日」として育友会補導委員会（町ごとに編成）が中心になり、輪番で登校時に地域内の各所の交差点などに立って、登校してくる子どもたちの安全確保をする取組を推進している。特に交通量の多い交差点や路地については、十分に配慮をして取り組んでいる。

この日に合わせて、育友会の補導委員長が自転車で地域内をパトロールする。登校してくる小学生のみならず、中学生にも声をかけることで、より継続した取組になるよう意識づけをしたいと考える。

また、育友会運営委員が中心となり、登校時の子どもたちにあいさつができるよう、正門や通用門などに立って、子どもたちの安心感をより高める取組を推進している。



### (3) 地域諸団体の取組について

地域住民で編成された「平安レディース」の皆さんが、正門及び通用門に立ち、子どもたちにあいさつする取組も推進している。

## 2 取組の成果・課題

### (1) 意識の高まり

以前から、乾隆小学校校区には「地域の子どもは地域で育てる」という機運があるが、本取組を始めてからは「地域の子どもは地域が守る」という意識の高まりを感じた。その成果として、地域住民から積極的な子どもたちへの声かけが見られるようになった。

### (2) 信頼関係の構築

地域住民からの声かけやあいさつを通して子どもたちが地域の方々の顔を覚え、地域の方が子どもたちの顔を覚えることによって、互いに顔なじみとなり、下校後や休日等においても親しく接することができ、子どもたちと地域の方との信頼関係がずいぶん深まった。地域の方が、子どもたちに気軽に声をかける姿は、外部の不審者に対する抑止力になると考える。

### (3) ネットワークの構築

地域の諸団体の方や育友会会員が子どもたちを守る取組を推進する中で、情報交換や交流の場が増え、地域の中におけるネットワークが構築され、地域としてのまとまりが一段と高まった。

### (4) ボランティアの輪を広げる

子どもたちの安全を守る取組を開始してから6年以上経過すると、子どもたちへの関わりが、少し固定化してきているように感じる。

さらに地域の方の掘り起こしが必要な時期であると考えている。そのためには、再度子どもたちの安全を守る協力の依頼を、全戸に配布する予定である。その際に「安全ボランティア」を募集して、新たな人材を掘り起こし、組織の再編を図りたいと考える。この取組により、地域のネットワークを再構築して、より安心して生活できる町づくりを目指していきたいと考える。

# 地域が見守る子どもたちの安全

朱雀第二小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 朝の立ち番

本校では、約20年前からPTAが中心となり、地域（少年補導・交通対策協議会・女性会・社会福祉協議会・体育振興会）に呼びかけ、登校



時の安全確保や声かけを目的に学校周辺の道路で毎日当番を決め、朝の立ち番をしています。

朝の忙しい時間であるが、地域の一般ボランティアも加わり、すっかり定着した活動である。

### (2) PTAの取組

児童全員に防犯ブザー・各家庭や地域諸団体に「朱二小パトロール中」(自転車等に取り付け用)のカード・「守ってください子どもたちを！」(掲示用)のカードの配布、少年補導と連携した夏季休業期間中の夜9時からの地域パトロール、学校とPTAが協力して作成した大型「朱二校区安全マップ」の見直し等行っている。

また、今年度より「朱二小見守り隊」を結成し、保護者や地域に名札を配布し、来校の際には必ず携帯してもらうようにしている。



### (3) 地域の取組

自治連合会が中心になり、地域の子どもの安全を守るために、平成18年夏に「朱二安心・安全みまもりたい」が発足した。「登下校みんなが見守る 地域の目」をテーマに、11月に行われた朱二ふれあいまつりでは地域の皆さんにPR活動を行った。

今年度の重点的な活動として、地域をまわり「こども110番のいえ」への協力の呼びかけを行っている。現在21軒だが2倍以上に増える見通しだ。また、「こども110番のいえ」の所在マップも作成中である。



## 2 取組の成果・課題

今年度よりPTAや地域が主体となった見守り隊が発足し、数々の取組がなされた結果、保護者や地域の方々の安全に対する意識が高まった。

一方、下校時の安全を見守る体制が取りにくいことが悩みである。スクールガードリーダーや学校としての体制も整えていくとともに、地域への無理のない協力の呼びかけを今後も行いたい。



# 元気よく あいさつ 声かけ みんなで 子どもの 安心安全を 九条弘道小学校

## 1 取組の内容・方法

本校では、学校、児童会、PTA、地域の皆様が連携し合って、登校声かけ運動を行っている。

### (1) 児童会のあいさつ運動

児童会は長期休業期間の前後に校門に立ち、大きな声で「おはようございます」のあいさつ運動をくりひろげている。



本校は難聴学級を設置しており「おはようございます」のこぼしプラカードを掲げて、一人一人に呼びかけている。

難聴学級児童は公共交通機関による遠距離通学のため、保護者と協力し、連絡も密にしながら登下校の安全を図っている。特に登下校のあいさつは大切にしており、こぼしプラカードなどは有効な伝達手段であり、全児童にとっても訴える力となっている。

### (2) PTAのあいさつ運動

この運動と前後してあるいは同時に、九条弘道PTA会員も校門に立ち、子どもたちに「声かけ、あいさつ運動」を前・後期実施している。校門での父母の声かけは、親しみがあるため子どもたちもいつもとは異なる表情をみせ、はにかみながらも元気にあいさつを交わしている姿が見られる。保護者からも子どもたちの登校の様子や歩道を歩く様子、あいさつの様子、登校経路の安全の確保などについて、貴重なご意見・ご感想をいただ

ている。

### (3) 地域委員会による声かけ

また、朝の集団登校を行っているが、PTA地域委員による集団登校の集合場所での、声かけあいさつ、集合出発の確認など、安全確保に向けての活動を地域との交流の観点からも長年継続して取り組んでいる。

声かけによって、地域の方々との交流を大切にする中で、子どもたちは地域に見守られているという安心感を感じていると思われる。

PTA地域委員会やPTA企画委員会、さらには学級懇談会において、このような日常的な取組を通して得られたさまざまな安全に関する情報の交流を行い、より一層の安全確保のために生かしている。

## 2 取組の成果・課題

- (1) 他学年の児童や友だちの家族との交流機会も増え、学年の枠をこえての自他の安全への意識付けに役立った。
- (2) 地域、保護者に児童会の取組の一端をとともに体験していただき、子どもたち一人一人への呼びかけの大切さを再確認していただけた。
- (3) 登下校「おはよう」声かけ運動と集団登校経路点検から、子どもの登下校時や放課後の安全を図るためにPTA地域委員による「こども110番のいえ」倍増に向けた取組を行い、校区の多くの皆様からの協力で目標を達成できた。
- (4) 本校は国道1号線、JR、近鉄、市バス等々交通の至便なところに位置している。日常的に諸車両、人の通行が多い。本校周辺の交通事情と環境状況の変化を常に把握して、安心安全への取組を有効に行う。
- (5) 人々との交流については、あいさつを基本に、コミュニケーション手段の多様な有効利用によって、人々とのつながりを深め、同時に安全への意識を高めて、安全を確保することが肝要と思われる。

# 地域ぐるみで守る子どもの安全

陶化小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 地域の取組

#### ア 朝の声かけ運動

毎月第一月曜日の朝、PTAと連携し、校区内10ヶ所に立っていただき、登校する児童に「おはようございます」「行ってらっしゃい」と声をかけていただくとともに交通安全にも気を配っていただいている。



#### イ 交通安全教室

11月の土曜日に、PTAと南警察署の協力を得て、子どもたちと高齢者を対象に行っている。

子どもたちは運動場で自転車走行指導を行い、高齢者は体育館で安全教室（高齢者歩行システム）を行っている。



### (2) PTAの取組

#### ア 防犯ベルの配布

本校では全市に先駆けて、最初に児童に配布した。毎年新1年生に入学式で配布しているので、全児童が携帯している。また、「防犯ベル携帯中」のシールをランドセルに貼っているため、防犯に役立っている。



#### イ 「パトロール中」の防犯プレート

自転車のかごに取り付けるプレートを配布し、防犯活動を推進していただいている。

#### ウ 校外パトロール

毎月3回、夕方に校外補導部を中心に、校区の交通量の多い所や危険箇所等をパトロールしていただいている。



### (3) 学校の取組

#### ア 安全マップ

校区内の危険箇所や「こども110番のいえ」を記載した校区地図を配布している。

#### イ 地域パトロール・校区パトロール

## 2 取組の成果・課題

PTA・地域の諸団体・学校が連携して、子どもの安全確保のための取組を進めることができ、幸い事故もなく安心して登下校できている。

下校時の安全確保のための組織的な取組や自分の身は自分で守る意識と行動のための指導の徹底が課題である。

# みんなで意識し みんなで守る こどもの安心安全

吉祥院小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 全ての時間に

登校時や下校時だけでなく、放課後も含め、子どもたちが活動している全ての時間に、校門付近や登下校路、あるいは公園など多くの場所で子どもたちの安心安全のための活動を展開している。

### (2) 多くの人が

教職員や保護者だけでなく、地域の自治連合会・交通対策協議会・少年補導委員会・女性会など各種団体の方、さらに、地域のお店の方など、大勢の人が子どもたちの安心安全を意識して、「声かけ運動」や「あいさつ運動」を行っている。



### (3) 児童自らも

各学年で互いに声をかけ合うことの大切さを話し合うとともに、児童会を中心に、「あいさつ運動」に取り組んでいる。また、各自が防犯ベルを携帯するとともに、ランドセルにも「防犯ベル携帯中」のステッカーを貼り、児童自ら防犯に取り組んでいる。また、防犯訓練の時には、少年補導委員会などの人たちが、よりわかりやすく、しかも、より実践的な防犯に向けての寸劇をしていただくなど、児童の防犯意識も高まっている。

## 2 取組の成果・課題

登校時など校門や交差点、あるいは、各家の玄関前などで声かけやあいさつを実施しているが、多くの方が本校の小学生だけでなく、中学生や高校生、あるいは、校区に働きに来られている方にも「さんこんにちは」「さんおはよう」と声をかけられている。すると、小学生だけでなく少し恥ずかしそうに中学生や高校生、さらに、にこっと笑って大人の方たちがあいさつをして通り過ぎて行かれる。これは、地域全員の温かい思いが通り過ぎて行かれる全ての方に通じているのだと思う。このことが、地域の人や子どもたちへの安心安全につながっている。



この何気ない「声かけ運動」や「あいさつ運動」の取組を今後も地道に校区全域に広げていき、益々温かい吉祥院校区を作っていきたいと考える。



# 黄帽で元気に登校!ぼくらの安全

祥豊小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 黄色帽子は安全のしるし

「おはようございます」子どもたちの元気な声が行き交う。毎朝の登校風景の始まりだ。交通巡視員さん、少年補導、交通対策協議会、PTA本部役員他ボランティアの皆さん、JRバスの職員さん、教職員の毎朝の見守り活動によって安心して、子どもたちは集団登校してくる。

一番の登校の難所は、JR高架下の横断歩道。T字型交差点は、子どもたちだけでなく、地域住民はもとより、本校区に勤務先を持つ多くの人々が行き交う。車の交通量も多く、JR高架のため、南北の交通が集中する要所でもある。この場所を重点として上記の皆さんが校区の要所に立ってくださる。

祥豊小学校児童の目印は、黄色い帽子。遠くから見ても、よく目立ち、すぐに本校の子どもとわかる。この黄色い集団の登校そのものが、地域を行き交う人たちに、子どもたちの安心安全に対する意識を高め、子どもたちの見守り活動の輪を広げてきた。今では、民生児童委員の方々も加わって子ども見守り隊も結成され、他の要所や下校時の見守り活動も充実してきた。

当初は、黄色帽子を忘れてきたり、高学年児童がわざとかぶらなかつたりしていたが、近年、安心安全のためにしっかりかぶろうという指導のもと、ほとんど全員がかぶってくるようになった。

子どもたちが一つのルールを守ることによって、「ルールは守る」という意識が次第に育ってきたこともうれしいことだ。

### (2) 地域ウォークラリー

この見守り活動の意識を高めたのは、6月24日(土)に行われた、地域ウォークラリーの実施で

あった。PTAが各種団体の協力を得て実施。校区を、通学路をもとに、10あまりの方面に分け、それぞれのコースを児童、保護者、地域の方々とともに、危険箇所「こども110番のいえ」などを探しながらウォークラリーする取組だ。

歩く中で、危険箇所、特に車に注意するところなどを点検する。また、「こども110番のいえ」では、実際にその家の方々にあいさつし、子どもは場所と家の方の顔を覚えることができた。今後の更なるご協力を依頼した。要所には役員の方が立ち、安全に関するクイズを出して子どもたちの安全意識を高めた。

PTA役員の手作りののぼり旗を持って、校区のあちこちに、子どもたちと大人の行列が行き交った。暑い日差しであったが、充実したウォークラリーを終えて学校に戻ってきた参加者には冷たいジュースが待っていた。

この他、夜間の地域見回りなど、地域パトロールも充実している本校である。



のぼり旗を先頭に「危険な箇所はないかな」

# みんなで見守る子どもの安心安全

大藪小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 学校の取組

本校は校門前の道が狭い上に交通量が多いため、登校時には毎朝学校長はじめ教職員が校門前に立ち、「おはよう」のあいさつを交わしながら安全指導を行っている。また、子どもたちの登校の様子や危険箇所の把握、パトロール等を兼ねて、全教職員が手分けをして定期的に登校指導を行っている。



### (2) 「久世地域子ども安全見守り隊」の取組

大藪校の子どもたちの安全を守るために、地域の方々に「久世地域子ども安全見守り隊」への参加をお願いし、多くの方々に様々な場面でお世話になっている。見守り隊としてご協力いただいた方には、黄色の腕章・子ども安全見守り隊のジャンパーの着用をお願いし、子どもたちの登下校中において、それぞれ危険なポイントに立って子どもたちの安全を見守り、あいさつ等の声かけをしていただいている。

また、放課後の子どもたちの様子で気に掛かる行動があった時には直接子どもに注意を促し、その後学校に連絡をしていただくなど、連携を取りながら進めている。

### (3) 地域、各種団体の連携による取組

久世の各種団体、地域役員の方々にも登校時に定期的に危険な箇所立ち、子どもたちの安全を見守るためにご協力いただいている。

また、交通安全対策協議会が主となって行っている、道路に安全（かえる）マークを描く取組では、今年から子どもたちも一緒に参加して取り組み、地域の方々とともに危険箇所を確認しながら

活動を進めている。



### (4) PTAの取組

PTAは、子どもたちの安心安全を守るための防犯ベル等の購入に向けて、毎週金曜日に空き缶回収を行っている。朝の8時から校門の前で行っているため、「あいさつ運動」も兼ねており、子どもたちも「おはようございます」と元気な声であいさつをし、空き缶を持ってきている。



## 2 取組の成果・課題

教職員だけでなく、地域のいろいろなの方々によるあいさつ等の声かけによって、自然にあいさつする子どもや話しかける子どもたちが増えてきている。みんなが安心して過ごすことができる町づくりを目指すには、学校、家庭、地域が一体となって子どもに接しふれあいながら、みんなで見守っていくことが大切であると改めて感じている。これからもそれぞれ連携を深めながら見守り活動を進めていきたい。

# 地域で守ろう，地域の子どもたち！

～心の通うあいさつで，今日も安心・安全に～

岩倉南小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 「おはようさん！」から安心・安全へ

岩倉南団体自治連絡協議会では，常に地域のこ  
と，そして，岩倉南小学校の子どもたちのことを  
考えて各種の取組を行っている。そんな中，本校  
区も地域開発・児童数増加に伴い，「安心・安全」  
についても考えなければならなくなり，地域の方  
が自主的に，子どもたちの登校時刻に合わせて交  
差点に立ち，子どもたちの声かけ・登校安全指導  
を始めた。



「おはようさん。」  
「おはようございます。」

いつの間にか，  
子どもたちは地域  
のおじさんたちに  
見守られて登下校

するようになった。

今では，「あの子が通ったから，もう8時半やな。」  
と，日常生活の中でのふれあいの一環として，登  
下校の見守りを続けてくださっている。更には，  
卒業生のお母さん・おじいさんまでもが，門々で  
声かけしてくださるようになった。

### (2) PTAのボランティア活動として

校区の開発・転入生の増加等に伴い，各交差点  
で信号待ちをする子どもたちも増えた頃，PTA  
のボランティア活動として，「立ち番ボランティア」  
が結成された。

「月に1回だけの活動でも，朝だけでも，下校  
時だけでも，活動しやすい時間帯に子どもたちを  
見守ろう！」と活動してもらっている。

合わせて，保護者が，自転車や車に「パトロー  
ル中」のステッカーを掲示し，買物や授業参観時  
に校区パトロールを行っている。

### (3) 地域活動の一環として

地域の各種団体が，それぞれの活動の一環に校  
区パトロールを位置づけて活動している中，岩倉  
南女性会幡枝支部より，交通安全パトロールの申  
し出を受けた。今では，幡枝町で立ち番ボランテ  
ィアをしてくださっているPTAと連絡を取り合

って活動してもらっている。

## 2 取組の成果・課題

### (1) 安心・安全はつくるもの

転入生のお母さんが，「引っ越ししてきて，何  
も分からないまま，子どもを学校へと見送るとき  
に，立ち番ボランティアに会われた。そこで学校  
のことや，ボランティア活動のことを聞き，大変  
安心した。わたしも，一段落したら，参加しよう  
と思う。」と言われた。

また，今年度設立された岩倉南学区社会福祉協  
議会の皆様が，PTA 地域校外委員会作成の校区  
安全マップを手に地域を歩き，防犯・交通安全に  
関する情報をPTAに伝えた。昔からお住まいの方々  
の情報を加えることによって，昼夜の情報や地域  
ならではの情報も加わった地図となった。

学校での安全指導や1年生を中心とする集団下  
校等と合わせて，防犯・安全に関する情報をでき  
るだけ速やかに地域の各種団体・PTAに知らせ，  
学校と地域が一丸となって取り組むことに加え，  
日常的な活動の中に，「子どもたちの見守り」を  
位置づけて生活することが，今後益々大切になっ  
ている。

さらには，学校が核となって，交通安全・防犯  
指導，中学校・高校・警察等の各種機関との連携  
による情報収集・情報発信も大切である。

一方，学校行事や参観日，雨の日のお迎え等に  
車で来校される保護者があり，その車が下校する  
子どもたちの妨げや学校周辺の皆様への迷惑にな  
ることもある。

最低限のマナーを守ることから話さなければな  
らない現状も拭き切れない。





# 地域ぐるみで守る子どもの安全

八瀬小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 地域ぐるみの取組

#### ア 地域住民の見守り活動

八瀬学区民の皆さんにより構成された八瀬スクールガード（子ども見守り隊）が、子どもの登下校時に家の前で見守ったり、学校の前まで付き添ったりしている。



において、パトロールを行っている。

#### エ 情報交換

スクールガードリーダーとスクールガード、及びPTAの皆さんと一緒に見守り活動をする中で、防犯・安全に関する知識や地域情報等を交流し、安全体制の一層の充実を図っている。



#### イ PTAの声かけと登校指導

PTAとして、月に一回朝の声かけ運動を行っている。また、毎日数人の保護者が子どもの登下校を見守っている。

#### ウ 関係機関との連携

(ア) 左京区役所八瀬出張所が、毎日登校する児童に声かけと登校指導を行っている。



(イ) 下鴨警察署八瀬交番に、登下校の見守りや学校が参加する地域行事等においてパトロール等を依頼している。

(ウ) 八瀬消防分団が、校内宿泊キャンプ等

### (2) 学校の取組

#### ア 朝の声かけ

イ 地域・家庭と連携しての登下校時の見守り  
ウ 校門の締め切りや防犯カメラによる来校者の確認

#### エ 教職員による校区内パトロール

オ 地域・家庭・関係団体との安全対策に関する打ち合わせ

## 2 取組の成果・課題

### (1) 成果

地域ぐるみの取組を通して、地域・家庭・関係機関・学校の連携が取れるようになってきた。「地域の子供は、地域で守り育てる」という意識が出てきている。

### (2) 課題

現在のこの体制をいかに継続し、そして発展させていくかが課題となる。現状に満足せず、数年先を見据えた計画とそれに向かっての実践が重要である。

# 地域の子どもは地域のみんなで守る

市原野小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 児童の登下校の安全を願って

市原野地域では、平成15年度より児童の登下校時の交通安全を願って、「市原野こども110番立ち番ボランティア」が結成されている。特に本校区は鞍馬街道や市原バイパスなど交通量の多い道路が多く道幅が狭いなど、大変危険である。地域の皆さんと学校との子どもたちの安全を願う思いから、取組が行われている。現在15名の立ち番ボランティアの方々が活動し、子どもたちに対して温かい声かけとともに時には厳しい声もかけていただいている。

町別集会に来ていただいて「日ごろ気になるところ」など話していただいたり、年度末には、「立ち番ボランティアの方に感謝の集い」を行ったりしている。



「感謝の集い」の様子 立ち番ボランティアの方より一言

### (2) 子どもたちを見守る活動

登下校時に子どもたちを見守っていただくことが子どもの安全に大きな力になる。そこで、地域の皆様に登下校時に子どもたちを見守っていただく、「市原野子ども見守りたい(隊)」を立ち上げた。

- ・ 子どもの下校時に合わせて声かけをする。
- ・ 買い物や犬の散歩、植木の世話、門掃き、植木の世話など

といった外での日常生活を、子どもたちに目を配りながら声かけをしてもらい、無理のない活動をしていただければと思っている。

この活動は単発的なものではなく、将来にわ

たって続けていくことが大切である。「地域の子どもは地域が育て、見守る」という観点で取組が進んでいる。



自治連合会より「見守り隊」の腕章を購入していただき、見守り隊の方を募集したところ地域各種団体をはじめ100名以上の参加を得ることができた。以来、地域の皆様に、子どもたちの安全を見守っていただいている。

## 2 取組の成果・課題

市原野地域の子どもたちの安全確保については地域の皆さんのご理解・ご協力により取組が進められている。子どもたちは、登校時に立ち番ボランティアの方々に対して「おはようございます」とあいさつできるようになってきた。

見守っていただいている皆様からは「何かあったときの責任は?」「毎日決まった時間には出にくい」などの声を聞くこともある。

子どもたちの安全・安心の確保については、短期の取組ではなく、長期にわたって取り組むことが大切である。募集するときも、無理のない範囲でお願いをしたが、重荷になってはこの取組も継続できにくくなる。

何気ない日常生活の中で無意識のうちに子どもたちを見守っているという雰囲気があればありがたいと考えている。

現在の取組で検討・改善することも出てくるかもしれないが、地域の防犯意識を高め、犯罪が発生しにくい地域を作るためにも多くの方に参加していただくと大変ありがたいと考えている。

# 地域と学校が協力して登下校の安全を

静原小学校

## 1 取組の内容及び方法

### (1) 登校時の安全

子どもの安全について地域と学校が連携し取り組んでいる。集落の中の児童の安全は地域の方々に、集落の端の人家の切れるところから学校までは、朝8時から教職員が子どもたちを見守っている。

PTAでは毎月第1月曜日に「声かけ運動」を行っている。子どもたちの登校する時間帯に校門と通学路に保護者・地域の方々や教職員が立ち、「おはよう」の声をかけながら子どもたちの安全を見守り、子どもたちとのふれ合いを深めている。

保護者の方に、家の近くの通学路まで出て、子どもたちに「いってらっしゃい」と声かけをして送ってもらうなどの取組をPTAで呼びかけている。

### (2) 下校時の安全

集団下校を行っている。当番の教職員が家の前まで送りながら安全確認をしている。部活動のある日や低学年の授業が早く終わる日は、2回に分けて教職員がその子どもたちを送っている。また、保護者や地域の方々にその時間帯に合わせて、「家の前での見守り」「散歩」等をお願いをし、子どもたちの安全確保に努めている。地域の方々が下校する子どもたちに「おかえり」の声をかけてくださり、子どもたちも「ただいま」とあいさつを返している。地域の人たちが子どもたちを見守ってくださっていると実感している。

不審者対策として、たとえ家が留守であっても、子どもたちには、「ただいま」と声を出して家のかぎをあけるように指導している。

### (3) 防犯訓練

下鴨警察署から2名の警察官に来ていただき防犯訓練を行った。不審者が校内に侵入という想定で、子どもたちは体育館に避難する様子を、教職員は対応の仕方を見ていただき、警察官に訓練についてや防犯ベルの使い方などいろいろ話をしていただいた。



### (4) その他

静原子ども安全推進会で「こども110番のいえ」を見直し、14軒に増やした。「こども110番のいえ」について保護者や地域の方々に地図と名前が入ったプリントを配布して知らせた。子どもたちにも町別児童会の時に地図で確かめた。

子どもたちは全員が防犯ベルと鈴（熊よけのため）をランドセルにつけ、いざという時に使用できるようにしている。また、安全の日には防犯ベルの点検をしている。

毎月2回スクールガード・リーダーの方が登下校の巡回パトロールをして、子どもたちの安全を見守っている。登下校の状況の連絡や校区の安全について報告及び助言を受けている。



# あいさつ運動

修学院小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 教職員の取組

#### ア 目的

教職員が毎朝校門に立ち、あいさつや声かけをすることを通して、児童の安全を確保するとともに、1日の学校生活のスタートが気持ちよく始められるようにする。

#### イ 時期と時間

(ア) 毎日

(イ) 午前8時10分～8時30分

#### ウ 場所と分担

(ア) 北門………担任外の教員

(イ) 西門………1～6年の学級担任

(ウ) 正門………管理職

#### エ 留意点

(ア) 旗を持って指導に当たる。

(イ) 気になる児童については、朝のうちに担任に連絡する。

(ウ) 当番表は安全主任が作成し、年度当初の職員会議で共通理解する。

(エ) 当番を知らせる連絡筒を次の学年に回し、当番忘れがないようにする。

### (2) 児童の取組

#### ア 経過

(ア) 児童会の話し合いで、「友達との心のつながりを深めたい。」「自分自身も1日のスタートを元気よくきりたい。」「学校中があいさつで一杯になって、仲良しの学校にしたい。」という意見が出された。そこで、あいさつを通して明るい学校にしようと「あいさつ運動」がスタートした。

(イ) 児童会が中心になり、全校児童にあいさつに関する標語を募集する。

(ウ) 児童会でも標語を作り、正門に看板を立て、アピールする。

(エ) 各クラスであいさつについて話し合う。

(オ) 児童会が中心になり、門の場所や学年の割り当てなどを行う。

#### イ 目的

自分から進んで楽しんであいさつしたり、児童会を中心にして計画を立て、実施したりするなど児童の自主性を育成するとともに、「先に・明るく・元気よく」あいさつできる児童を育てる。

#### ウ 時期と時間と方法

(ア) 6月と12月、年2回、各1週間実施。

(イ) 午前8時10分～8時30分。

(ウ) 割り当てられた学年の担任と児童が、それぞれの門に並び、登校してくる児童にあいさつを行う。

### (3) 地域の取組

#### ア 目的

通学路や校門前に立ち、児童の安全確保を図るとともに、互いにあいさつを交わし、すがすがしい1日が始められるようにする。

#### イ 方法

(ア) PTA、ボランティア、地域の方々が連携し、通学路や門に立つ。

(イ) 問題が発生した時は、警察、学校、スクールガードリーダーに連絡する。

(ウ) あいさつ、声かけを積極的に行う。

## 2 取組の成果・課題

- ・あいさつ運動を始めてからあいさつをすることが増えた。
  - ・こちらからあいさつしたら元気な声であいさつを返してくれた。
  - ・他の学年の人と友達になれた。嬉しかった。
- などの喜びの声が聞かれる反面、
- ・あいさつ運動がない時は、あまりあいさつができない。
  - ・自分からなかなかあいさつできない。
- などの声があるとともに、毎日校門で指導している先生方からも、
- ・声が小さく、元気がない。
  - ・自分からあいさつできる子どもが少ない。
- というような意見が多い。
- 今後も粘り強く取組を進めていきたい。



あいさつ運動をする子どもたち

# 子どもを見つめ見守る地域ぐるみの安全運動

上高野小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 登校時交通当番活動

本校区の中央を国道が通っており、交通量も多く、大変危険な場所が存在する。9年前の本校児童の交通事故を契機に保護者、地域、学校の三者が連携して子どもを見守ろうとする意識が高まり、今日まで毎朝、交通の要所に立ち、登校時に見守り活動を行っている。数年前から町内のポイント地点にもボランティアが出て子ども見守り活動の輪が広がっている。



### (2) 放課後安全パトロール

全保護者及び地域に自転車や自動車に付けるプレートや名札を配布。「上高野子ども見守り隊」のプレートの字がよく見える場所に付け、パトロールも兼ね出かけてもらうように啓発している。名札は、来校時に着用。また、PTAが「上高野子ども見守り隊」のジャンパーを作り啓発に使用。

### (3) 安全教室の実施

今年度は、全学年、「NPO法人、きょうとCAP」による指導のもと不審者や知らない人との対応の仕方について学ぶ安全教室を実施した。また、全保護者、地域の方対象の安全教室も実施し、家庭や地域における子どもへの対応を考えてもらっている。

### (4) 緊急時避難訓練及び安全研修

- ア 児童対象...不審者侵入時の避難訓練。
- イ 教職員対象...不審者侵入時の対処方法。護身術や捕縛術等を研修。

### (5) 「こども110番のいえ」ウォークラリー

ふれあい土曜塾の活動の一環として実施。「こども110番のいえを知っておこう」をテーマにこども110番のいえを探し、学区内を歩く活動。

学校に戻ってからクイズに答え、時間と正答数を競った。楽しみながら「こども110番のいえ」を覚える活動として今後も定着させていきたい。

### (6) 警察、PTAとの連携

毎年1回、児童交通安全連絡会を開催。下鴨警察署から交通巡視員・校区の上高野交番警察官、PTA役員、学校からは、学校安全主任・管理職等の参加のもと子どもの安全確保について話し合っている。警察からは、最近の事件の情報を聞き、今後の取組の充実につなげている。

## 2 取組の成果・課題

(1) 平成17年12月に被害はなかったが不審者の侵入にあつて以来、子どもの安全を守るには、どのような取組を推進すればよいのか、それぞれの立場で考え、できることから実践してきた。地域、学校、保護者が連携して安全を守って行こうとする意識が高まった。

(2) 地域住民の協力もあり、交通安全活動も順調に実施されている。今後、学校がさらに呼びかけ、協力者を増やし、安心、安全のまちづくりに一層先導的な役割を果たしていくことが大切である。



# 「おはよう」「おはよう」明るい声が響きます

清水小学校

## 1 取組の内容・方法

本校は東山山麓にある清水寺への参道の途中にある。そのため、学校前を行き来する観光客も多く、タクシーや他府県ナンバーの自家用車なども行き交う人通りの多いにぎやかな土地柄である。しかし、朝の登校時間帯には、観光客もまばらで、通勤・通学の人たちが坂を下っていくのが見られる静かな地域である。

通学区域は、円山公園から五条坂までの南北に細長い地域であり、遠いところから通学してくる児童もいる。小規模な学校であり、各町別の児童数が少なく、上級生のいない下級生だけの町別があったりして、集団登校の形がとりにくい状況である。登校時間帯は8時10分から30分までだが、児童数が少ないのと、また部活動のおはようランニングに参加する児童はより朝早く登校するため、決まった登校時間帯に登校していても、校門をくぐる児童は途切れ途切れに見られる状態である。



学校から北の方に住んでいる子どもたちは八坂の塔の横を通って登校している。昼間はたくさんの観光客が行き交う道も朝の登校時間帯には人も少なく静かである。

そのため本校では、登校時の児童の安全を確保する立場から、そして、児童を気持ちよく学校に迎え楽しい学校生活が送れるようにという生徒指導の立場から、毎朝の登校指導とあいさつ運動に取り組んでいる。具体的には、児童の登校時刻にあわせて清水道に面した正門前に学校長が、また八坂の塔に近い北門前にはその日の当番の教職員が毎朝立ち、子どもたちを迎えている。



「おはようございます」  
「おはようございます」  
毎朝大きな挨拶の音が校門に響く。  
子どもたちがどんな状況で登校してきているのかわかる。いつもの顔がいつもの時刻に見られないと「どうしたのか」児童の状況もしっかり把握できる。

また、PTAも学校の取組にあわせて登校指導に協力してくれている。当番を決め、登校時間帯に教職員と一緒に立ち、児童に朝のあいさつの声をかける取組を進めている。また、地域のシルバークラブも児童の登下校の時間にあわせ、各々の家の前で子どもたちに声をかける取組を進めていただくなど、家庭・地域ぐるみで子どもたちの安全を守る体制がとられている。



北門から登校する子どもたち。ちょっと人通りが少ない道を通るため保護者や教職員がいると心強い。

## 2 取組の成果・課題

地域として比較的安定した状況と家庭の協力関係ともあわせ、現在のところ落ち着いた状況で安全面に関わる問題事象は起きていない。しかし、これに安心するのではなく、小規模な学校によさを活かして、全教職員が子どもたちの顔や名前を知り、児童の理解を進め、全教職員体制で児童の指導にあたりたい。全教職員で学校の安全・児童の安全を確保していくのだという意識を持ち合い、安全意識を強固なものとしていきたい。



# 地域で守り 育てる月輪の子

月輪小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 月輪子ども安全対策協議会

#### ア 経過と活動内容

平成17年、学校から月輪学区の各種団体に「子どもの安心、安全のネットワーク」を作ろうと呼びかけ、3月に発足した。

まず、地域の全世帯に「子どもの安全を守るために、こんなことができます」のアンケート用紙を配布した。項目は 門掃き・花の水やり・犬の散歩・ジョギング・買い物などを子どもたちの登下校の時間帯にあわせる。自転車のかごにパトロール中のプレートをつける。その他協力できることがあれば教えてください。というものであった。100通近くが回収され、4月からそれぞれの人々が、家の近所で、できる範囲内の安全を守る活動を開始した。現在も継続中である。

また、この会の予算により新1年生全員に防犯ブザーを配布している。



### (2) 地域のその他の取組

「東山いきいきネットワーク・安心安全部会」を中心に『こども110番のいえ』を増やす活動に取り組んだ。年度当初の3倍近い、122軒が『こども110番のいえ』のプレートをつけていただけることになった。校区内至る所に緑のプレートが掲げられている。プレートをつけていただいた方は子どもの行動に関心を持ち、普段もよく見ていただけるようになった。

さまざまな活動の際に「月輪こども110番」とロゴを入れたキャップとベストを着用してもらっている。

安全マップの作成にも、この会を中心に校区をくまなく歩き、基礎資料を収集していただいた。

また、PTAの朝の「声かけ運動」のときに、校門だけでなく通学路の危険箇所にも立ち、声かけをした。



### (3) 学校の取組

#### ア 子どもへの地域の方の紹介

いつも立ち番をしていただいている自治連の会長さんと、子ども安全対策協議会の会長さんに安全の話をしてもらった。地域の方々の子どもの大切にしておられる思いを聞き、自分たちの安全が多くの人々によって守られていることを、子どもたちは感じる事ができた。



#### イ 交通安全自転車教室

7月の自転車教室では、交対協・PTA・シニアクラブ・日吉ヶ丘高校の生徒ボランティアにも来てもらい、子どもたちとの接点を増やすようにしている。

## 2 取組の成果・課題

地域の人々と子どもたちが顔見知りになり、普段も声をかけあうようになった。

地域の人々が子どもに関心を持つようになり、学校教育にも理解が深まるようになった。

子どもの安全を守るには、地域の大人たちと子どもたちとの接点を増やすことだと考える。お互いに顔見知りになり、声をかけあう町になれば、不審者の侵入の余地は狭められる。今後、地域の行事にもっと多くの子どもを参加させ、学校の行事にも多くの地域の方の参加を求めることが重要である。地域への学校からの情報発信を多くし、地域が子どもたちを育てる意識をさらに高めていきたい。

# 子どもたちへの声かけ・あいさつ運動の取組

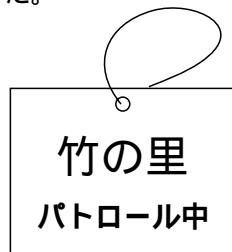
竹の里小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 子どもたちの安心安全を守る声かけ運動

子どもたちに地域ぐるみで声かけをして、子どもたちの安心安全を守っていこうという声がPTAから出ていたのが、平成18年の1月から具体的に進み始めた。

そのために、何か目印になる物が必要ということになり、PTAで下記のようなつり下げ名札を準備した。



PTAの全家庭に配布し活動を開始した。朝や夕方の犬との散歩中、買い物などで子どもと出会った時に「おはよう」「行ってらっしゃい」「お帰り」「こんにちは」等と声をかける。名札をつけると声をかけやすいので、名札をつける人が増えてきた。

また、地域住民にも協力してもらうために、PTA地域委員の協力で地域家庭にも協力お願いのビラを配って呼びかけた。さらに学校やPTA役員が地域や団体の行事・会合等で協力の声かけをしてきた。名札をつけようという多くの地域協力者が声を上げてくれた。

その地域の協力者の中で、自分のできる範囲で子どもたちの安心安全を守っていきたいという方が出てこられた。

朝、子どもたちが町別で集まって集団登校をしてくる時や下校時、通学路交差点に立って誘導したり、夏休みのラジオ体操に毎朝出かけていろいろ協力したり、部活動や各種のスポーツ大会やPTA・学校行事などに参加したりして子どもの安心安全を進めている。

### (2) 朝のあいさつは立ち止まっておじぎ

子どもたちが元気に一日を始めるために、「おはよう」のあいさつを学校重点目標にして取り組んできた。

児童会の取組・朝のあいさつ運動週間

子どもたちによる「おはようございます」の通用門での2週間の取組。学年の子どもたちが順番に出て子どもたちにあいさつをする。恥ずかしそうな子、うれしそうな子、張り切っている子。この子ども同士のあいさつが広がるように誰もが願っている。

2週間の児童会のあいさつ週間が、年に3回計画されていて実践を進めている。

PTAによる取組

地域委員22名による集団登校集合場所での毎朝の見守りや声かけ。

同じく地域委員や本部役員を中心にして、通学路の安全指導、あいさつや声かけに取り組んでいる。

教職員や安全見守り隊による登校指導

毎朝通用門や通学路で集団登校してきている子どもたちと「おはようございます」のあいさつをする。教職員や見守り隊が子どもたちと正面に向かい合って「おはようございます」と言っておじぎをする。子どもたちも、きちんと立ち止まって「おはようございます」とおじぎをする。

この習慣が多くの子どもたちの身につくことあることは、とてもうれしく有難いことである。今後も続けていき、地域にも広げていけたらと願っている。



## 2 取組の成果・課題

学校の取組をPTAや地域の方たちが応援し、大人も子どもたちとともに育っていこうという方向を進み始めてきている。

今後は、この12月10日に発足した学校運営協議会の「子どもの安全委員会」と連携して、この方向に確かな足跡をつけていきたい。

# 心はひとつ 子どもを守ろう 学区民全体で

## 紫野小学校

### 1 取組の内容・方法

本校区では、子どもたちが安心して安全に登下校ができるようにとの願いのもと、学校・PTA・各種団体・地域ボランティアの方々が時間帯や区域を分担して見守り、声かけ・あいさつ運動、パトロール活動を行っている。



#### (1) 声かけ・あいさつ運動の取組

ア 登校時（7:30～9:00）

正門，西門では，毎朝，教職員と地域ボランティアの方々による声かけ・あいさつ運動が行われている。

校区内の横断歩道，交差点，交通量の多い危険箇所には，各種団体，PTA，ボランティアの方々立ち，声かけ・あいさつ運動を行い，さらに通学路では，地域各種団体の方々が発車に乗り，巡回パトロールを行っている。

このように隙間のない見守りを行い，校区内の安全情報も提供し合って，安全確保に努めている。



イ 下校時（14:30～16:00）

毎日，児童の下校時刻に合わせ，教職員，PTA，地域ボランティアの方々，商店街の方々

も協力していただき，通学路で「お帰り」「気をつけてね」と声を掛け合っている。



#### (2) 各種団体を中心とした取組

ア 紫野交通対策協議会による平安騎馬隊の交通安全教室。（毎年 通学指導と乗馬体験）

イ 紫野防犯協会，西陣少年補導委員会及び上鴨少年補導委員会両紫野支部，紫野教育後援会による夜間パトロール（毎日）

ウ 北消防団紫野分団，紫野防犯協会による夜回り，火遊び禁止・防火運動（毎日）

エ 紫野社会福祉協議会による車イス体験学習。（毎年 車イス体験及び放置自転車の追放と住みよい地域づくりについての学習）

#### (3) 「学校運営協議会 紫野」発足

「安心安全部会」の設置

平成18年11月に、「われわれの手で，安心安全なまちを築こう」を合言葉に，運営協議会を支える4部会の一つとして「安心安全部会」を設置した。

すでに取り組みされていた活動の内容や方法について話し合いを進め，地域の各種団体が共通理解を深め，取組の充実を図っている。

### 2 取組の成果・課題

「安心安全部会」を核とした取組や活動が充実してきた。地域の安全に対する意識が高まり，活動の拡大・強化につながりつつある。

さらに地域ぐるみの安全体制づくりに向け，心を一つにして取組を充実する必要がある。



# 楽只 こども あんしん あんぜん パトロール

楽只小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 見守り活動の取組

本校では町ごとに登校班を決め、集団登校しているため、朝の見守り活動もその時間帯に合わせて行っている。毎月の見守り活動当番表を作成し、登校班ごとに行っている。交通量の多い千本北大路交差点では毎日の見守り活動を実施している。また、校門では登校してくる子どもたちを学校長とPTA会長が迎え、元気にあいさつを交わし登校の確認を行っている。



下校時は、時刻にばらつきがあるため、見守り活動は低学年の下校時刻に合わせている。下校する子どもたちは教職員引率のもと下校している。また、スクールガードリーダーによる安全点検・巡回活動も登下校の時間帯を中心に定期的に行っていたいいる。

### (2) 安全マップの充実を図る取組

本校では、子どもたちや保護者の意見をもとにして、子ども安心安全マップの作成にあたった。各家庭に配布した校区の白地図に書き込まれた車や自転車に注意の必要な場所や暗い場所、人通りの少ない通りなどを中心に気になるところをまとめる作業を行い、「楽只学区子ども安全・安心マップ」を作成した。学区社協の方々をはじめとする地域の方々へも配布し、見守り活動の資料としている。



### (3) 防犯ウインドブレーカーについて

「楽只 こども あんしん あんぜん パトロール」と書かれた防犯ウインドブレーカーとキャップを作り、登下校時の見守り活動だけでなく、日常的にも諸行事の折に着用し、地域ぐるみの防犯意識の高まりを目指している。



## 2 取組の成果・課題

### (1) 成果

見守り活動を進めていくことによって、おとなと子どもが親しい関係になり、子どもたちが安心して登下校できるようになってきた。また、ウインドブレーカーの着用を通して、登下校時を中心とした防犯意識の高まりにつながっている。

### (2) 課題

今後は自分の身は自分で守るという意識の高揚とともにしっかりとした行動がとれるよう、指導をさらに徹底し、地域諸団体との防犯に関わる連携を一層深めていく必要がある。

# 下校時ポイント式子ども安全パトロール「お帰り当番」 御所南小学校

## 1 取組の内容・概要

### (1) 「何とかしなければ」から

「お帰り！ 気をつけてね。」

午後2時を過ぎると、このような声があちこちの交差点から聞こえる。

平成17年11月1日、PTAの方を中心にして綿密な計画が立てられ、「下校時ポイント式パトロール『お帰り当番』」がスタートした。

これは、各地で頻発する事件を、自分たちの問題として受け止め、何とかしなければと考えられるようになったからである。

方法として、さまざまな案が出されたが、やはりパトロールだろう、それもポイントに立って、あちこちで見守るのがいいのではないかと、ということになっていった。

ここから、多くの準備が始まった。校区のどのポイントを何人の子どもが通るのか、どのあたりの人通りが少なく危険なのか。

その結果、校区に49のポイントを設定して、そこで子どもたちの安全を見守りながら、「お帰り！」と声かけをすることになった。

時間は、月～金曜日の午後2時～4時30分の間で、一人30分を目途にして、順次交代していくことにした。

当番の時には、PTAから配布される緑の腕章をつけ、黄色の安全旗、緊急の連絡用として笛、携帯電話を持っていくことにしている。

### (2) 「お帰り当番」が始まる

下校時ポイント式子ども安全パトロールの呼びかけに、400世帯を超える保護者の方の応募があった。これは、保護者の方の、何とかしなければ、という思いの強さの表れである。

名前も通称「お帰り当番」となり、親しみやすく、気軽に取り組めるようになった。

「お帰り当番」が始まると、

「思ったより交通量が多いので、不審者への警戒とともに、交通安全にも気をつけます。」

「子どもにあいさつされたり、笑顔で声をかけてもらったりするのはうれしい。」

というような声が聞かれるようになった。

## 2 取組の成果・課題

PTAを中心に始まった「お帰り当番」の取組だが、地域と学校をつなぐ組織である「御所南コミュニティ」を通して、地域の方に広がっていった。

「子どもたちのために、自分たちも力になるう。」という方がどんどん増え、約200名の地域の方が「お帰り当番」に協力してくださるようになった。

それに伴って、ポイントも53に増え、より多くの目で、子どもたちを見守ることができるようになっていく。



# 学校・家庭・地域で取り組む安心・安全

洛中小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 通学時の児童みまもり活動

校区内を東西に走る2本の道路，三条通と蛸薬師通の交差点で，毎朝，交通安全協議会とPTAが児童の登校を見守っている。また，学校玄関前では，教職員による見守りと声かけを行っている。



### (2) 防犯ブザーと自転車用プレート

例年，PTAより新1年生に防犯ブザーが贈呈され全児童が着用している。登下校だけでなく校外活動時にも着用している。

また，PTAでは，全家庭に自転車用プレートを配布している。プレートをつけた自転車がパトロールを兼ねて，校区内を走ることにより，不審者等への抑止力ともなっている。



### (3) 防犯教室と防犯訓練

7月11日（火）に堀川警察署から警察官に来ていただき，大声を出す・逃げるなどの身の守り方について学習した。「イカのおすし」の話に児童の防犯意識も高まった。また，警察官の演じる不審者に対して，いざという時の身の守り方も体験した。

また，10月24日（火）には，校内に不審者が侵入したという想定で，全校あげての訓練を行った。教職員は，不審者を取り押さえ，警察へ緊急

通報し，実際に堀川署より警察官に来ていただき，不審者を引き渡した。児童は教室で避難し，その後，体育館で全校集会を行った。緊張感のある訓練となった。



## 2 取組の成果・課題

学校やPTAでの取組が，地域での取組と重なり，地域全体での取組へと拡大され，「洛中キッズみまもり隊」が発足した。自転車用プレートも地域版が作られ，地域での安心・安全に関する啓発にもなっている。

また，「洛中キッズみまもり隊」では，子どもをはじめとする地域住民の安心・安全な暮らしを守ることを目的に，ボランティア協力員の募集を行っている。ボランティア協力員は，今まで取組が十分ではなかった下校時及び放課後の子どもたちの見守りと地域のパトロールを中心に行い，また，地域の安心・安全意識の向上を目指した啓発・広報活動も行っていく。見守りベストを着用した「洛中キッズみまもり隊」隊員が校区内で多数見かけられる日も間近である。1月にはボランティア協力員の方々と児童との顔合わせ会を行った。児童の安心・安全意識の向上へもつなげていきたい。





# 子どもの安心安全を守る地域パトロール

朱雀第六小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 児童の防犯ステッカー・ブザー

児童の1年入学時にPTAから防犯ステッカー及び防犯ブザーが配布される。1年から6年までの全児童が、携帯し登校している。



### (2) 児童への安全指導の徹底

ア 学級活動等で交通及び防犯安全指導。

イ 放課後及び部活動終了時の複数での下校の徹底指導。



### (3) PTAで腕章を作成

PTAで腕章を作成し、全保護者に配布している。また、地域でも独自の腕章を作成し、各々の家庭に配布している。

朝のパトロール及び安全指導の時は、PTAや地域の方、各々が腕章をつけて行っている。



### (4) PTAでパトロールプレートを作成

パトロールプレートを生保護者に配布し、自転車での外出時に、ステッカーの掲示及びパトロールの協力をお願いしている。



### (5) 『こども110番のいえマップ』の見直し

平成10年に設置された「こども110番のいえ」のプレートが、転居されていたり住居改装されていたりしているため、取り外されているところが少なくない。現在、PTAを中心に児童の通学路

と照らし合わせながら見直し作業をしている。

### (6) 教職員による安全指導及び防犯パトロール

学校長は、毎朝、校門前で立番を行い、登校してくる児童一人一人に温かいあいさつで迎えている。また、全教員が当番制で地域に出向き、防犯パトロールを行っている。



### (7) PTAや地域の方による安全指導

PTAや地域の交通安全対策協議会の方々が中心となって通学路の交差点等で毎朝、気持ちのいい『おはようございます』の声かけとともに安全指導を行っている。



### (8) スクールガードリーダー

毎月3～4回、登下校のパトロールをし、安全指導をしている。終了後、必ず、学校へ児童の様子等が報告される。

## 2 取組の成果・課題

教職員、保護者、地域並びに児童の安全に対する意識が高まってきているように思える。

今後、さらに多くの方々に交通安全・防犯パトロールを呼びかけるとともに、万が一の時に備え、早急に対処できる対策・体制も整えていきたい。

# 子どもたちのみまもり活動の取組

醒泉小学校

## 1 取組の内容・方法

本校は、明治2年6月5日下京13番組小学校として開校、今年で137周年を迎えた。

町並みは古く、何代にもわたり住み続けている家庭がある一方、町屋を取り壊した跡に建ったマンションに新しく入居してきた家族が混在している。

平成17年2月18日、自治連合会、少年補導委員会、交通対策協議会、女性会、PTA、学校が集まり「児童の安全について話し合う会」を発足し、学校・家庭・地域が連携し合って子どもの安全を確保していく話し合いが行われた。

その後「児童の安全について話し合う会」の名称を「醒泉子ども安全会議」と改め、地域から防犯推進員も加わり、子どもたちのみまもり活動について話し合われた。

話し合われた内容は

- (1) 教職員による登下校時などの安全指導について
- (2) 児童に対する登下校時での安全指導について
- (3) 不審者情報等に関する措置について
- (4) 学校内での安全確保について
- (5) 子ども安全パトロールによる登下校時等の子どもたちのみまもり活動については下記の事柄について共通理解を得た。

ア PTA、地域の方に「子供安全パトロール」の腕章を配布する。

イ 腕章はベルマークで購入する。

ウ 腕章を付け、登下校時や門掃き、買い物、散歩等に子どもたちを見守る。

エ 参観日等、来校する時にも着用する。

オ 各団体にも十分趣旨を伝え協力してもらう。

## 2 取組の成果・課題

### (1) 成果

登下校時、地域の方からの声かけや児童からのあいさつが増えた。

登下校時外でも互いのあいさつが増えた。地域全体で子どもを見守ろうという意識が高まってきた。



### (2) 課題

地域の方の協力は定着してきたが、広がりが少ない。今後より広く協力が得られるよう広報活動を行なっていきたい。

子どもへの声かけをためらっている地域の方が少なくない。子どもたちからあいさつを積極的に行なっていく指導を行ってきたい。

地域の方と子どもたちとの交流を増やすよう、行事等の案内を工夫する必要がある。



# 学校・PTA・地域に守られる梅小路の子どもたち

## 梅小路小学校

### 1 取組の内容・方法

本校区は、東に京都駅、南に梅小路公園、北に西本願寺、西に中央卸売り市場に囲まれ、人の往来も多く、交通量も多い。地域でも日頃から、交通事故や様々な事件から子どもを守るという意識は高い。不審者による子どもへの声かけなどから子どもを守っていきこうと、学校、PTA、地域の連携による安心・安全の取組も強化された。

#### (1) 学校の防犯設備の充実

本校は、校舎が壬生川通に面しており、玄関から入るとすぐに廊下、職員室という構造になっており、不審者侵入については、保護者、地域からも不安の声が聞かれていた。そのような中、学校としてもオートロックシステムの設置を行い、インターホンによる応答、確認をし、防犯カメラの映像録画なども併せて不審者の侵入を未然に防ぐ安心安全への体制を整えた。

#### (2) 朝の見守り

子どもたちの登校時には、地域の要所に、毎朝十数名の地域ボランティアの方が立ち、子どもたちに、「おはよう」「今日も、一日元気でね。」「いってらっしゃい」など元気な声をかけていただいている。毎朝の声かけで、子どもたちの様子や気になることがあれば、すぐに学校に連絡していただき迅速な指導やケアに役立っている。

このような地域の温かい見守りの中交わされる朝の元気なあいさつは、子どもたちにとっても気持ちのよいスタートとなっている。

#### (3) 教職員による見守り

生徒指導の取組として、大きな行事がある時や、緊急時には、グループに分かれて梅小路公園をはじめ校区内をパトロールしたり、集団下校の指導をしたりしている。

また、安心・安全緊急マニュアルをもとに、子どもたちの下校時刻に合わせて随時パトロールを行い、地域、保護者、他校との連携も図っている。

#### (4) PTAによる見守り隊

今年立ち上げた、「梅小路子ども見守り隊」は、安心・安全の継続的取組として大きな成果をあげている。毎週金曜日、全保護者が交代で、子どもたちの下校時刻にあわせ、校区のパトロールと子どもたちへの声かけを行っている。オレンジのジャンパーに腕章をつけ、校区をパトロールする姿は子どもたち、保護者、地域の方々にとっても心強いものである。



#### (5) 地域による見守り

少年補導委員会、自主防災会による地域のパトロールは、夏休みや歳末などに繁華街や梅小路公園を中心に定期的に行われている。

また、地域の交番や、スクールガードリーダーによるパトロールも行われている。



### 2 取組の成果・課題

このような取組から、学校への関心も高まり、地域の方の学校行事への参加も増え、子どもたちをまち全体で守っていきこうという意識が高まっている。

学校、PTA、地域が連携して、「安心・安全の住みよいまちづくり」をめざし活動を深めている。

今後、地域、学校、諸団体と連携した危機管理マニュアルの作成を行っていきたい。



# 地域・保護者・学校が三位一体となって子どもの安全活動

## 七条第三小学校

### 1 取組の内容・方法

#### (1)「こども安心・安全活動の会」出陣



6月26日の夜7時30分、自治連合会、地域各種団体、PTA、教職員約400名が体育館に集合し、七条第三校区「こども安心・安全活動

の会」出陣式が行われた。自治連合会長が中心となって地域に呼びかけ、PTAと協力して特に子どもたちの登下校の安全確保を始めた。当番制を敷いて安全活動を進めるとともに、当番でないときも子どもたちの登下校の時間に合わせて散歩や買い物しようと呼びかけられた。

#### (2)「あいさつ運動」とともに

毎朝、校門前で自治連合会会長・学校長・地域の有志の方やPTAの方も加わって子どもたちを迎える。児童会が取り組ん



でいる週に一回の「あいさつ運動」が加わると、「おはようございます」の元気な声が響き渡る。

#### (3) 下校時の安全活動

1年生が下校する時刻に合わせて、地域のボランティアの方とPTAの当番の保護者が安全活動のために来校される。黄色い旗を持ち腕章をつけて子どもたちの下校を見守ってくださる。子ども

たちは「さようなら」のあいさつとともに元気に帰っていく。その後、交差点や危険な箇所を1時間ほど



ループで見回り、学校に戻ると日誌にその日の出来事を書き綴る。学校において指導が必要な事柄については、職員朝会で共通理解し、担任から子どもたちへ指導するという形をとっている。また、教職員は生徒指導主任が指揮をとり、毎週学年単位で地域のパトロールを行っている。

### 2 取組の成果・課題

#### (1) 成果

「こども安心・安全活動の会」一年目は、地域の方々子どもたち、地域の方々PTA、地域と学校とが顔を合わせ、「おはようございます」「今日も暑いすなあ」と、言葉を交し合う。言葉の交し合いが心のふれあいとなり人と人との気持ちのつながりへと広がっていくのが目に映るようだった。地域の方々からの声かけと子どもたちのあいさつから親近感が生まれ、日頃子どもたちと接する機会が少なかった方が「道で出会ったらあいさつしてくれる子がいる。子どもってやっぱり可愛いもんやなあ。」と感想をもらす場面もあった。そうした互いの声の掛け合いが、実は子どもの安心・安全ばかりでなく地域の安心・安全にもつながっている。

#### (2) 課題

平成18年は、子どもが事件や事故に巻き込まれる悲しいニュースが後を絶たず、子どもをもつ親ばかりか地域の信頼関係に不安が広がる年だったが、同時に地域社会が互いに信頼と約束を守ることの大切さを改めて考えさせられる一年だった。

一つ一つ努力していくことで信頼の絆は強く太くなっていくだろう。しかし、一朝一夕には築けない。七条第三校区は、「こどもの安心・安全活動の会」を通して地域のつながりを深め、安心・安全活動に留まらず、積極的に大人と子どもが関わりあえる地域へと発展することを願っている。

パトロール活動を通して地域・家庭・学校間の交流が活発になってきたが、それぞれの思いを出し合う機会でもあった。今後、互いのさまざまな思いを理解しあうことでより一層つながりが深まっていくだろうと期待している。

# 地域ぐるみで子どもたちを見守る学校安全活動

山王小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 子どもの登校を見守る活動

- ・教職員による朝の登校指導（毎日）

毎朝、各登校グループが通る竹田街道と河原町通の交差点に教職員が立ち、横断歩道上の安全確保をするとともに、通学路パトロールを行う。正門前では登校してくる子どもにあいさつ、声かけをする。また、不審者情報があったときには、全担任がパトロールに出るようにしている。



- ・保護者・地域ボランティアによる登校見守り  
各登校グループの通学路上に地域の方が立ってくださったり、保護者が登校グループに付き添ったりして、子どもたちの安全な登校を見守っている。
- ・PTAによる朝の声かけ運動  
夏休みや冬休みの長期休業明けに、正門前にPTAの方々立ち、あいさつや声かけを行っている。

### (2) スクールガードリーダーの校区内巡回

今年度から本校にもスクールガードリーダーが配置され、学校朝会で子どもたちに紹介した。登校時、下校時に校区内を巡回して、子どもたちの通学路の安全確保に目を光らせてもらっている。

### (3) 不審者侵入に備えた取組

- ・正門のオートロック化  
正門をビデオカメラで録画し、常時、職員室のモニターとインターホンで訪問者の確認・対応をしている。
- ・各教室にインターホン設置

職員室と各教室をつないで、不審者侵入など緊急時の連絡に備えている。

### (4) 山王学区安全マップの配布

「こども110番のいえ」、各登校グループの集合場所や集合時刻を記した安全マップを、各家庭・地域に配布している。

### (5) 夜間パトロールの実施

教職員、PTA、少年補導、地域諸団体による共同パトロールを年2回（夏季休業中、冬季休業中）実施し、長期休業中の子どもたちの安全、健全育成を地域の方々に呼びかける機会となっている。



### (6) その他

- ・保護者にパトロールプレート配布して自転車の前かごに取り付けていただき、自転車が出かけるときなどに、子ども安心安全パトロールをアピールすることで、地域全体で子どもの安全を守る意識につながっている。
- ・学校だよりを活用して、学校・地域の安全体制整備状況を発信（オートロック化、インターホン設置など）している。

## 2 取組の成果・課題

子どもの安全を揺るがすような事件が頻発する中、学校・地域の様々な取組によって、教職員の危機意識や地域の方の自主的な見守りなど、地域ぐるみで子どもを守る意識の高まりが見られるようになった。また、日常的に朝の声かけを行うことによって、自分からあいさつをする子どもが増えた。今後も地域ぐるみで子どもたちを見守る活動に取り組んでいきたい。

# 保護者・地域ボランティア・教職員によるパトロール

北白川小学校

## 1 取組の内容・方法

昨年（平成17年）末、広島県と栃木県で、下校中の女子児童が殺害されるという痛ましい事件が報道された。それ以前から、本校校区では、女子児童が下校中に自転車やバイクに乗った男性からの声かけ事案等が数件あったり、本校の近くの住宅街で比叡山から下りてきた野生の猿が目撃されたりしていた。危機感を持った本校では、PTAが中心になり、全ての保護者に参加を呼びかけ、保護者によるパトロールを始めた。



昨年度中は、PTAに安全を担当する係が無かったため、パトロール等の児童の安全に関することは暫定的にPTA本部が担当した。しかし、今後、重要性が高まることを考え、今年度よりPTAに新たに「安全委員会」を設置し、児童の安全確保に努めることになった。なお、教職員の校務分掌においても、昨年度1名だった学校安全部を今年度より3名に増員した。

本校が現在実施している保護者によるパトロールは、授業のある日は毎日、授業が終了し児童が下校する時間帯を中心に、当番の保護者が自分の担当地域を巡回するというものである。

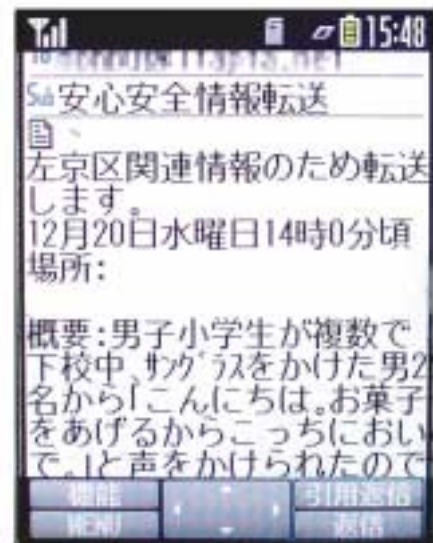
パトロール時には防犯効果を高めるためと、児童から見て一目で本校の保護者だとわかるようにするため、腕章を着用することにした。腕章に関しては、京都市教育委員会の「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」から50枚、京都府警の「子ども・地域安全見守り隊活動事業」から120枚、そしてPTA会計から130枚、合計300枚を用意し、本校在籍児童全ての家庭に配布した。

またPTAのパトロール開始とほぼ同時期に、地域のボランティアである「北白川スクールパートナー」が結成された。こちらは腕章だけでなく

黄色いたすきも着用し、登下校時にボランティア各自の自宅から学校までの通学路を中心にパトロールを実施している。

さらに、教職員による放課後のパトロールも、毎日とはいかないが、定期的の実施している。教職員もパトロールの際には校内で着用している名札だけでなく腕章も着用し、自動車でのパトロールの際にはA4サイズのマグネットシートを車体の目立つ部分に貼り付けている。

本校では、PTAが京都府警の「子ども安全情報」をもとにした不審者情報や校区の方からの目撃情報をもとにした猿の出没情報などをメール配信している。このメールを受信して、当番以外の日でも、保護者や教職員が自主的な判断でパトロールを行うこともある。



## 2 取組の成果・課題

保護者・地域ボランティア・教職員によるパトロールと、警察OBであるスクールガードリーダーによるパトロールの成果で、今年度に入り本校校区内で、声かけ事案等は全く報告されていない。

現在は、授業が終了し児童が下校する時間帯を中心に、パトロールを実施している。今後、一層取組が進み、地域住民のより多くの方々に認知していただく中で、地域ぐるみの長期的・継続的取組となることが期待される。



# 地域パトロール活動の取組

葵小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 昨年度の経過

平成17年12月に学校・PTA・地域全体で子どもたちを見守っていくために、「葵安心安全ネットワーク」を立ち上げた。

以後、「地域みんなの目で子どもを見守ろう！育てよう！」というポスター及び自転車用パトロールステッカーなどを配布し、地域全体で子どもを見守る体制作りが進んだ。

3月には「地域安全の腕章」を全家庭に配布し、地域パトロールの際には、この腕章を着用することとした。この腕章は、防犯上全てに番号をつけ、卒業や転出の時には回収できるようにしている。

パトロール用の腕章



### (2) 今年度の取組

昨年度の「葵安心安全ネットワーク」の立ち上げ以後、地域の各種団体の方々には熱心に取組を進めていただき、登下校の際、腕章を着用して子どもを見守る方が増えてきた。

パトロール希望調査

葵小学校PTAパトロール希望調査結果

保護者の方、地域のみなさんにご協力いただきありがとうございます。また、今年度はPTA本部にて実施し、ご協力いただきありがとうございます。また、今年度はPTA本部にて実施し、ご協力いただきありがとうございます。

パトロールに賛同していただく保護者の方、PTA本部にて実施し、ご協力いただきありがとうございます。

PTA本部にて実施し、ご協力いただきありがとうございます。

1月	2月
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
9	9
10	10
11	11
12	12

一方、PTAは親として体制を組んで、地域のパトロールを行動化していこうという思いが強まり、見守り活動について全家庭へのアンケートを行った結果、各町ごとにローテーションを組み、パトロールする体制となった。

具体的には、PTA本部よりパトロール当番希望調査を全家庭に配布し、3～4ヶ月分のパトロールへ当番可能日調査をし、各町委員がその調査をもとにローテーション表を作成している。

ここに至るまでには、PTA本部や地域委員による度重なる熱心な話し合いと、子どもたちへの安心安全確保への熱い思いがあって実現した。

### (3) 取組の実際

このような形で取り組まれたPTAによるパトロールは「葵安心安全ネットワーク」の主体者として、今年度の6月からスタートし、現在に至っている。12月の当番希望調査では19年度4月分までの予定を組み、来年度になって役員が代わってもこの体制が途切れないよう工夫している。

この他、「こども110番のいえ」も見直しを行い、夏休み中に働きかけて34件増加することができた。

安全マップの改善も行い、新しく配布した。

腕章を着用しての見守り活動



## 2 取組の成果・課題

昨年の「葵安心安全ネットワーク」の立ち上げ以後、様々な形で子どもたちへの見守り活動が高まりを見せてきた。実際に、パトロールに立った保護者からは、このような活動を通して、保護者間や地域の方々との連携が強まってきたという感想が出されている。

今後はこれをいかにして維持・継続させていこうか、意識を低下させず日常的な取組とする工夫やアピールが課題となる。学校の教職員や各種団体との有機的な繋がりを、今まで以上に強めていくためにも、地道な取組は欠かせないと思う。

# 地域・家庭との連携による学校安全活動

～子どもを地域で見守るために～

一橋小学校

## 1 取組の内容・方法

地域・家庭・学校が連携し、できる事を継続してやって行こうと取組を進めている。

### (1) 学校の取組

学習活動

- ・「安全の学習」「いのちを大切にする学習」
- ・防犯教室の開催（東山署生活安全課）
- ・交通安全教室の開催

その他の取組

- ・朝会、各学級での安心安全の指導
- ・集団下校（年2回）での「こども110番のいえ」を確認しながらの下校指導  
「今年は、平安騎馬隊の先導による下校指導を実施」



- ・避難訓練（不審者侵入想定の実施）
- ・大型安全マップの作成と安全指導
- ・教職員による自転車パトロール（校区を4コースに分け下校時間にあわせて実施）

保護者への広報

- ・学校だよりやホームページ

### (2) PTAの取組

「全員が何かの取組をしよう」を合言葉に登下校の見守りや引率、門前や町内での見守り点検、ポスター掲示、自転車ステッカーの取り付け、通学路の点検等に取り組んでいる。

PTA運営委員会

- ・朝の声かけ運動と要所での登下校の見守り
- ・防犯ブザーの全員配布

地域委員会等

- ・定期的な集団下校の見守り
- ・各種団体と協力しての地域パトロール

### (3) 地域の取組

「一橋子ども見守りボランティア」を自治会・PTA・学校を中心に地域の有志の方々の協力で発足させ、それぞれができることをみんなに呼びかけ継続し、地域の安心安全活動の中に組み入れて取り組んでいこうとがんばっている。

- ・通学路要所における「あいさつ運動」、登下校の見守りと安全点検
- ・門前の清掃をしながらの声かけと見守り
- ・近くの公園や町内の見守り
- ・自転車にパトロール中のステッカーを取り付けての買い物や活動
- ・情報交換会の開催（年2回）

## 2 取組の成果・課題

- ・多くの人々に見守られ「子どもが元気の良いあいさつをしてくれると『今日もがんばろう』と生きる勇気をもろう」との地域の声もあり感謝しなければならない。
- ・児童自らも、今後、自分の安心安全を自分で守る力をつけることが必要である。
- ・学校も含めて当番によるのではなく、いつもみんなが地域の安心安全を意識している地域社会をつくることが課題である。



# 地域で見守る子どもの安全

～子どもを守る「安全パトロール」～

桂坂小学校

## 1 取組の内容・方法

「安全・安心の街づくり桂坂」を合言葉にこれまで地域の環境整備が進められてきた。

### (1) 登校時の安全(集団登校時の『旗当番』)

集団登校時の旗当番を学区全体で実施している。これは月曜日から金曜日まで、学校のある日は毎日実施され、児童の通学路に当たる横断歩道並びに信号機の設置されている横断歩道を地域ごとに会員1～2名ずつが当番制で担当している。PTAの地域委員が毎年当番表を作成し、保護者自ら子どもたちの登校時の安全確保に努めている。

### (2) 下校時の安全(下校時の『安全パトロール』)

児童の下校時間帯を目安に、毎日～数日に1回。通学路、公園、緑道など地域の实情に即して巡回・監視するもので、当初は地域ごとに会員1～2名ずつ、意向調査に基づき当番制で実施していたが、現在は24時間みんなで地域の子どもたちを見守っていかうという姿勢で、会員がいつでもできる時間帯に緑の腕章・緑のたすき・安全プレートをつけて安全パトロールを実施している。これ以外にも犬の散歩、ウォーキング、買い物時、水やりなど、子どもたちの下校時・下校後の安全が見守られている。また、これらPTAの取組に賛同し、学区各種団体はじめ、「孫の安全のために」と、協力をしていただける方もあり、意識の高まりを示している。教職員によるパトロールも必要に応じて随時行われている。



加えて、本年度はスクールガードリーダーによる登下校時のパトロールや地域の山の手倶楽部の方々による「子ども見守り隊」としての活動も始められた。



### (3) 中学校区の安全対策に関する3PTAの取組

桂坂学区の安全対策は桂坂小学校の児童のためだけのものではなく、すべての幼児・児童・生徒さらには住民すべてに関係する事柄であるとの認識から、PTAの発案により、3PTA(大枝小学校PTA、大枝中学校PTA、桂坂小学校PTA)の安全対策上の連携が図られ、それぞれの取組の拡充と安全に対する意識の共有化・安全対策の協力協働が図られている。

## 2 取組の成果・課題

本来の姿である「地域の安全は地域で守る」という大前提で議論されてきたことが、広く地域住民の安全意識の高まりにつながり、取組が充実してきたものと考えられる。

本年度は「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」が近隣校で展開され、本校も学校安全講習会等への参加を呼び掛けてきたところである。今後も、このより広い「地域」の視点を大切にした取組を推進していく必要がある。

身近なところで子どもを見守り、例えば、地域の大人が登下校時の子どもに温かい眼差しを送り、「おはよう」「行ってらっしゃい」「おかえり」など声を掛け、互いに顔見知りになることが地域の安全の第一歩であり、学校を核とした地域行事の充実や地域住民の参画による連携した事業の推進が今後継続して取り組まなければならない課題として浮かび上がる。



# 地域ぐるみの安心・安全を目指した取組

柏野小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 取組の趣旨

柏野地域は、西陣織の機音・箴の音が朝早くから聞こえ、活気に満ちた西陣の町であったが、最近では、箴の音の聞こえる家も少なくなり、子どもたちに危険が起きたとき、逃げ込める家が少なくなっている。

また、柏野学区の道はとても狭く、消防車も入れない道がたくさんあり、独居老人や高齢者の方々の占める割合が他の地域から比べると高い比率を示すなどの観点から、地域ぐるみの安心・安全の取組が必要である。

### (2) 取組内容

#### ア 登校時の安全指導

本校では、子どもたちの安全を守ろうと、平成4年より地域の有志の方により、登校時校門前での登校指導が行われ、また、大阪の池田小学校の事件をきっかけに、防犯推進協議会のみなさんの協力により、登校途中においても、子どもたちの安全確保に協力を得ることができている。その後も、登校指導において協力をいただける人が増えてきている。

#### イ 「こども110番のいえ」オリエンテーリング

本校では、地域の人といっしょに校区を見つめ直す活動を通して、柏野のよさや課題を捉える機会とするために、集団登校班で地域の「こども110番のいえ」の場所を確認し、校外での安全について考える場を設定した。

当日は、PTA・「柏野安心・安全まちづくり推進協議会」・「各種団体」の方々にお世話になり、登校班ごとに、自分の町の地図をもち、「こども110番のいえ」「普段から家におられる家（西陣織の箴の音が聞こえる家）など」の確認をして、地図に書き入れる活動をした。その取組の中で、子どもたちは、地域の方々の子どもを守るうとする熱い思いを感じた。



#### ウ 地域も子どももともに取り組む防犯教室

防犯教室の取組を通して、かけがえのない自分の命を危機から守る方法を知り、安全な行動がとれるようにする。

そのため、防犯教室では、「柏野安心・安全まちづくり推進協議会」主催による「防犯ワークショップ」の中で、暴漢に襲われたときの道具を使った対処の方法を見たり体験したりした。また、子どもやお年寄りが、安心して暮らすための町づくりについても話し合った。

一方、西陣警察署生活安全課の人による子どもへの防犯教室の取組では、自分の身を守るため、どのようにすればよいのかということについて話し合った。また、実際に声をかけられたときの相手との間のとり方や返事等の対処の仕方を学習した。

#### エ 子ども・保護者・地域が連携した救命講習

救急救命の講習では、大切な自分の命や家族の命を守るための方法について学んだ。

いかに早く異変に気づくかということ、救急車を呼ぶまでに人工呼吸等の応急手当ができるかということなど

## 2 取組の成果・課題

(1) 本校では、このような取組を、学校・地域が一体となって進めている。特に、「柏野まちづくり推進協議会」が中心となり、子どもの安全を核にした「すみよい町づくり」に向けた取組を進めることができている。

(2) お年寄り・女性・子どもなど弱い立場にある人々が「安心して暮らせる町づくり」を進めていくため、安心・安全のネットワークを地域でしっかり構築し、「住みよい町づくり」を目指すとともに、今度は自分たちにできることは何か考え、行動できる子どもに育てていきたい。



# 子どもの安全 = 地域の安心

朱雀第三小学校

## 1 取組の内容・方法

学校と家庭・地域が一丸となって、「地域の子どもは地域で守り育てよう」と『朱三子ども見守り隊』を組織し、活動している。今年度から学校運営協議会に安心安らぎ委員会を設置し、安心安全の街づくりに向け活動中である。

### (1) 学校の取組

- ア 防犯避難訓練（堀川警察署の協力）  
不審者の侵入を想定し児童は安全に避難する態度と習慣を身につけ、教職員は危機管理マニュアルに従い、組織的に行動する。
- イ 防犯・安全指導の徹底
- ウ 安全マップの見直し  
（ア）「こども110番のいえ」を盛り込んで  
（イ）危険箇所の再度見直し  
（ウ）立命館大学の協力で見易い地図に
- エ 朝の登校指導  
火・木の週2回教職員で当番を決め朝の声かけも含め実施



- オ 放課後のパトロール  
学年当番を決め校区内をパトロールする

### (2) 地域の取組

- ア 「こども110番のいえ」の再確認  
実際の様子を点検し、継続してやっていただけか・プレートが無くなっていないか等を点検し確認する。
- イ 子ども見守り隊の活動  
腕章・キャップを着用し、下校時に校門前や通学路で、子どもの安全を見守る。

### (3) PTAの取組

- ア 登校時の交通当番  
全学年の保護者で1年間の当番を決め、

登校時に校門前の交差点で安全に登校できるように交通当番をする。



- イ ストラップを付けての地域活動  
入学時にストラップを全家庭に配布し、授業参観をはじめ、学校に来るとき・買い物に行くとき・門掃きをするとき等ストラップを付けて活動する。



- ウ ついでパトロールの実施  
自転車の前カゴに「パトロール中」の札をつけ買い物に行く等、ついでにパトロールをする。
- エ 1年入学時に防犯ブザーを配布

## 2 取組の成果・課題

成果は運営協議会安心安らぎ委員会の設置、堀川署の協力等、地域ぐるみの安全に向け取組を進められたことだ。課題は、学校・PTA・地域・堀川署・スクールガードリーダーと連携した取組を更に充実させていかなければならないと考える。

## 地域が一体となった「あんしん・あんぜん」の取組

上鳥羽小学校

### 1 取組の内容・方法

#### (1)「あんしん・あんぜん上鳥羽推進委員会」の発足

学校評議員会や自治連合会から、子どもの安全を守るために、地域が一体となることができることはないだろうか、という声が上がリ、学校・PTAといっしょになり、平成18年4月に「あんしん・あんぜん上鳥羽推進委員会」が発足した。

- ・各団体に呼びかけ、パトロールの強化
  - ・「向こう三軒両々隣り」の取組の充実
  - ・安心・安全に関する啓発活動の推進
  - ・安全マップや幟旗、ポスターなどの充実
- 以上の4点を中心に取組を進めた。

#### (2)「向こう三軒両々隣り」の取組

子どもを取り巻く環境が改善されそうにない社会の緊急性を十分に踏まえ、「安全して暮らせる上鳥羽のまちづくり」を目標に取組が進められた。「小さなおせっかいがこちよい上鳥羽のまち」をスローガンにあげ、日々の町中でご近所どうしが声かけをする関係を作っていくことを目指した。そんな中で、昨年度より始めている「向こう三軒両々隣りー安心安全数珠つなぎマップ」の作成を継続し、隣近所と積極的に声をかけ合う仕組み作りの充実を図った。この取組については、立命館大学の石本幸良先生とそのゼミ生の協力のもと進められている。

#### (3) 地域へ広げ・つなげる取組

「あんしん・あんぜんパレード」



「あんしん・あんぜん上鳥羽推進委員会」の発足を広く地域の人たちに知ってもらい、

地域住民みんなで子どもたちの安心・安全を守っていこうという気持ちを高めた。当日は、府警音楽隊を先頭にカラーガード隊にも来てもらい、200名以上の住民の参加があった。

#### 竹プランターづくり

おやじの会が中心となり、竹プランターづくりを行った。作ったプランターは、校門前に飾っただけでなく、各家庭に持ち帰って、子どもたちの登下校時に家の外に出て水やりをする。そのことが、子どもたちの安全を見守ることになるとのねらいで作られた。



#### 納涼フェスティバル

夏祭りを通して、学区をあげて取り組んでいる子どもたちの安全を守る活動をさらに推進しようと開催された。小学校に集まった子どもたちは、通学路に関するアンケートに記入し、いっしょにやって来た大人たちは、安心安全の数珠つなぎマップへ協力シールを貼り向こう三軒両々隣りの取組の発展を目指した。

### 2 取組の成果・課題

「地域住民が地域の子どもの守ろう！」という思いで多くの取組が連動して行われている。しかし、広い校区であり、畑や工場などが多く、登下校時子どもたちが一人になることがある。向こう三軒両々隣りの取組を会社や工場などにも働きかけ、校区の隅々まで子どもたちを見守れるようにしていく必要である。



# 学校・家庭・地域みんなでみんなの子どもを育て 命を守ろう

## 岩倉北小学校

### 1 取組の内容・方法

本校では、従来から学校内の取組として、避難訓練、防犯訓練、学級活動の安全指導、1年生の交通教室を行ってきた。

また、不審者については、警察への通報により、不審者へ厳重注意がなされ、以後そのような大事はなかったが、その他声かけ事案は時々発生していた。そこで、子どもを守るため、学校・家庭・地域で様々な取組を行い、その成果もあがってきている。様々な取組をしているが、「安心・安全に関する啓発活動の取組」を中心に記述することにする。

#### (1) 安心・安全スローガンの設定

「学校・家庭・地域みんなでみんなの子どもを育て、子どもの命を守ろう」

「登下校時 子どもを一人にさせないで」

#### (2) 岩倉北学校安全会議 年3回実施

「学校運営協議会」の一環として7月・10月・3月に安全・福祉部会で協議・検討し、全体会で啓発活動の取組が協議・了承され、次のように具体化された。

ア 「みんなで見守りましょう」ポスター1100枚配布・地域掲示

イ 「防犯特別警戒地域」ポスターの地域掲示

ウ 腕章やウインドブレーカー着用による、子どもへの声かけ（子どもが公園などで一人で遊んでいるような時）

エ 子ども登下校時の見守り活動強化のお願い

(ア) 午前7時30分～8時30分

午後2時～4時30分

(イ) 防犯ブザーがなった時の駆けつけのお願い

オ 「こども110番のいえ」増設のお知らせ

カ 車や自転車につけるプレート・ステッカーの学校での準備と活用をお願い

キ スクールガードリーダーの方の活動報告

(ア) 登下校時の安全パトロール

(イ) 学区内危険箇所や気をつけたい場所の確認と共有など

#### (3) 学校安全推進講習会での安心・安全に関する啓発活動

ア 日時 平成18年11月27日（金）

イ 場所 京都市立岩倉北小学校多目的室

ウ 参加 左京北支部10校の学校・PTA・地域代表

エ 内容

(ア) 各学区の子ども安全を巡る取組や課題の情報交換

(イ) スクールガードリーダーからの報告

(ウ) 警察署・教育委員会学校安全課よりの報告・指導

#### (4) 安全学習の授業研究による啓発

ア 教科・領域 学級活動「交通安全」

イ 日時 平成18年10月26日（木）

ウ 場所 体育館

エ 学年・組 1年1組 32名

オ 主題 「みちをわたるとき」

カ ねらい 道路標識や標示の見方について知り、安全に横断する。



### 2 取組の成果・課題

本校では、学校運営協議会で「子ども安心安全・学校安心安全」について大議論をし、それを広報することにより、より安心・安全に関する啓発活動が進んだと考えている。議論の内容は「通用門の開閉について」である。当初は開放の危険性が多く語られたが、活発な論議の末、たとえ門が開かれていても、学校関係者だけでなく、来校される保護者・地域住民・各種団体の方など全ての方の目が、子どもの安全を守るという共有した意識をもって開放していこうという結論が出されたことは、「地域ぐるみで子どもを守る」という啓発になり成果であった。

課題としては、日常的に組織的に子どもを見守る意識や息の長い取組へと発展させることにあると考える。

# 地域ぐるみの安心・安全“ 守ろう境谷の子 ”

境谷小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 見守り活動の取組

「ほっこり亭」完成

暑い日も寒い日も子どもたちの安全な下校のために活躍いただいている地域の皆様。PTAの皆様。校門前ではなく前庭でお待ちいただき“地域コミュニケーション”も深めていただいで...！学習を終えた子どもたち。

お迎えの皆さんの輪にレッツ・ゴー！



11月12日落成式



あずまや『ほっこり亭』の建築現場。夏休み中の子どもたちがお手伝い。「早く完成して！」

### (2) 「見守り隊」

昨年度発足した「見守り隊」。今年、本校は“学校安全推進モデル校”に指定された。

【学校・保護者・地域一体となって校内防犯研修】



若手男性職員が2人がかりで不審者に。警察から「さすまた」実習を受けた。(左)

不審者侵入を想定した避難訓練。避難後に体育館で西京警察の方からお話を聞いた。(右)



洛西地域各小学校が本校に集っての学校安全推進会議。(左)

### (3) 広がる活動

夏休み前にはPTAより「安全アピール用ランドセルシール」(本校PTAオリジナル)を、同時に学校から防犯ベルを全児童に配布した。児童はその意味を十分に理解し、直ちにランドセルに貼り、また防犯ベルも大切に扱っている。



下校風景 後姿。PTAフェスティバルに出展された壁新聞にも大きく記載しアピールされた。

### (4) 保護者も立ち上がるぞ！

本校PTAオリジナルの首から吊り下げることができる名札が全家庭に配布された。来校時につけていただくことや、子どもたちが下校する時刻にあわせて玄関先まで出ていただいたり買い物に行っていただいたり、散歩していただいたりしている。学校まで迎えに来ていただける方も増えている。



## 2 取組の成果・課題

PTA・地域・学校が、連携を深め、有機的に結びつきながら、児童の安全確保のための取組を進めていったことは、それぞれの立場で安全に対する意識の高揚につながり大きな意義があった。

今後も、これらの取組が地域住民全体に大きく広がっていくことを切に願う。豊かな地域コミュニティの確立を！

# 紫明の仲間にあーりがとう

～笑顔がいっぱい 紫明小学校の  
安全を守るセーフガード～

紫明小学校

## 1 取組の内容・方法

### 「紫明セーフガード」の取組

相変わらず幼い命が犠牲になる痛ましい事件が各地で頻発しているが、本校では以前より育友会が中心になって登校時に保護者の方々に立ち当番をしていただいている。

さらに子どもたちの安全確保を強化するために、この夏より「紫明セーフガード」を発足させ、地域に住んでおられる方の力を借りることとなった。



(温かい眼差しを受け横断歩道を渡る子どもたち)

「紫明セーフガード」は現在9名の方で構成され、烏丸紫明の交差点を中心に通学路の要所に立って活動していただいている。いずれの方も完全なボランティアであり、そば降る雨の日も肌を刺すような寒い日も笑顔で子どもたちの登下校の様子を見守っていただいている。



(朝日を休いっぱい浴び 今日笑顔で登校)

## 2 取組の成果・課題

大きく2つの成果があると考えている。

児童・保護者・地域・教職員の防犯意識の向上がみられたこと

セーフガードの方々と子どもたちの間に心のつながりができたこと

に関しては、四者の意識にずれがあっては防犯上大きな成果は得られないが、セーフガードの方々の活躍の様子が、例えば児童の家庭の夕食の話題になるなどして各々の意識の向上に貢献している。

に関しては、日常的に児童やセーフガードの方から心温まる話を耳にすることがある。「この前1日休んだら『昨日どうしたん?』って聞かれましたわ。簡単には休めませんね。」「小さい子と違って大きい子はなかなかあいさつがでけへんのですけど、それもわかる気がします。それより他のことは一生懸命話してくれるので、こっちが元気もろおてますわ。」などと笑いながら話してくださることも多い。

今後の課題に関しては、

未長い取組にしていくための具体的な方策を考えること。

児童の安全をセーフガードの方だけに任せるという意識ではなく、地域全体でできることを考えて実践化できるようにすること。学校運営協議会の中でセーフガードのシステムの効果的な運用を考えて行くこと。

育友会本部役員さんが作ってくださった「紫明セーフガード」の方々の活躍を紹介したパネル





# 安心・安全まちづくり

金閣小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) PTA・ボランティア安全活動

金閣小学校では、以前よりPTAの自主的な見守り活動として愛護委員会が中心になって原谷地区は毎日、学校周辺地域では毎週月曜日、また長期休業明けには1週間毎日、児童の登校を見守る交通安全指導を行っている。

平成17年度には、PTAの方々による校区内の安全点検を行い、保護者や地域の方々からの意見



等を参考にして安全マップ(「こども110番のいえ」も明記)を作成し、約束やお願いも書き入れた「安全のしおり」という手作り冊子を発行した。児童への安全指導や保護者の取組を紹介することによって地域の繋がりを深めてもらうようにしている。

児童を取り巻く事件や事故が増加する中、これまでの愛護委員会の活動に加え、防犯推進委員、交通対策委員、平安レディースの方々も児童の登下校を見守る取組を進められている。

### (2) 地域各種団体の支援

平成18年6月に、地域の子どもたちを地域より多くの人々の目で見守り、育てていこうと、社会福祉協議会会長の呼びかけによって、各町内会長をはじめ、各種団体の協力により、「児童安全を守る会」を発足した。当初48名のスタートが、日に日に協力

していたける方が増え、また11月には社会福祉協議会との連携で、原谷地区独自の守る会の立



ち上げもしていただいた。

自分のできる範囲で、自分のできる時間帯で、活動を継続しておられ、子どもたちにも地域の方々にも見守っていることが一目で分かるようにと、黄色いウインドブレーカーや黄色い帽子、黄色いベストや安全ベストを着用し、温かい目を注いでいただいている。

## 2 取組の成果・課題

### (1) 地域との絆

毎日の登下校を見守っていただいていると、子どもたちと自然にあいさつが交わされるようになり、地域の方々とのコミュニケーションが少しずつではあるが広まってくるようになってきた。はじめは、掛けられた言葉に戸惑ったり、うつむいたまま横を通り過ぎたりしていた子どもたちも、いつしか大きな声であいさつを返したり、また自分からあいさつができるようになってきたりする子どもが増えてきた。まさに地域の絆が深まってきていることを実感できる光景である。



### (2) 安心安全まちづくり

児童をはじめ、お年寄りも含めた学区のすべての方々、安心安全な生活ができる金閣学区をめざして今後も定例的に会を設け、全体的な計画の見直しを行いながら地域・保護者のご理解ご支援のもと、息の長い範囲の広い取組を進めていく予定である。

# あんしん・安全 地域ぐるみの街づくり

大將軍小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 地域ぐるみの防犯活動を進めるにあたって

これまでの経過

本校ではこれまでより、少年補導委員会による登下校時のパトロールやPTAによる校門での朝の声かけ運動、西陣平安レディースによる防犯教室や下校時のパトロールなど、地域やPTAの協力を得て防犯活動を行ってきた。

さらに、昨年度より、社会福祉協議会や地域委員の皆さんによる、登下校時の声かけやパトロールも始まり、地域ぐるみの防犯活動のより一層の充実に向けて取組を進めているところである。



防犯活動の組織

- ・大將軍見守り隊 社会福祉協議会
- ・PTA 少年補導委員会
- ・地域委員 西陣平安レディース
- ・教職員

### (2) 家庭・地域・子どもたちへの啓発活動

「学校・地域・PTAによる話し合い」

地域ぐるみの活動をより一層充実させるために、今年度より、学校・地域・PTAの三者の連携を深め、どのような取組が必要か、また、どのような方法で実行できるかなど意見を出し合う場を持つようにしている。

この中で、子どもたちが安心して暮らせる地域であるためには、子ども自身の自己防衛能力を養うとともに、保護者や地域住民の防犯に対する意識を高めることが大切ではないかという意見が出され、防犯プレートの全家庭配布の他、啓発活動についても取組を進めている。

「防犯教室」

入学して間もない1年生は教職員が引率して集団下校を行っているが、5月からは子どもたちだけで集団下校する。そこで、毎年4月に西陣平安レディースの方々が、1年生を対象に紙芝居や腹話術を使い「防犯教室」を行ってくださっている。今年度は、民生児童委員の方にも協力していただき、合言葉「い・か・の・お・す・

し」で自己防衛の方法を学ぶとともに、いつでも思い出せるようランドセルに付けるカードもいただいた。



「フレンドリーサタデー・フレンドリーまつり」

PTA主催の取組である。この中で、西陣署の協力を得て「防犯」に関する活動が行れた。

子どもたちは保護者とともに、護身術を体験したり、PTAによる劇を見たりして、自ら身を守る方法を学んだ。



「こども110番のいえ」の更新



地域の方に、毎年「こども110番のいえ」として協力いただけるか確認し、更新していただいた家は、保護者も意識できるよう校内に大きく掲示している。

## 2 取組の成果・課題

学校とPTA、地域が連携して取組を進め、地域ぐるみで安全・安心の街づくりをしていこうとする意識が高まってきた。今後はこの取組が一層広がり、深まりのあるものになるよう学校・家庭・地域との一層の連携を進めたい。

# 学校・地域で子どもを守る

中川小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) これまでの防犯の取組について

- ア 児童の防犯ブザー携帯  
教室に防犯ブザーとさすまたを配備  
職員室にも防犯ブザーとさすまたを配備  
教室にインターホン設置



全児童防犯ブザー携帯

- イ 教職員の引率による集団下校  
スクールバスの学校発車の時刻に合わせて、一斉に集団下校を実施。



下校前に全員集合

一列に並んで下校

- ウ 本校は、中川・杉阪・真弓の三地区に分かれている。そのうち、杉阪・真弓地区の登下校は、スクールバスを使用している。



子どもを待つスクールバス

- エ 保護者・地域各種団体の方に配布して、校区に出かけるときは、使用している。



パトロール腕章

- オ 小野郷駐在所の方が、定期的に来校し校区内の巡回及び安全点検を実施し、スクールガードリーダーの方も時々来校している。

- カ 避難訓練（不審者対策）  
毎年、2月か3月に管轄の警察署の方の指導を得て、不審者対応の避難訓練を実施している。児童の避難誘導や不審者侵入時の教職員の対応について研修を深めている。

- キ 「安心・安全確保の人形」の設置  
地域の方から北山杉で作られた人形を2体いただき、道路沿いに設置した。毎日、子どもを見守っている。また、「こども110番のいえ」のプレートは、校区内に数多く設置した。



子どもを見守る人形

- ク 分団会（町別児童会）  
長期休業の前などに実施している。通学路を含め校区内に危険な箇所はないかなどについても話し合っている。

### (2) その他

- 避難訓練（火災・水害・地震・不審者）  
毎月の校内安全点検の実施  
交通安全教室（管轄の警察署の方による自転者の乗り方の指導他）

## 2 取組の成果・課題

教職員が引率して集団下校を実施していると、地域の方から「お帰りなさい」とか「こんにちは」、「ご苦労様」などと声をかけてくださることが増え、子どもからも声かけをしている。多くの地域の方に児童が見守られていることに感謝したい。静かな校区であってもいつ何時事件が起こるとも限らないので、油断なく一つ一つの取組を確実に実施していきたい。



# 学校・家庭・地域で取り組む防犯活動

新町小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 学校の取組

登校指導並びにあいさつ運動

- ・毎朝2カ所の校門前で教職員があいさつ指導を行う。
- ・毎月15日の学校安全日に教職員とPTA役員が主要交差点に立ち登校指導を行う。「子ども安心・安全パトロール」の腕章と名札を着用



交通安全教室の実施 年間2回  
放課後、教職員によるパトロールを実施  
スクールガードリーダーが、週に1日校区内の巡回及び安全点検を実施し、子どもたちへの安全指導をしている。



教室にインターホンを設置し、緊急時でも職員室と直接連絡がとれるようにしている。

### (2) 地域の取組

「子ども110番のいえ」に黄色いコーンを設置

子どもたちの安全を守るために、校区内100軒の「子ども110番のいえ」に、大型の黄色い三角コーンを設置していただくようにした。よく目立つように、なるべく道路に面した場所に設置してもらった。



学校では、子どもたちによく目立つ黄色いコーンの設置を知らせると同時に、何か身に危険がせまった時は、大声で助けを呼ぶ、逃げる、「子ども110番のいえ」に駆け込むことを指導している。自分たちの通学路のどこかに必ず黄色いコーンがあるので、子どもたちも地域で自分たちを守ってくれていると感じ、安心している。

また、黄色い三角コーンの存在は防犯効果もあり、設置してからは1件も不審者等の事件はおきていない。

### (3) PTAの取組



全校児童に防犯ベルを貸与  
校外補導委員会（PTA）によるパトロール活動

## 2 取組の成果・課題

学校・地域・PTAの諸団体が、連携を深め子どもたちの安全確保を進めていったことは、安全に対する意識の高揚につながっている。今後も、さらに協力体制を深め、子どもたちの安全を守る取組をしていきたい。また、よりわかりやすい安全マップを作成し、子どもたちの防犯・安全意識も高めていきたい。

# 安全・安心な学校を 地域とともに

仁和小学校

## 1 取組の内容・方法

仁和小学校は、上京区の西、北野天満宮の南に位置している。校区の北は今出川通、南は丸太町通、東は千本通、西は紙屋川に囲まれている。

全校児童は、毎朝、御前通（西門）と、下ノ森通（相合図子通・東門）から登校をしている。昔から集団登校やラジオ体操といった活動が継承されており、朝夕の登下校時には、東西の校門のどちらにも、地域の安全ボランティアの方やPTAの方々に立っていただいている。



メンバーは、『児童の安全を考える会』の皆さんを中心に、地域の多くの方で構成しており、仁和福祉団体連合会、PTA、学校教職員などである。



西陣警察署との交流も、ここ数年、充実している。教職員の安全研修では、実技も含め研修をした。学校安全に対して、特に不審者への対応についての基本的な考え方など、具体的な事例を想定し、対策の必要性を痛感した。

児童に対しては、全校集会で大將軍交番から来校され、不審者と関わらないよう、また、ついに行かないよう、繰り返し話をされた。日頃の担任からの話『ノー（いやだ）、ゴー（逃げる）、テル（家の人に言う）』と結びつけることができた。



また、1年生の交通安全教室では、交通巡視員さんに安全指導をしていただいた後、平安騎馬隊と一緒に集団下校をした。地域の学校安全に関わっておられる、たくさんのボランティアの皆さんも一緒になって、1年生を見守ることができた。



## 2 取組の成果・課題

『ふれあいの町・住みよい仁和』の合言葉通り、お年寄りから赤ちゃんまで、みんなで声を掛け合っている校区である。少子高齢化を考え、10年後、さらにその先を見据え、いつまでも子どもたちが安全で安心して過ごせるよう、『児童の安全を考える会』も、新たな人材を常に確保していかなければ、取組の継続が難しいと考える。

# 地域ぐるみで守る子どもの安心安全

二条城北小学校

## 1 取組の内容・方法

本校の安全教育では、年間を通して計画を立て、毎月校内の安全点検（各教室、特別教室、廊下、手洗い場、トイレ等）を行うとともに、交通教室、避難訓練を行っている。また、施設使用に関する安全指導だけでなく、登下校時の安全、家庭における安全等の教育も取り入れている。

今年度は、児童の登下校の安全を見守る『スクールガードリーダー』の制度の適用、地域での『見守り隊』の発足と、児童の安全を守るために、学校・地域の連携も深まっている。

### (1) 安全指導

4月の町別児童会では、通学路の安全を確認し、「こども110番のいえ」の場所や利用の仕方を話し合った。

### (2) 避難訓練

8月に行った避難訓練では、全校の訓練終了後、4年生が消防署・消防分団・自主防災団の方々と『防災体験学習』を行った。

煙の中での避難の方法を知ったり、火事が起こった時の初期消火（バケツで水をかけ消火する）、けが人の搬送の仕方（たんかやけがの時の包帯の巻き方や固定の仕方等）、消防車の役割、消防士の服装について、消防署への緊急通報体験（実際に電話をかけて通報する体験＝名前、住所、電話番号、緊急の様子等）などの学習をした。

防災について、様々な体験を通して学習した後、児童一人ひとりが「わが家の防災診断士」の認定証をもらい、意識を高めることができた。

### (3) 教職員の児童の安全を守るための研修

最近では、ニュースなどで、校内における緊急事態に対する安全対策も大きな話題になっている。本校でも、いざという時に、児童の安全を守るためにどう対応すればよいのか、不審者への対応の仕方を中心に警察署の方から話を聞き、実際の対処方法も交えて研修を行い、意識を高めた。

### (4) 聴覚に障害がある児童に対して

本校には難聴学級があり、ふだんから通常の学級の児童とも、学習や生活の場面で多くの交流をしている。難聴学級児童は、校内で緊急事態が起こった場合放送は聞こえないので、難聴学級教室に設置されているパトライトを使った訓練や、緊急の場合には、電光掲示板などの視覚的手段を駆使して大切な情報を伝える手段も工夫して実施している。

## 2 取組の成果・課題

### (1) 成果

成果としては、地域の方との連携が、児童自身の安全に対する意識の高まりにつながっていることがあげられる。

また、避難訓練の実施により、緊急時の避難の仕方だけでなく、ふだんからの備えが必要であることを理解し、家庭でも実行している児童が増えた。

### (2) 課題

課題としては、一部の児童だけでなく、難聴学級、育成学級も一体となった体制作りを今後さらに進めていき、より地域に根ざした安全体制を整えていけるとよいと考える。





# 安心・安全の学校づくり

～ 家庭・地域との連携を通して～

高倉小学校

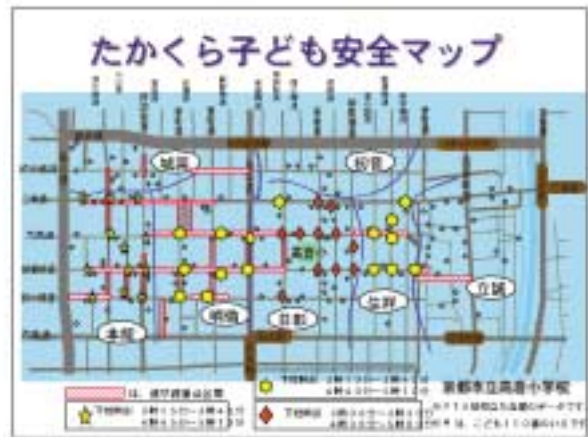
## 1 取組の内容・方法

平成16年度、子どもたちの安全を守る取組を充実させる必要があるのではという保護者の意見をもとに、学校・スマイル21プラン委員会・PTAが中心となって「どうすれば子どもたちの防犯対策を充実できるか」その取組方法を話し合った。その中で、「こども110番のいえ」と子どもたちをつなぐ取組を進めることは、子どもたちの安全を守る上で大切であることが確認された。しかし、実際に「こども110番のいえ」の場所を地域委員が調査したところ通学路に少なかったり、マンションに変わっていたり、形骸化していたりと問題点がいくつか指摘された。そこで、高倉校区の7学区の自治連合会長を中心に「こども110番のいえ」を通学路に増やす取組が行われ、40軒ほどだった数を140軒余りに増やすことができた。



平成17年12月には、スマイル21プラン委員会（学校運営協議会）が呼びかけ、「高倉子ども安全会議」がスタートした。安全会議では、学校と保護者や地域の方々为一体となって子どもの安全を守る取組について協議を進めている。

安全会議の構成メンバーは、7学区の自治連合会の会長、少年補導委員、防犯推進委員、PTA本部役員・地域委員、敬老会、女性会、そして高倉小学校教職員である。また、常時子どもの安全を見守ってくださっている「こども110番のいえ」の方にも随時会議に参加していただいている。地域・保護者の方には、子どもたちの下校時刻、立ち番の重点地域、「こども110番のいえ」の場所



等を明記した「たかくら子ども安全マップ」をその時に配布している。

会議では、各学区の子どもの登下校の様子や安全を守る取組について意見交流をしている。現在は、保護者や敬老会の方を中心に、登下校の子どもたちの見守り活動が展開され、見守り隊の方も増えている。また、「こども110番のいえ」には、毎月子どもたちが学校だよりを届けに行き、「こども110番の家」の方と親交を深めている。



## 2 取組の成果・課題

現在では、老人会や女性会の方が中心となって子どもたちが登下校する時刻に合わせて立ち当番や門掃きなどをしてもらっている。子どもたちの中で、その方々にあいさつをする子どもも増えてきている。

今後、学校・保護者・地域がそれぞれの立場で取り組めることを明確にし、高倉校区を安心安全のモデル地域になるように活動を広げていきたいと考えている。

# 地域・学校で守る子どもの安全

朱雀第一小学校

## 1 取組の内容・方法

最近、日本各地で子どもが被害者となる事件が数多く発生している。京都市内でも登下校中に用もないのに声をかけられたり、不意にたたかれたり、勝手に写真を撮られたりするなどの情報が寄せられている。

子どもを守るには、学校・家庭・地域が情報を共有しながら連携をとりあって安全対策を講じていかなければならない。

### (1) 学校における取組

#### 防犯訓練

本校では毎年、不審者が校内に侵入したという想定で、防犯の避難訓練を実施している。

教職員対象としては、不審者対応訓練を実施している。警察官が不審者役になり、教室に入ってきた場合を想定しての対応策を中心に、実地訓練を行った。

#### 防犯教室

1・2年生を対象に防犯教室を実施している。防犯ベルの使い方や不審者に出会った時にはどうしたらいいか等、堀川署の警察官に紙芝居を使って低学年の児童にもよくわかるように説明してもらった。

#### 安全管理

また不審者対策・校舎内の安全点検として、校内巡視を行うとともに、設備面では、正門にオートロック、正門と通用門に監視カメラ、各教室と特別教室には緊急連絡インターホンを設置し、緊急事態に素早く対応できるようにしている。

#### スクールガードリーダー

一週間に一度、スクールガードリーダーの方が、児童の登下校の時刻にあわせて、児童の安全確保のため、校区内を巡回パトロールしていただいている。

### (2) PTA・地域の取組

#### 交通当番

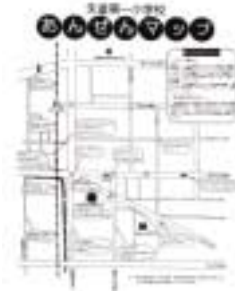
平成15年度秋より子どもたちの安全を守るための取組の一つとして、PTA朝の交通当番を実施している。PTA本部役員及び町委員を中心に、さらに交対協・女性会の協力を得て、交通量の多い場所や見通しの悪い場所などに旗

を持って立ち、児童の安全を見守っている。



#### 地域パトロール

教職員・PTA運営委員を中心に行う。「三条商店街春・夏の夜店」・「節分」の時のパトロールだけでなく、B I V I 二条における日常パトロールを実施。



### (3) 地域とともに「子ども見守りタイム」

朱一校の子どもの登校及び下校時刻に合わせて、戸外の用事を行っていただき、朱一校区のすべての皆様に継続的に子どもの安全を見守っていただく。



## 2 取組の成果・課題

学校と家庭・地域が連携を深め、子どもの安全確保のための取組を進めている。今後も家庭と地域の協力を得ながら、地域ぐるみで子どもたちが安心して生活できる学校・地域づくりのための取組を進めていきたい。

# 地域で見守る子どもの安全安心

崇仁小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1)「子ども見守りボランティア」の発足

本校は、校区の西に京都駅があり人や乗り物の往来がさかんである。一方で、昼間に人通りの少ない道や場所も見られる。それで従来より、子どもの安全確保については、学校をはじめとして、PTAや少年補導委員会等にも防犯ブザーの貸出やパトロール等でご協力をいただいていた。

そのような中、昨年1月に児童が不審者に声をかけられるという出来事が発生した。幸いにして大事には至らなかったが、子どもの安全を揺るがす出来事が身近な場所で起こり、地域全体で子どもたちを見守っていく取組をさらに強化していこうという気運が高まった。具体的には、自治連合会と小学校による呼び掛けで、「子ども見守りボランティア」を発足することにした。

### (2) 具体的な取組

「子ども見守りボランティア」の呼び掛けを通してお願いしたことの一つは、子どもの登下校時（特に午後2～5時頃）に合わせたパトロールである。その際には、「パトロール」と書かれた腕章やプレート（自転車用）を付けていただくことにした。これは、大人の姿が見えるということが、犯行の最大の抑止力になると考えたからだ。



もう一つは、「こども110番のいえ」に協力していただけたところを増やすことである。そして、実際に教員が子どもたちを連れて下校指導を行い、



自分の通学路のどこに「こども110番のいえ」があるのかを確認していった。

また、地域の安心安全ネットワークがつくられ、その取組の一環としてパトロール等で使用するウィンドブレーカーが配布された。遠くからでも夜間でも目立つこのウィンドブレーカーの活用で、地域ぐるみで取り組んでいる姿を、大きくアピールすることができた。

## 2 取組の成果・課題

自転車のプレートは、PTAをはじめとして、地域各種団体が多数装備していただいた。また、「こども110番のいえ」については新規に11軒の申し出を受けることができた。子どもたちの登下校や地域での活動の安全確保が以前にも増して図られるようになってきた。

本校では、創立130周年を機に、運動会・学芸会といった学校行事を地域と合同で行っている。保護者のみならず、地域の多くの方々が学校を訪れ、子どもたちの頑張りを目にさせていただく機会が近年増えてきた。こういった取組は、直接的な防犯活動ではないが、地域で子どもたちを見守っていくとするベースになっていると考える。今後も、学校と地域・保護者が一体となって、子どもたちの安全安心を保障していきたい。



# 小高連携「こども110番のいえ」オリエンテーリング

祥栄小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 取組の趣旨

最近、小学生が巻き込まれた事件事故の報道が毎日のようにされている。そこで、子どもたちに登下校時や日常生活において安全についての意識をより高めるために「こども110番のいえ」オリエンテーリングを行った。

主催は、祥栄ふれあい事業推進協議会であるが、実行委員会（少年補導委員会・PTA・学校・南警察署）を組織し、さらに本校は、塔南高校に「教育みらい科」が平成19年度に新設されるため、小高連携の一環としても取組を進めた。



### (2) オリエンテーリング

当日は、小雨がぱらつく中、83名の児童・保護者と塔南高校の生徒、実行委員あわせて160余名で行った。

コースは、校区を北コースと南コースの2コースに分け、子どもたちは自分が希望するコースを回ることにした。当日は、土曜日にもかかわらず両コースあわせて23カ所の「こども110番のいえ」に協力をいただいた。

子どもたちは、「こども110番のいえ」を塔南高校の生徒と安全マップを手に回り、各自のカードにシールを貼ってもらった。

南北両コース共に全員が時間内にゴールし、最

終のゴール地点でジュースをもらい、いっしょに回った高校生とも仲よくうちとけた様子であった。



## 2 取組の成果・課題

地域、PTA、学校が一体となり、さらに、塔南高校の生徒たちとも交流が深められた取組であった。

また、「こども110番のいえ」の地域住民の方ももちろんのこと企業の方も子どもたちの安全に関する意識の高さを改めて感じる機会になった。

今後は、地域ぐるみの安全対策がさらに重要になってくるであろう。そうした背景のもと、この取組を行った意義は大きい。

また、中学生や高校生の“眼”も大切になってくる。子どもたちをとりまくこういった二重三重の安全の眼をこれからもより確かなものにしていくことが大切であると考えます。



# 岩倉明德学区 みんなで守る 子どもたちの安全

明德小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 毎朝の地域・PTAボランティア活動

校門前で学校長とPTAボランティア活動の方が、朝のあいさつ・声かけをしている。

登校してくる子どもたち一人一人に声をかけ元気な声が返ってくるように笑顔で迎えている。

声をかけたときの子どもたちの声や顔色や態度などにも気をつけながら、子どもたちの心の安全にも注意している。

### (2) 通学路での安全活動

学校近くの横断歩道や大きな通りの横断歩道で、地域の方やPTAボランティア活動の方に安全な横断を見守ってもらっている。

子どもたちにとっては近所のおじさんやおばさんであり、安心して声をかけたり、笑顔を返したりしている。

元気にあいさつが返ってこない子どもやあいさつができにくい子どもには、何度も声をかけ、言葉を交わすことによる心の触れ合いを大事にしている。

### (3) 安全マップの充実と改訂

年度末の町別児童会前に安全マップを再配布し、子どもたちだけでなく保護者の目から見て、気になるところをチェックし、毎年5月には改訂版を作成している。

### (4) スクールガードリーダーによる地域巡回安全点検

週に一度、2時間ほどの時間をかけて、校区の安全を巡回点検していただいている。

単に朝の通学時間帯だけでなく、下校の時間帯や行事などで時間帯が変わるときなども、工夫して巡回していただいている。

不審な点がないか、巡回時に感じられたことを必ず学校に報告していただいている。

## 2 取組の成果・課題

### (1) 笑顔で迎える声かけ・あいさつ活動や横断中の安全活動の結果

ア 顔を見て、声をかけ合うことの大切さを意識できるようになった。

イ 担任だけでなく他の教職員やPTAの方や地域の方に、子どもたちの方から声をかけたり、自分の気持ちを伝えたりできるようになってきた。

ウ ボランティア活動をしていただいている方の子どもたちに関わる喜びが深まってきた。

これは、自分の子どもだけでなく、地域の子もたちを、自分たちの手で守ろうという意識の高まりにもつながっている。

### (2) 今後の課題

ア ボランティア活動をしてくださる方を増やす必要性

イ 地域の方への安全啓蒙活動

(ア) 自動車運転中の注意や駐車車両。

(イ) 地域と学校と保護者で作る安全サークルへの協力。

など、より多くの方が力を合わせて、子どもたちを見守っているということアピールできる校区づくりが必要である。



# 自らを高める防犯安全活動

鞍馬小学校

## 1 取組の内容・方法

本校の校区は山あいの細長い地域で、学校を中心に3地区から児童は登下校をしている。各地区は民家が集中しているが、学校周辺は民家が数軒しかなく人通りは少ない。また、山や道路・河川が迫っているため、観光シーズンになると他府県からの観光客が多く訪れ、車の通行も多く、防犯・交通安全上でも通学路は危険な状況である。

そのため、本校では、保護者の要望もあり数年前から電車や自家用車での登下校を行っている。

### (1) 登下校時の安全対策

登校時は、登校の時刻に合わせて電車の駅と歩道橋で、教職員が毎朝登校指導に当たっている。下校時は、電車で下校する児童には連れ立って出て駅まで行き家に帰ること、自家用車で下校の児童には、必ず保護者の方が教職員に声を掛けて確認を行うように下校指導を行っている。

また、児童と保護者の参加のもと、交通安全教室（自転車の乗り方を含む）を、現地（鞍馬寺山門前道路）で、駐在所・交通安全指導員の方の指導により毎年行っている。

なお、緊急時においては、PTAの本部役員・3地区の担当者に連絡を取り、児童によっては保護者と連絡を取り個別の対応ができるようにし、各地区の担当教職員の引率のもと集団下校を行っている。また、駐在所との連絡も行い安全確保に努めている。

その他の安全対策として、学校敷地内は東側が山で外部からの侵入者が考えられるので、敷地内への立ち入り禁止や、体育館の裏側の防犯カメラ・感知センサーの増設を行い、児童にもその場所に行かないよう指導に努め、職員の見回りも行っている。



【交通安全教室より】

### (2) 防犯意識の向上に向けて

本校では、以前から「防犯訓練」として、学校来校者に対する対応や、緊急時の児童の避難、警察官（駐在所）によるお話などに取り組み、児童自らが身の安全を守るための「防犯教室」を行い防犯意識の向上を図っている。

登下校に関わらず、日ごろから大人の人といっしょに、また、複数で行動すること

見知らない人から声をかけられても、絶対について行かないこと。

危険と感じたら、近くの家に飛び込む、大きな声で助けを求めること。等



【防犯教室より】

## 2 取組の成果・課題

保護者の危機管理の意識も高まる中、学校とPTAとの緊急時の対応について協議を行い、PTAの緊急連絡体制の見直しと、緊急時における登下校の安全体制が整ってきている。

地域においては、地元警察（駐在所）との連絡・連携を図れる体制も整ってきた。また、学校評議員の会でも児童の安全についての協議も行っているが、地域諸団体との連携・連絡体制は、まだ、十分に協議がなされていないため、今後の課題として残っている。

また、観光シーズンを問わず、観光客も増え、車の交通量も多く不審者が往来する危険性も高まってきているので、児童・保護者の危機管理意識を高めるとともに、交通安全についても取り組んでいかななくてはならない。



# 子どもたちとともに防犯安全活動

八柵小学校

## 1 取組の内容・方法

### 「防犯訓練」

実施日時 平成18年11月10日 2:25～

場 所 八柵小学校講堂

参 加 児童(17名), 教職員(10名)

講 師 下鴨警察署員, 花背駐在所員

犯罪はいつでもどこでも誰の身にも起こり得ると考えざるを得ないような多くの事件が頻発している。

本校は、京都市の最北端に位置し、市中心部より約30kmの距離がある。地形的には丹波高地の一部となり、冬季には豪雪地帯となる地域である。

このような地域において、不審者侵入等による犯罪はまず起こり得ないと考えがちである。

しかし、本校の校区内には国宝や重要文化財に指定されている大悲山峰定寺があり、他府県からの観光客もシーズンを問わず花背地域を訪れる。

また、自然の豊かな地域であるため、四季折々の自然の変化を求める多くの人たちが訪れる。

多くの人を訪れる地域であるということは、犯罪が起こる確率も高くなるということである。

現在、登校時は本校より約1km手前のバス停で下車した後、集団登校を行っている。下校についても本校前のバス停よりそれぞれの帰宅方面のバスに乗車して帰る。

このような通学経路の中では、子どもたちが道路を一人で歩くということは無いに等しいことである。

そして、校区内の道路を出勤時や帰宅時に自動車で行き交う地域の方々のほとんどは、子どもたちがどこの誰なのかを把握されており、道路を歩いている子どもたちは普段から地域の方々の温かい目で見守られている。

そのような防犯安全体制の中で、学校としても万が一の不審者侵入を想定し、誰がどう対処していくことが子どもたちの安全を確保していけるのか真剣に考え研修を実施した。



# 地域ぐるみで安心・安全への意識を高める

## 第三錦林小学校

### 1 取組の内容・方法

#### (1) 三錦みまもり隊の活動

平成18年5月17日に、「三錦みまもり隊」が発足した。子どもたちが学校や地域で安心して過ごせるよう、地域が一体となって取組を進めている。町別児童会には、みまもり隊のメンバーも各町内ごとの話し合いに参加し、子どもを含めてお互いが顔見知りとなるようにするとともに、日頃気をつけなければならないことなどについての意見交流をしている。そして、下校時には通学路の点検をしながらともに帰宅することにしている。このように日時を決めた活動の他、特に大切にしているのは常時活動である。長続きするように自然体での見守り活動を重視している。各メンバーが買い物など所用で近所を歩くときには、常に子どもの姿に留意し、気にかかる場合にはすぐに学校や警察へ連絡を入れる体制をとっている。

#### (2) 安心・安全メール配信

本年度、PTAホームページをたちあげ、それに付随したメール配信システムを組織的に活用している。保護者のうち90%以上が登録し、子どもの安全に関わる連絡を受信している。なお、事情で登録できない保護者については、該当者のみの電話連絡網を作成して、情報をできる限りすばやく伝達できるようにしている。

#### (3) 冷静な判断・行動

子どもを見守る活動や迅速な情報発信の他、本校では子ども自身が危険に遭遇した際、とっさに適切な行動がとれるようになることをめざしている。場面を設定し、ロールプレイ形式で不審者への対応についての学習を通して、自らを守れる子どもの育成に向けて取り組んでいる。さらに、子どもたちの学習の様子を、保護者やみまもり隊などのメンバーにも見ていただき、地域住民全体の安全への意識がより高まることを願っている。

### 2 取組の成果・課題

安心・安全への意識を高めていくためには、教職員、保護者を含めた地域住民、子どもという3つの方向からの取組が必要である。

1で述べた活動を通して、次のような成果と課題があらわれてきているように思う。まず、本校区にも不審者が出没し、子どもが声をかけられる等の出来事が発生したが、子ども自身の即座の適切な対応により直接的な被害には至らず、事件を未然に防ぐことができたことである。また、メール配信によって時間がたたないうちに警察、教職員、保護者、みまもり隊の緊急パトロールを実施することができた。地域や街全体で、子どもの安心・安全に関する意識が高いことを目に見える形でわかるようにすることが、大きな予防策になるのではないかと考えている。

犯罪は、いつどのように起こるのか予想もつかない。日常からの地域あげての取組の充実がさらに必要である。しかも、それが催し物的な実践ではなく、ふだんの生活から自然と醸し出される地域の空気にならなければならない。さらに、見守り活動をする人にとって、負担が大きいと長続きしない。このことから、他の地域で先駆けて行われている「ついでの見守り」(登下校時に合わせて門掃きや玄関の植木の手入れ、散歩などをしていただく)という活動を取り入れていきたいと考えている。「すべての子どもを地域で見守る」という考え方を定着させるためには、地域住民にとって愛着をもてる学校づくりをしていかなければならない。様々な学校行事を通しての子どもたちとの交流をはじめ、地域の方々が自分たちの学校として出入りしやすい環境づくりと手だてを検討していきたい。



# 地域ぐるみで守る子どもの安心安全

新洞小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 新洞子どもネットワーク会議

子どもの健やかな成長を見守るために連携・協力していくことを目的に平成17年2月に発足した。学校・PTA・民生児童委員協議会・社会福祉協議会・少年補導委員会の代表者等で組織している。毎月1回、定例会議を開き、情報交換し課題を確認し対策を練っている。その中で、「こども110番のいえ」の場所確認、協力者と子どものかわりについてや安全マップ作成について相談し進めていくことになった。

### (2) 「こども110番のいえ」の確認

子どもたちは「こども110番のいえ」がどこにあるのか、どんな人がいらっしゃるのか知っているだろうかということから「新洞子どもネットワーク会議」で企画した。

7月21日、町別集会で、子どもたちは、PTA地域委員会・社会福祉協議会・民生児童委員協議会の方々の協力を得て、教室で「こども110番のいえ」の位置を地図で確認した。その後、PTA地域委員会・社会福祉協議会・民生児童委員協議会の方々や教職員とともに集団登校のグループごとに出発した。子どもたちが訪問する「こども110番のいえ」には事前にPTA地域委員が訪ね、訪問日時等を連絡してお願いしている。

子どもたちは通学路沿いの「こども110番のいえ」を一軒ずつ訪問して「これからもよろしくお願いします。」とあいさつできた。



### (3) 学校・PTA・地域で点検！安全マップ

新洞学区は二条通、三条通、川端通、東大路通と大きな通りに囲まれ、交通量が多い。また、お寺やガレージもあり人通りの少ない通りもある。そこで、毎年、PTAの地域委員を中心に校区内の危険な場所や交通量の多い場所を点検、マップを作成し、各家庭に配布している。今回は子どもたち自身が通学路を歩き、点検することによって自覚を促すことにした。地域委員だけでなく「新洞子どもネットワーク会議」の民生児童委員協議会や社会福祉協議会、教職員もいっしょになって集団下校時に通学路を歩き、安全を見直していった。

各集団登校班ごとに気がついたことを持ち寄り、地域委員会で一つのマップにまとめた。子どもたちが興味をもつようにクイズコーナーも作っていただき、校内に掲示している。



## 2 取組の成果・課題

「新洞学区安全マップ」を地域委員会だけでなく地域・教職員・子どもがいっしょになって作成したことにより、地域の方の目で見えた学区内の危険な箇所は地域ぐるみで気をつけようという認識を新たにした。また、多くの保護者や地域の方とともに点検したことで子どもたちの意識が高まった。「こども110番のいえ」を地図上だけで知っていた子どもたちは訪問したことにより顔なじみになり、普段、家の前を通ったときにも気軽に声をかけてもらったり、あいさつを交わしたりできるようになり地域で見守られているという思いをもつことができた。



# 子どもの安全から地域の安全へ～松ヶ崎あんしんネットワーク通信～

保護者・地域の参画意識を高める広報活動の取組

松ヶ崎小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 学校安全会議の開催

P T A本部・地域委員会と学校が一堂に会して「学校安全会議」を開催し、子どもが犠牲になる事件や事故を防ぐための具体的な取組を起こしていくことが必要であるとの結論に至った。また、安全マップの見直しや、「松ヶ崎子ども110番の家」の設置などの活動をさらに充実させてきた。



### (2) 子ども見守隊の活動開始

子どもの安全を願う保護者のニーズが高まる中、まず、学校と保護者で「松ヶ崎あんしんネットワーク」を立ち上げ、見守り活動を開始した。活動の組織名を「松ヶ崎あんしんネットワーク」とし、「子どもの安全から地域の安全へ」との願いをこめた。この活動が地域へ広がっていかねば、子どもの安全と地域の防犯は実現できない。



### (3) 「松ヶ崎あんしんネットワーク通信」の発行

小さな単位の活動から地域の取組に拡大するためには、まず、この取組を多くの保護者・地域住民に知ってもらうことが必要だと考えた。

そこで、この取組の広報誌を発行することにした。紙面の工夫は、活動の様子がわかるもの、すぐに読める内容などにした。



見守り活動は毎日だが、毎週1回の統一行動日を設け、校区内の主要交差点などで見守りを行った。その活動の様子をタイムリーに発信したり、保護者の意識調査の結果公表、各種団体の参加の様子などを隔週の間隔で発行してきた。

### (4) キャラクターの作成

見守り活動には見守隊とわかるものが必用となる。活動を周囲に周知することが防犯効果につながる。また、子ども・保護者・地域の方にも親しみを持ってもらえるものがベストである。



このマークは大変好評で、今では、シンボル・マークとして定着してきている。現在20の協力団体が使用している。



### (5) 「松ヶ崎あんしんネットワーク」発足式

松ヶ崎あんしんネットワーク協力団体が一堂に会しての発足式を11月25日に実施した。活動の周知効果や多くの団体の協力で予想以上の参加者があり、地域全体の取組としての出発となった。



## 2 取組の成果・課題

学校・P T Aから始まった活動も今では多くの地域団体が協力するまでに育ってきている。安心・安全な町づくりの意識も高まっているように思う。今後は、「できる時に、出来る場所で」を活動の合言葉として、多くの保護者・地域の方が参加できる活動を継続させることが課題でもある。



# 白川キッズ「あんぜんたい」の活動

～活動を通じて家庭・地域に発信～

白川小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 安心・安全上の地域の様子

白川小学校は、粟田校と有済校が統合し今年で3年目をむかえる学校で、校区は四条川端から蹴上まで東西に広く、特に元有済小学校区の児童は通学距離が大幅に伸びた。

校区の東側は神社仏閣が多く、粟田山もあり、特に夜間の人通りは少ない。校区西側は祇園地域をはじめ、夜に賑わう繁華街があり、昼間の人通りは少ない。また、三条京阪付近には地下道もあるなど防犯上留意することは多い。

### (2) 取組の趣旨

今年度も学校評議員会の中で地域の関わり方について話し合われた。今年度、新たに3年生が作った「白川安全マップ」をもとに、集団登校時における安全の確保を無理なく継続的に行うことが大切であると確認された。

P T A や地域の方に協力を依頼したところ、今年度も多くの方がこの取組に協力して下さることになった。集団登校時に犬の散歩を兼ねて集合場所に顔を出して下さる保護者の方、朝の散歩を兼ねて子どもたちとともに学校まで歩いてこられる地域の方、そして登校途中の危険な個所に毎朝立って下さる地域の方など、子どもたちと関わりながら無理なく、安全を確保していただいている。

### (3) 3年生「白川安全マップ」の取組

総合的な学習の取組で校区探検に出かけたが、実際に探検に出かけると様々な発見があった。

円山公園が広域避難場所であること、災害のための器具庫が設置されていること、さらに地下鉄の入り口には火災時のために消火用ホースの接続口があること、そして最近少なくなった公衆電話には非常ボタンがあることなどである。

### (4) 安全マップの充実を図る取組

3年生は「安全」という視点をもって校区を

探検することで、自分たちの安全は様々な施設や多くの人たちによって守られていることに気付くことができた。そして、保護者を含む全校児童の前でこの取組を発表し、自分たちの作った安全マップを校内に掲示することで他学年の意識の高揚に役立てた。

昨年度までの経緯もありP T A、地域の方も学校からの協力依頼を非常に快く受け入れていただいているのが現状である。



## 2 取組の成果・課題

家庭・地域との連携による取組は小さなことの継続が大切である。先の取組以前より地域の方は子どもたちによく気軽に声をかけていただいております、その地域の特性と学校の取組と呼びかけとの相乗効果でここ数年P T Aの方の意識も変わってきたように思われる。誰もが安全に暮らせる地域を小さな取組の継続によってなしていきたいと考えている。

# 地域で見守る子どもの安全

新道小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 登下校時の安全

交通安全対策協議会の方々が、交差点や危険な箇所立って、交通整理や安全の呼びかけ等、安全指導をしたり、朝のあいさつを元気に交わしたりしている。

スクールガードリーダーの方が、月に3回、登下校時に校区を巡回し、子どもたちの安全を守っている。

また、集団登校時の登校班にPTAの地域委員が、子どもたちの安全を守るため、通学路を一緒に付き添って門まで送りどけています。



### (2) 新道安全マップの見直し

子どもたちの地域での安全確保にいかすために、安全マップを見直し作り直すことにした。4年～6年の児童や保護者に協力を依頼し、通学路の死角、人気の少ない場所、夜暗い場所などの校区の危険箇所を再点検した。その調査結果を集約し安全マップを作成し直した。最新の安全マップを子どもたちや保護者、地域の方々に配布し、安全マップをもとに子どもたちには安全指導をするとともに保護者、地域の方々には子どもたちの安全を守る活動の依頼をした。

### (3) 新道子ども安全見守り隊の結成

本年度、保護者や地域の方々の協力を得て、地域での子どもたちの安全を守るために「新道子ども見守り隊」を結成した。見守り隊には子どもたちの安全確保のために次のような協力を依頼している。

日頃、屋外で行っていること（門掃き、散歩、買い物、花の水やりなど）を子どもたちの登下校時に合わせていただく。

学区内パトロールをする。その際、自転車のプレートや腕章により抑止力の効果をねらう。

### (4) 「こども110番のいえ」オリエンテーリング

昨年度、「こども110番のいえ」を増設した。子どもたちがいざというときに「こども110番のいえ」を安心して利用できるようしたいと考え「こども110番のいえ」オリエンテーリングを開催した。休日に実施したため参加が少なかったが見守り隊の方や「こども110番のいえ」の方と顔見知りになれたのはよかった。



## 2 取組の成果・課題

見守り隊が結成され、子どもたちの安全を地域で見守っていこうという気運が生じたが、自主的に活動していただいているため、意識が低い方は消極的になりがちである。

せっかくパトロールをしていただいても、パトロール中とわかる腕章をつけておられない方が多いので効果が少ない。防犯の効果をあげていくためパトロール中とわかる腕章やジャンパーを着用したい。

地域やPTAの方々から町で子どもたちに出会ったとき挨拶など声をかけていただいていることがある。たんにパトロールをするだけでなく互いに挨拶を交わせる雰囲気町が安全安心につながると思う。



# PTA・地域とともに進める安心・安全活動

東山小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 登校時の見守り

本校は、平成14年度の開校以来、子どもたちの安全をみんなの力で守ろうと、教職員そしてPTA・地域の方々と協力して取り組んできた。特に登校時の見守りは、教職員が交通量の激しい交差点での安全指導に地域・警察の方々の協力を得ながら、毎日交代で当たっている。また、保護者の方々も率先して集団登校の付き添いや朝の通学路の安全指導に、開校以来努めておられる。子どもたちは、これまで大きな事故にあうこともなく、元気に登校している。今後も引き続き日常の安全確保をもとにした取組を充実・発展させていきたい。



～雨の中の「こども110番のいえウォークラリー」～

### (2) PTAとの連携

「子どもの安心・安全の確保は、まず保護者から」とPTAが、登下校を中心に安心・安全の取組を以下のように展開している。

#### ア 「こども110番のいえ」ウォークラリー

「こども110番のいえ」が校区全体に設置されているかの見直しを行い、その地図を保護者・地域に配布している。また、子どもたち・保護者が通学路にある「こども110番のいえ」を早い時期に覚えることができるように、5月に「こども110番のいえウォークラリー」を実施した。子どもも地域の方もお互いに顔見知りとなり、登下校時に気軽に挨拶が交わされるようになってきている。これに先立ち、就学前の体験入学時にも実施した。

#### イ 「みまもりグッズ」の製作

遠くからもはっきりと分かる安心・安全のオレンジ色のジャンパーを着用し、通学路に立ち、見守る保護者。また学校に用事がある時にも、気軽にそのジャンパーを着用してパトロールも兼ねておられる。PTAの「今す

ぐ取り組める事をみんなでしよう」という呼びかけに、自転車には、「こども安心・安全パトロール中」のステッカーの取り付け、腕章の着用、子どもが作った「防犯標語」を玄関先に貼るなどの活動にも取り組んできた。そして、地域委員が作成した「安全マップ」は、すでに下敷きタイプで全児童に配布されている。さらに子どもたち・保護者に安全への意識を高めてもらおうと、「夏休み親子でできる校区の安全チェック」を呼びかけ、安全マップの更なる見直しが実施された。また創立5周年記念として「防犯ブザー」も子どもたち全員に配布されている。

### (3) 地域との連携

地域の方々には、児童への見守りとして登下校の際に散歩・門掃き・水やり時等に「声かけ」をお願いしている。そして、子どもが作成の「安全標語」や「ポスター」を家の前に貼るなど、地域が一体となって子どもを見守る環境がつけられている。また、地域の「安心・安全部会」とも連携し、「子どもみまもり隊」のボランティアが日常的な活動を続けている。特に児童館から自宅までの帰路には、夕方となるため自宅付近まで付き添いも行われている。



～児童館(帰路)での見守り活動～  
(帽子に反射ベルブを着用)

## 2 取組の成果・課題

子どもたちの安心・安全の確保のため、PTA・地域と連携した「見守り活動」が推進された。しかし以下の点でまだ課題を残している。

- ・子ども自らが、自分自身の安全に対する意識をさらに高める安全教育を推進する。
- ・安全への保護者の更なる主体的な参加を図る。
- ・継続した取組となるよう、地域ぐるみのボランティア活動をさらに充実した組織にしてい

# 地域ぐるみで 子どもを守る

～ 新林子ども安全システム～

新林小学校

## 1 取組の内容・方法

### (1) 新林子ども安全システム

児童の登下校における安全確保のために学校・PTA・地域が会議を重ね「新林子ども安全システム」を立ち上げた。これは、各学年の授業終了に伴い開門時刻を決め、集団となって下校する。このことにより一人で通学路を歩いて下校する児童が減る。また、その時刻に門から各町まで地域の方が児童と一緒に下校してもらっている。

学校だより、地域新聞などで保護者の方・地域の方に児童の登下校時に通学路に出て、見守ってもらうように呼びかけ、徐々に定着してきた。

また、全児童に防犯ベルを貸与し防犯に役立てている。防犯ベルの使い方、携帯の仕方などを徹底指導し、登下校の際に必ず携帯させている。

### (2) 安全マップの充実

年度当初に町別担当の教師が各町別の通学路を児童と一緒に下校し、安全点検を実施し、その年度の安全マップを作り上げ、出来上がった安全マップをもとに児童に指導し、危険な場所を確認したあと家庭・地域に配布し、見まわりなど協力してもらっている。また、PTAの方と教職員が定期的に通学路を点検し、安全マップを常に更新していくようにしている。

### (3) 地域との連携

学校だより、地域新聞などで、地域で児童への声かけ、あいさつ運動をしていただるように呼びかけている。PTAの方や教職員も定期的に、登下校時に校門、学校外に出て声かけ運動を実施している。また、地域の諸団体の協力を得て、この声かけ運動を地域ぐるみ運動として展開してもらっている。

## 2 取組の成果・課題



< 下校時刻まで待つ子どもたち >



< 待ち受ける保護者と帰る子どもたち >

### (1) 成果

新林子ども安全システムについて学校だより、地域新聞などで知らせて、保護者、地域の方にこの取組について理解と協力を得られるようになってきた。

### (2) 課題

学校・家庭・地域との連携による取組は、今後も無理なく継続していくことが大切だと考えている。このための働きかけ、工夫をどうしていくかを考えていかなければならない。

---

---

平成18年度 文部科学省委嘱

**「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」  
報 告 書**

---

**京都市教育委員会体育健康教育室**

〒604-8091 京都市中京区寺町通御池下る本能寺前町500-1  
中信御池ビル6階

TEL (075) 2 1 3 - 5 4 7 2

FAX (075) 2 1 3 - 5 4 7 6

平成19年3月31日

---

---





